

# 2000 AIDS文化フォーラム in 横浜

## 報告書



# 【総合目次】

● 「2000 A I D S文化フォーラム in 横浜」ごあいさつ	1
● 開催概要	2～11
・ 継続するA I D S文化フォーラム（開催経過）	2
・ 会場風景（写真）	6
・ 寄稿「私にとってのA I D S文化フォーラム」	8
・ 会場図	11
● プログラム報告	12～55
・ 発表プログラム	14
・ 展示プログラム	35
・ 実行委員会特別プログラム	
「岡田美里と語るエイズ」	41
「神様がくれたH I V」	48
・ 関連プログラム	54
・ ボランティアについて	55
● 資料編	56～60
・ 新聞等への掲載記事	56
・ 支えた人／グループ一覧	60
● 付録	
・ ライフ・エイズ・プロジェクト ニュースレター 30号	61～74
*巻末よりお読み下さい。	

## 「2000 AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の報告

1994年から7年間「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催できたことを、皆様方に感謝するとともに、喜びを分かち合いたいと思います。

このフォーラムは市民による市民のためのフォーラムとして、今年もボランティアによる手弁当型で運営することができました。

世界そして日本で、確実に感染者が増えているにも関わらず、社会的な関心が低下してきているという現実を踏まえ、原点に戻り「いま、ひとり一人ができること」を今年のテーマとして、64のプログラムを実施し、3801名の参加を得ました。

参加者は、北は北海道から南は宮崎まで、さらに海外はボストンからの参加もありました。会場運営は、13歳から70歳までの総勢100名のボランティアによって例年以上にスムーズに行われました。特に中学生、高校生のボランティアが多く参加してくれたことは、今後に向けて心強い限りでした。

今年の特徴的なプログラムとして、HIV/AIDSについてボランティア活動をされているタレントの「岡田美里さんとエイズを語る」イベント、性行為でHIVに感染した女性の話「神様がくれたHIV」、  
「女性用コンドーム」「低容量ピル」といった女性をテーマにした領域のプログラムが多く加わりました。

薬害エイズ、性感染症としてのエイズに加えて「薬物乱用とエイズ」のプログラム参加があったことは、このフォーラムがHIV/AIDSの新たな課題に対し、受け皿を広げていることの表れでもあります。

また浅井淳子写真展「愛情は大切な薬です」では、ルーマニア国内でHIV/AIDSに苦しんでいる子供たちの姿を伝えてくれました。さらにジャズコンサート、アクションペインティングなど、音楽や美術からのアプローチという文化フォーラムらしい取り組みも印象的でした。

全国各地でHIV/AIDS活動に関わる方々の活動状況、情報が会場の中でシェアされ、関係者の交流がすすんだことは嬉しいことです。そしてそのことが「いま、ひとり一人ができること」を具体的に実行する、HIV/AIDSに関わる人達のエンパワーメントになったことを確認しながら、参加者の皆さんと一緒に、新たな世紀の「2001 AIDS文化フォーラム in 横浜」への取り組みをスタートさせたいと考えています。

2001年3月1日

「2000 AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員長 山根誠之  
実行委員長 広瀬 誠

## 継続するAIDS文化フォーラム

(開催の経過)

### 1 開かれた場

『「AIDS」というキーワードは、人間のことを真剣に考える切り口の一つだと思います。そういうキーワードに人が集まるとキマジメでないと許されないという雰囲気になりがちです。文化フォーラムのすばらしさは、握り拳をふるわなくても参加していいというスタンスにあると思います。これは大事にしていきたい。』ある実行委員の言葉です。

『AIDSという病気に影響を受けた人たち、今後、確実にこの病気に出会っていく人たち、特別な病気ではないけど、特別に関わろうとする人たちが、人間の根源に関わる切実な課題を、多様性という最も人間的なアプローチで、社会と自らの偏見と差別のハードルを超えて、安心できる場を成立させること』が、文化フォーラムの文化の所以です。

### 2 多様性と手弁当

自分の言いたいこと、やりたいことを持ち寄って全国から集まる文化フォーラムの参加者は、北海道の医者も、九州の弁護士も、千葉の教師も、都内の歴史あるNPOも、横浜で動き出したばかりの市民グループも、みな同じ条件、手弁当で集まってきます。

このフォーラムのフィールドには、医療・教育・人権・女性・企業・異文化・セクシュアリティ・ボランティア・若者・命・PWA（患者・感染者・家族）等の幅広い視点と、シンポジウム・講演・ワークショップ・公開授業・電話相談・映画・写真展・スライド・朗読・舞踏・合唱・ビデオ・キルト・展示といった様々な手法が、バイキング料理のように並びます。全国からの参加者も、自分の求めるものを得ながら、自分の経験と情報を提供していきます。そういう対等で双方向の関係が、開かれた場を実感させてくれます。

### 3 開催の経過

#### ▷ 市民のフォーラム

AIDS文化フォーラムは、1994年8月に

横浜で開催された「第10回国際エイズ会議」に連動して始まり、医療関係者中心の国際エイズ会議（参加費8万円）に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で、国内のNGO・NPOが集い、様々な視点でHIV/AIDSの問題に取り組み、偏見と差別でのみ語られたAIDSという病気に対する市民レベルの新しいアプローチとの高い評価を得ました。

そして「この成果を一過性のものに終わらせることなく継続して」という全国からの強い要望を受け、第2回（1995年）、第3回（1996年）と、開催を継続してきましたが、HIV/AIDSに関するマスコミ報道の激減など社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少やプログラムのマンネリ化という様々な課題も明らかになりました。

#### ▷ 新たな工夫と挑戦

第4回（1997年）を開催するに当たり、徹底した評価・検証の中で、「社会的な関心が落ち込んできている時だからこそ、より積極的に打ってでよう」という結論に達し、実行委員会主催のシンポジウムや、より多くの関心を得るために映画を上映したり、手を上げてくる参加団体を待つだけでなく、教育や企業、PWA（患者・感染者）といった幅広い視点で参加してほしい団体へ積極的に呼びかけていくこと、更に、会場を県国際交流協会から、より交通至便のかながわ県民センターに移し、幅広いボランティアの参加の可能性を探るとともに、会場規模も倍に拡大し、新たな挑戦の年としました。

その結果、4,600人（前年の約3倍）もの入場者を迎えることができ、低落傾向に歯止めがかかりました。関心が低下している状況でも、一か所にエネルギーを集中させれば、いままで集まりきれいでいなかったエネルギーが、行き場を見つけて集まってくるし、AIDSに関する潜在的な関心は決して低くなかったという自信も生まれました。

## ▷ 量から質へのシフト

そして第5回(1998年)は、ターゲットを絞り全国の拠点病院やエイズ教育推進校に参加を呼びかけ、過去最高の5,700人の参加者を迎えることができました。しかし、3日間にギュウギュウに詰め込んだプログラムと、参加者の大幅な増加は、落ちつきのない参加者やボランティアの動きを生み、実行委員も会場運営だけに追われ、自分たちは何を提供するためにこのフォーラムを開催しているのかという原点の問い直しがでてきました。特にボランティアが成長する場として機能しきれていないという反省が大きくなりました。

そこで第6回(1999年)以降は、ゆったりとした会場構成と時間設定、そして、複数のチーフボランティアを中心とした事前ワークと自主的な会場運営など、新しい工夫が加わりました。結果、入場者は3千人台と半減しましたが、各コマとも落ちついた議論と交流を生み、ボランティアの活躍や、全国からの専門職の参加は、量から質の市民フォーラムへの新しい一步を確認させてくれました。

## 4 フォーラムの仕組み

このフォーラムは、第1回から地域の民間団体等が、責任の所在として組織委員会を作り、県内のHIV/AIDSに係わるキーパーソンたちが、実行委員としてフォーラム全体のフレームを企画・構成し発表を全国に呼びかけ、その中で全国の市民団体が手弁当でコマ毎の講座などを主催し、会場運営を市民ボランティアが支え、参加者は入場無料とする。という体制を創ってきました。言わば基本ラインは全て市民が担ってきました。

今回(第7回)も、事務局を横浜YMCAが引き受け、横浜商工会議所、エイズ予防財団等が資金を提供し、13歳から70歳のボランティア100名が会場運営を支えました。

また、行政との連携という点では、県衛生部は、映画の上映や、写真展で、横浜・川崎市も展示や講座でフォーラムに参加し、市民が作った枠の一コマに行政が参加するというスタイルをとっています。

さらに、「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という従来からの発想を、「市民側が専門職に情報交換と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転させ、今では市民団体のみならず全国の医療や教育の専門家たちからも、横浜の夏の恒例行事としてすっかり期待されています。

このフォーラムが行政主導のイベントだったら、3年目の入場者の減少の段階で「初期の目的は果たした」として打ち切られていたかも知れません。運営費に税金を使わず、側面協力を得るだけで開催してきた自律的な活動だからこそ続いているのだと思います。

## 5 継続することの意味

このフォーラムが継続できている事の社会的な意味はとても大きいと思います。それは毎回数千人の人たちが参加する国内では、唯一の全国規模のHIV/AIDSに係わる情報交換と交流のかけがえのない場になっていること。また、この全国規模のフォーラムを市民のネットワークが支えていること。

これは、市民が地域で全国規模の催しを支えるとてもいいモデルとなると思います。自律した団体や個人が、お互いに本当にやりたいこと伝えたいことを独立採算で持ち寄り協力して働くことで、大きな力を生み出すというこのスタイルは、個々の持てる力を紡ぐ中で、信頼関係という副産物も作りだします。

そしてこの信頼関係が、時代に沿った知恵を生み、継続する力となります。AIDS文化フォーラムの、このスタイルが、様々な課題やテーマに応用されることを期待します。

## 6 これから

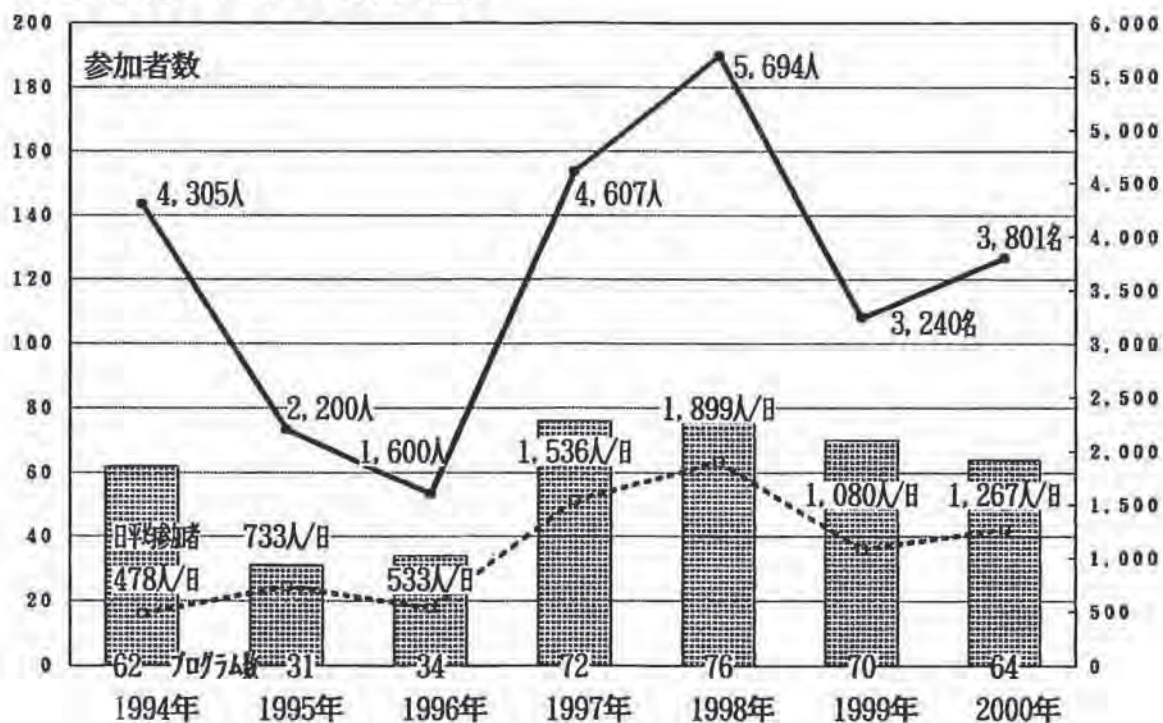
手弁当で集い始めたこのフォーラムも、いまや7回の開催実績の中で、全国から期待される存在となっています。期待に応える心地よい責任感の中で、いつも時代のニーズを見きわめ、新しい動きをリードする学び合いの場として、これからも継続できればいいなと考えています。皆さんとともに。

AIDS文化フォーラム実行委員会

## 7 参加者等の推移

回数 概要	第1回 1994年	第2回 1995年	第3回 1996年	第4回 1997年	第5回 1998年	第6回 1999年	第7回 2000年
開催日 開催日数	8/6-14 9日間	8/11-13 3日間	8/9-11 3日間	8/8-10 3日間	8/7-9 3日間	8/6-8 3日間	8/4-6 3日間
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター			
プログラム数 (1日あたり)	62 (6.9)	31 (10.3)	34 (11.3)	76 (25.3)	76 (25.3)	70 (23.3)	64 (21.3)
参加者数 1日の平均参加者	4,305名 478名	2,200名 733名	1,600名 533名	4,607名 1,536名	5,697名 1,899名	3,240名 1,080名	3,801名 1,267名

■ 文化フォーラム7年間の推移

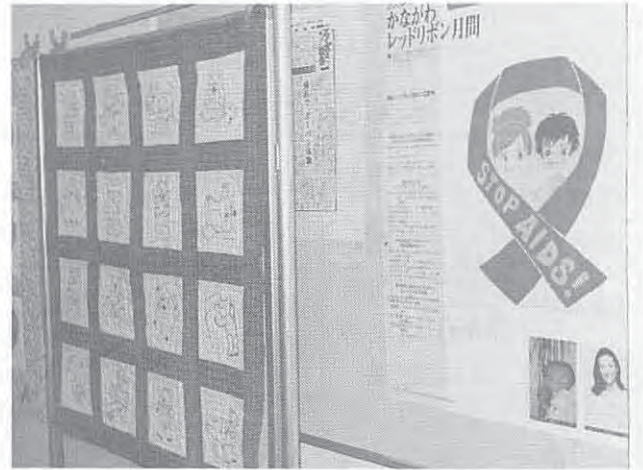
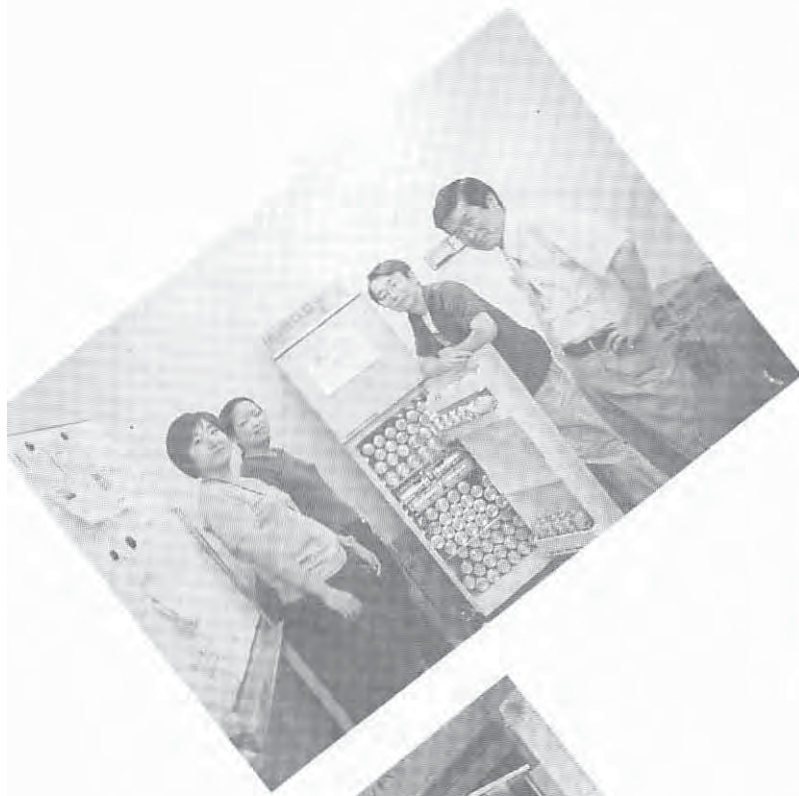


# AIDS文化フォーラム

## 開催の概要と経過

年	94	95	96	97	98	99	2000
回	1	2	3	4	5	6	7
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター(特-センター)			
会議室数	3会議室			6会議室	8会議室		
他の会場				ホール 展示場			
開催日数	8日間		3日間				
開催テーマ	市民と海外 NGOによる AIDS会議	ともに 生きる	ともに 生きるから 連帯へ	未来への つどい	インポート 自立と共働 にむけて	いまを 生きる	いま、 一人ひとり ができること
プログラム数	会場内 58 会場外 4	31	34	72	76	70	64
実施主体	個別プログラム毎に団体が責任を持つ			+実行委員会企画を加えテーマを深める			
話 題		職能とエイズ	性暴力とAIDS	映画：秋桜	TV番組の放映	職能の再評価	女性プログラム
	PWAの主体的な参加						
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801
特 徴	感染経路を問わず、エイズとそれを取り巻く状況を、多様に考えていく						
市民版 AIDS誌 として		参加者の減少傾向		参加者の増加傾向		減少	安定
参加 団体	東京の団体 が中心	地元の新しい団体の参加 (実験的プログラム)		様々な市民活動グループの参加 (県民活動特-センター-利用団体の参加)			
来場者	会議参加者 と一般市民	地元の市民が中心		全国からの参加		一般参加者の減少	
				医療・教育関係者の増加		全国からの専門職の増加	
広報	ポスター・パンフレット			暫定プログラムで配布し版を重ねる。種々の断、エイズ相談にも対			
マスコミ	取り上げ大	減少傾向		毎年夏の定番記事としての取上げ			
社会背景	アジアで初 の国際会議	薬害エイズ の報道増加	薬害エイズ の和解	カプセル療法	障害者認定	ピル解禁 感染症予防法	女性用コンドーム 薬物乱用も
組織委員	民間団体の代表者(7名)で構成し、フォーラムの社会的責任を担う						
実行委員	約50名	15名	15名+毎年2名位づつ実行委員の増				
実行委員 の構成	プログラム 参加団体	医療関係者と、HIV/AIDSに 係わるボランティア団体関係者中心			HIV/AIDS関連活動以外の ボランティア経験者も参加		
新委員会 開催状況	3回	4回		約15回(準備会も含む)			
				小委員会も開催			
報告書	未作成	A4版/54頁	A4版/54頁	A4版/120頁	A4版/76頁	A4版/68頁	A4版/80頁
	「活用できる報告書」を目指し作成						
ボランティア	会場運営に市民ボランティアを公募						
	かながわエイズボランティア育成講座(県からYMCAに委託)						
	かわさきエイズボランティア講座(川崎市事業)						
	夏休み中の学生ボランティアの増加						
				+ボランティア担当実行委員		チーフボランティア制度	
事務局	横浜YMCA						
窓口	県国際交流協会・交流ラウンジ			30人会議室	+ロビー	90人会議室+ロビー	
課 題	継続	社会的関心の低下・人権		ボランティアのコーディネート		内容と対象の明確化	

# 会場風景（写真でみる）





# AIDS文化フォーラム



### 寄稿

#### 「私にとってのAIDS文化フォーラム」

このたびの報告書の作成にあたり、これまでAIDS文化フォーラムにさまざまな形で参加して下さった方々に寄稿をお願いしました。ご多忙な毎日にも関わらず、快く原稿を寄せて下さった方々に、心より感謝申し上げます。

#### 「AIDS文化フォーラム 印象記」

船山道敏 (医師)

「2000 AIDS文化フォーラム in 横浜」が8月4・5・6日の三日間、かながわ県民センターにて開催された。小生は関心のあるプログラムに出席して、エイズについて多角的に捉えるよいきっかけになった。いくつかの会場で見聞きした感想を綴ってみた。

#### 『エイズ患者診ます』

福岡県豊前市の西村有史先生は開業医の立場で、HIV患者とじっくりと向き合ってきた。また、中学生や高校生などを対象にエイズに関する講演を行っている。この日はエイズ治療の最新情報を平易な言葉で説明されたのでよく理解できた。西村先生は常に相手の立場に立って物事を捉えていて、患者さんに対する思いやりが、日頃の診療の基本的なスタンスであると思われた。

#### 『神様がくれた HIV』

保健婦である北山翔子さん(ペンネーム)は、JICAのメンバーとしてタンザニアに派遣された。恋人であった現地のサファリガイドの青年から感染した。そのときタンザニアの友人の看護婦が「神様はね、その人が乗り越えられるだけの苦勞をお与えになるのよ、大丈夫、あなたならきっと病気を乗り越えられるわ」と言ってくれた。絶望に陥っていた彼女にとって、この言葉がどんなに勇気づけられたことか、しみじみと語っていた。エイズ専門医の岩室紳也先生とのトークショウのスタイルで進められた。先生の時にはユーモアで問いかけ、時にはするどく核心に触れるメリハリのある

インタビューに、彼女も巧みにリプライし、あっという間に2時間が過ぎてしまった。すべてをさげ出した彼女のスピーチには説得力があり、聴く者にさわやかな印象を与えてくれた。

その他、HIV不当解雇、薬害エイズのフォーラムにも参加し、厳しい社会問題の一断面をかいま見た。

かつては、エイズ患者は社会の偏見の渦巻く中で、常に死と直面しなければならなかった。しかし、最近の治療のめざましい進歩により、彼らが地域の中でどのように生きていくか、「感染症と共にいける社会」がこれから求められるテーマとなる。それにはエイズ、HIV感染症を正しく理解することが大切である。

今年のフォーラム初日に実行委員の1人が「ここで得た知識や情報を持ち帰って、周囲のみなさんにぜひ広めてほしい」とあいさつされた。小生の印象記がその役割をほんのわずかでも果たせれば幸いである。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### 「私とAIDS文化フォーラム」

養護教諭 メーメー (ペンネーム)

私とAIDS文化フォーラムとの出会いは1998年の夏でした。

私は養護教諭をしており、当時は、文部省指定エイズ教育推進地区の小学校に勤務していました。

エイズ教育推進とは何を行うのかというと、町立幼稚園・小中学校・(県立)高等学校が3年間、揃ってエイズ教育に取り組み、最後の年に研究発表会なるものを公開するのです。私は3年間のうちの2年目からその町内の小学校に勤務し、文化フォーラムに参加したのは、研究発表会を3カ月後に控えた夏休みでした。

私は、研究発表会当日は、5年生の保健体育の

授業「けかの予防」でT-T（ティームティーチング）で担任とともに指導にあたることになっていました。それ以外に発表会当日に何かを公開するようには言われていませんでした。しかし、やはり養護教諭という立場から、担任とは違った視点で、例えば掲示物や児童保健委員会での活動、保健指導という形で何かを残したいと考えていました。

そんな時、文化フォーラムの案内を見た学校長から、「短期研（教員が出張扱いで研修に行くこと、旅費等一部補助が出る）として、ぜひ行ってらっしゃい。」と勧められました。内容を見たら、盛り沢山でとても楽しそう？なメニュー、しかも入場無料とあり、「是非行きたい。」と思ったのも確かですが、義務感にかられて参加という気持ちの方が大きかったような気がします。

そんな動機で参加したのですが、私はここでまさにエイズに目覚めたとも言っている3日間を過ごしました。感想を一言二言では語れませんが、一番強く感じたことは、ひとりの人間として、エイズについてじっくり考えることができたということです。

私にとって、それまで「エイズ」とは、「エイズ教育」でしかなく、しかも、そのことに気づいていませんでした。写真展「いのちの贈り物」を見て感動して泣けた時、それに気づきました。ここで研修したことを、エイズ教育・保健室経営・研究発表会でどう生かすかとか、先生方の役に立つように伝えなきゃとか、そんなこと考えない方がエイズのことをよく理解できる。自分のためだけに勉強していけばいいんだ。そう思うと気持ちが楽になり、エイズを学ぶことが楽しくなりました。

ある講座の途中で、参加者の一人が「私は感染者ですが・・・。」とカミングアウトされたり、感染者として講座で話をされた若い男性が、その後の休憩時間に、仲間と談笑する姿を見かけたりする中で、この文化フォーラムの会場全体に、「共生」という空気が流れているのを肌で感じました。そして私は、その中で生きたエイズ教育を受けました。

同僚や近隣の養護教諭は皆都合が悪く、私は一人で参加したのですが、一人だったからこそ、い

ろいろな人との出会いがあり、じっくり考えることもできました。

そして、ここで学んだこと、考えたことを皆に伝えたい、また自分自身の感動を忘れないためにも、レポートとして残すことにし、小冊子を作成し、校内の職員や町内の養護教諭に配布しました。また、9月の身体測定の際に、高学年の児童に文化フォーラムで聞いた話の一部を話しました。

しかし、やはり私が受けた感動そのものを人に伝えることは難しく、レポートを読んでもらったり話を聞いてもらったりしても、なかなか理解してもらえないと感じました。

そして思ったのは、PWA/Hの方達のことを、私たち子どもに指導する立場の人間って、いったいどれだけ理解しているのだろうか、ちゃんと理解できていない教師集団が、文部省指定を受けたからって、白紙のままの子ども達にエイズ教育なんて行っているのだろうか、ということです。研究発表会で自分が指導者となった授業においても、「これは本当のエイズ教育なのだろうか。」という疑問を持ちながら、しかし、組織の一員としてこれまでの研究の積み上げや計画を否定して崩すことができませんでした。それが無念でした。

私は、エイズ教育の研修を行うのなら、ぜひエイズ文化フォーラムに参加するよう、仲間に勧められています。エイズ教育の専門家に話を聞いたり、推進校の研究発表会を見に行くのもいいのですが、私がかつてそうだったように、「エイズをどう教育するのか」という視点に偏りすぎていて、「エイズ」そのものについて学ぶことができないように思います。

そして、教育関係以外の方（医療関係・福祉関係等）にも、文化フォーラムに参加するのなら、自分と直接関係のない分野の講座にあえて参加し、エイズについて今までと異なる視点で学習し、視野を広めていっていただきたいと思います。

私は今年度、文化フォーラムに2度目の参加をしました。今年度から勤務校も変わり、エイズ教育は差し迫った課題というわけではありません。それでも私は、もっともっとエイズについて勉強したく、自分自身のために「参加したい」という思いからでした。幸い今回も研修という形で旅費

や宿泊費の補助をしていただけ、そういった制度にはとても感謝しています。

そして、私が「エイズ」を通して学んだことは、今後児童生徒と関わる様々な場面で、「エイズ」としてだけではなく、性や人権等幅広く生かされてくるだろうと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「AIDS文化フォーラム in 横浜に参加して」

BY 栗根 Joanne Cullinane

Department of Anthropology

University of Chicago

帰国予定日のちょうど三週間前に「AIDS文化フォーラム in 横浜」が開催されたのは、とてもいいタイミングでした。日本のエイズ対策や医療体制を研究している私にとって欠かせないイベントでした。なぜかという、この一年間を振りかえるいいチャンスを与えてくれたからです（ちょっとわがままかな?）。「こんなにいっぱい立派な人たちと出逢えて良かったな〜」という喜びと「まだまだ知りたいことが多くてもう少し日本に残りたいよ〜」という希望が混じってとても複雑な気持ちでした。

一番大きな問題は見たいセッションが多くて全部行けなかった事。私が参加したセッションはフォーラムのほんの一部だった訳ですが、どのセッションに行っても皆さんは（発表する側も聞く側も）とても前向きで、エイズ拒否症の社会の中で大変頑張っている事がわかりました。また、PWH/Aの人たちのご活躍が特に目立っていました。日本のPWH/Aはあまり目には見えないと言えけれど、この日は煌煌と光っていました。

ひとつ残念に思ったことは一般市民が少なかったことです。

フォーラムの会場に一年中つき合ったださった方々がたくさんいて（HIVと人権・情報センターの皆様、H. I. VOICEの方々、HIV不当解雇を考える会、西村有史先生、AIDS&Societyの宮田

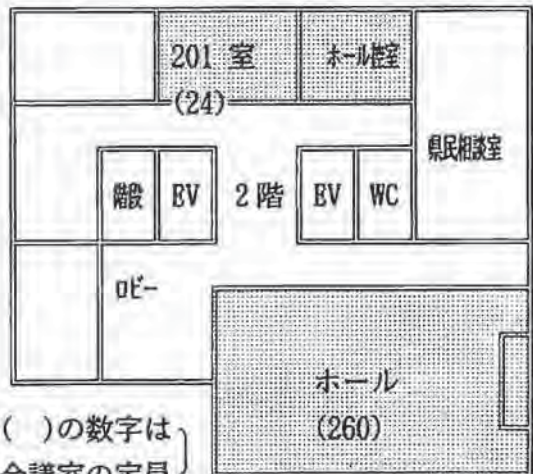
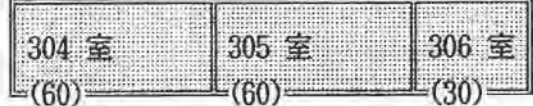
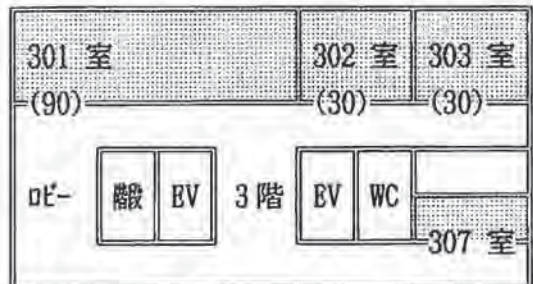
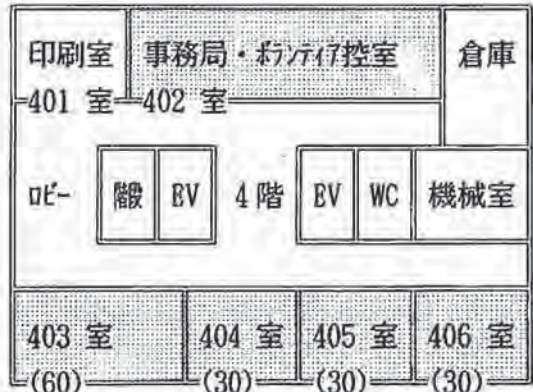
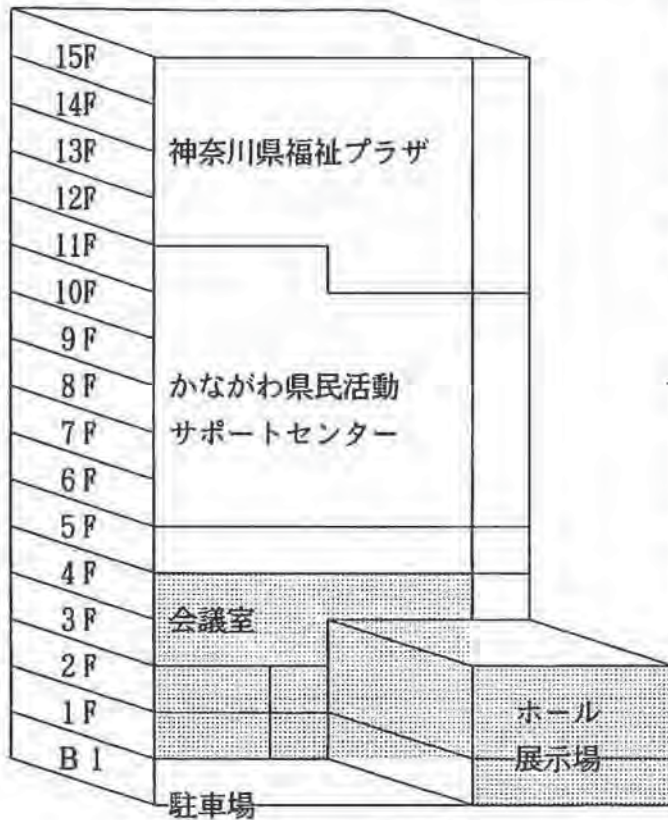
一雄さんと根岸昌功先生、CRIATIVOSの岩木さんと栄口さん、横浜エイズ市民活動センター、ふれいす東京）お礼を言い尽くせない程でした。皆さん、私の甘い質問やわがままなお願いに答えて下さって本当にありがとうございました！そして時間も縁もなくてお会い出来なかった人々、このフォーラムを通していろんな方々のご活躍に触れる事が出来てとてもとても嬉しかったです。

私は必ずまた日本に行きますから、その時にはヨロシク！

私は、今はボストンの郊外に住んでいて皆さんのご協力をいただいて日本で集めたデータを元に博士論文を書こうとしています。医療やNGOの事から患者の動きまで幅広いテーマなので大変です。いい論文が書けますようにお祈りしてください！そしてエールをたまに送ってくださいね。

■AIDS文化フォーラム会場図■

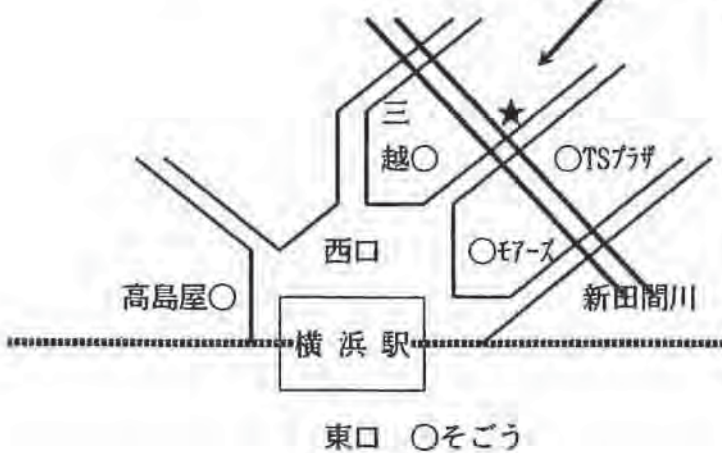
■かながわ県民センター■



{ ( )の数字は  
会議室の定員 }

〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2  
かながわ県民センター  
TEL 045-312-1121 FAX 045-312-4810

横浜駅西口より徒歩5分



# 「2000 AIDS文化フォーラムin横浜」

## プログラムスケジュール

\*プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。


		10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00
8/4 (金)	ホール	<b>P.41 (124)</b> 岡田美里と語るエイズ (実行委員会)		
	301		<b>No.1 P.14 (101)</b> 北沢杏子の「エイズの模擬授業」 (性を語る会)	<b>No.5 P.16 (93)</b> ますますPositive??? (パトリック&紳也)
	302	開会式  (12:15~1階展示場)	<b>No.2 P.14 (38)</b> AIDSと地域戦略 (エイズアクション)	
	304		<b>No.3 P.15 (45)</b> 一緒に繕おうベビーキルト (ABCキルト横浜)	<b>No.6 P.16 (36)</b> H.I.Voice座談会 (H.I.Voice編集部)
	305		<b>No.4 P.15 (61)</b> エイズ患者診ます (HIVとつきあう開業医の会:西村有史)	<b>No.7 P.17 (46)</b> 薬物乱用とエイズ (水谷 修)
ホール	<b>P.48 (235)</b> 神様がくれたHIV (北山翔子)		<b>No.21 P.24 (75)</b> 医師が語るエイズ基礎知識 (都立駒込病院感染症科今村顕史)	
8/5 (土)	301	<b>No.8 P.17 (93)</b> 結局、やっぱり、コンドーム (岩室紳也)	<b>No.15 P.21 (42)</b> 性教育とエイズ学習 (「人間と性」教育研究協議会がわかガール)	
	302	<b>No.9 P.18 (30)</b> ..女性自身で守るころからだ 低用量ビルと女性用装着型コンドーム (清水敬子)	<b>No.16 P.21 (32)</b> 愛情は大切な薬ですールーマニア・エイズと闘う子供たち (ルーマニア・エイズチャイルド基金)	<b>No.22 P.24 (29)</b> 体験してみよう「タイの農村でのエイズ教育」 (シェア)・(特定非営利活動法人アース 仏教国際協力ネットワーク)
	303	<b>No.10 P.18 (27)</b> 親としての試み -高校文化祭に参加- (森井菜子)	<b>No.17 P.22 (37)</b> ゲイの医療者からみた、ゲイの健康問題 (AGP 同性愛者医療・福祉・教育・ カウンセリング 専門家会議)	<b>No.23 P.25 (13)</b> エイズ活動におけるゲイ・ボランティ (特定非営利活動法人 動くゲイとレズ ビアの会) 入場はが 限定
	304	<b>No.11 P.19 (63)</b> 中学生と語るエイズ教育-実践紹介 (H.I.Voice ACT)	<b>No.18 P.22 (31)</b> 感染者が語る薬との付き合い方 (ぼーとたまかわ)	<b>No.24 P.25 (20)</b> 女性とエイズ (ウイメン・ヘルプネット横浜)
	305	<b>No.12 P.19 (46)</b> これでいいの保健所!!活用方法を大激論 (Peer Network Yamagata ぴいこい)	<b>No.19 P.23 (50)</b> バリアフリー2000-教育者に聴いてほしい!!- (ソクテスプロジェクト)	13:00~16:30
	306	<b>No.13 P.20 (30)</b> タイにおけるエイズ孤児とケアセンターの設立(バンコクにエイズ孤児ケアセンターをつくる会)		<b>No.25 P.25 (19)</b> 人生を変えるクスリ (グループめると)
	403	<b>No.14 P.20 (23)</b> 南海放送ラジオエイズキャンペーンのあとに-マスコミの役割 (南海放送ラジオ)	<b>No.20 P.23 (25)</b> 「個別施策層」対策-その理論と実践 (特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアの会)	<b>No.26 P.26 (43)</b> エイズ教育における感染者の役割・大石敏寛 (せかんどかみんぐあうと)
	404			<b>No.27 P.26 (19)</b> いま止めなければ! HIV不当解雇 (HIV不当解雇訴訟を考える会)

交流会 8月5日(土) 18:00~ 301会議室 参加費500円(軽食付)  
 入場自由 お気軽にご参加下さい。

		10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00	
8/6 (日)	ホール		<b>No.34 P.30 (124)</b> ジャズコンサート (AIDS&Society研究会議JAWSプロジェクト 外 15:00-16:00)	<b>No.35 P.30 (21)</b> <エイズキャンペーンのストラテジー-part2> コンサート, 加えて, そしてエイズ .. 高度情報化社会の現場から (AIDS&Society研究会議)	
	301	<b>No.28 P.27 (57)</b> 性感染症入門講座-STD・HIV- (同仁斎メディカルクリニック: 西大條文一)		<b>No.39 P.32 (25)</b> 糖尿病、高血圧、そしてエイズ (鳴海敏成)	
	302		<b>No.32 P.28 (46)</b> HIV感染者と性教育 (サカキ 和)	<b>No.38 P.32 (17)</b> 青少年育成とAIDS (青少年育成アドバイザー 増井秀昭)	
	303		<b>No.33 P.29 (28)</b> AIDSを伝えるネットワークTENCAI	パートI & II (鮎川葉子&吉永陽子)	
	304	<b>No.29 P.27 (22)</b> 世界は今-第13回国際AIDS会議に参加して	パートI & II (HIVと人権・情報センター)	<b>No.37 P.31 (17)</b> 「イラン人(S)君の人生」 -セクシャルマイノリティと難民認定- (Team S)	
	305	<b>No.30 P.28 (28)</b> どうなってるの? 薬害エイズ (HIV訴訟を支える会)		<b>No.40 P.33 (17)</b> ネット世代が考えるHIV/AIDS的活用法 (Campus AIDS Interface)	
	306			<b>No.41 P.33 (19)</b> ワークショップ 女性用コンドーム(ふせ いす東京)	
	403	<b>No.31 P.28 (30)</b> ファシリテーター入門(横浜エイズ 勉強会)	<b>No.36 P.31 (51)</b> セクシュアリティ入門講座 (ライフ・エイズ・プロジェクト)		
閉会式 18:00~ 1階展示場					
8/6	406	<b>No.42 P.34</b> エイズ出前法律相談(特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアン(の会)) (10)			
8/4~8/6	<b>No.43 P.34</b> アクション・ペインティング(岡田阿礼)				
8/4   8/6	展示 1階 展示場	ルーマニア・ エイズチャイルド基金	AIDS&Society研究会議	横浜エイズ勉強会	
		ライフ・エイズ・ プロジェクト	特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアン(の会)	大鵬薬品工業 (株)大塚グループ	
		Bee Hive市川	CRIATIVOS・ HIV/AIDS関連支援センター	H.I.Voice編集局	
		「聞かせて! 教えて! AIDSのあれこれ」 ~啓発用DVD操作体験コーナー~		JAPANetwork	
		コンドーム専門店 "コンドマニア"	AIDSを伝えるネットワー クTENCAI(てんかい)	MITLEBEN活動紹介	
		"人間と性"教育研究協議会 かながわサークル	横浜AIDS市民活動 センター	東京法規出版	
		かながわレッドリボンクラブ	性を語る会		

表中( )内は入場者数です。(会場ボランティア調べ)

## 発表プログラム

No. 1	タイトル	模擬授業「非識字者対象のエイズの模擬授業」		
	主催	「性を語る会」		
	講師	北沢 杏子		
ねらい	国連人口基金事業・専門派遣員としてラオスにて教育宣伝活動（エイズ教育を含む）をしていて、識字率が女性42%、男性52%の人たちに「視覚」に訴える教材と分かり易い言葉、演技力、表現力で広範囲の人びとへ「エイズ」を理解してもらうことの必要性を実践。			
ながれ	①小学校模擬授業（小学1・3年生が4人参加） ②中学生以上一般模擬授業（コンドームの正しいつけかた） ③教材を使いながらのロールプレイ			
来場者感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を使った授業は、あきさせず楽しい時間でした。</li> <li>・授業には、ユーモアがたいせつであることがよくわかりました。</li> <li>・ただ知識だけでなく、世界観をきちんと折り込んであり視野が広がりました。</li> <li>・小学生たち「えー、感想？面白かったよ！」とケロリ。</li> <li>・参加者が多く、後ろの席はよく見えなく残念でした。</li> </ul>			
連絡先	「性を語る会」事務局 / 〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6 TEL 03-3708-7326 FAX 03-3708-7926			

No. 2	タイトル	AIDSと地域戦略		
	主催	エイズアクション	講師	南 定四郎
ねらい	AIDS啓発活動を地域において展開する戦略の提示			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ「地域」なのか？ AIDSボランティア活動の経験を町の中に活かし、人々との共生を得ながら将来への展望を切りひらくため。</li> <li>2. 地域の現状 人口2,180人、650世帯で構成される町内会を対象とする。町内会には商店会、老人会、防災青年団、祭礼睦会が周縁組織となっている。</li> <li>3. AIDS啓発の失敗と教訓 1993年から1995年にかけてAIDS情報センターを町なかに開設したが失敗した。</li> <li>4. 地域へのアプローチ 上記の失敗例に学び、いかにして町の中に融け込むか？を考える。</li> <li>5. 地域活動の戦略 地域の現状を正確に把握する。幅広い問題の解決と同時進行でAIDS啓発を行なう。</li> </ol>			
来場者感想	①地域の活性化についての問題提起があったが、自治体の地域振興政策などとの協同があればいいのではないか。②OHPを使った具体的な説明でよく理解できた。③最後のバルセロナの事例紹介は話の内容と関係ないと思う。			
連絡先	エイズアクション 東京都新宿区市谷薬王寺70 プラザ若林301 TEL&FAX:03-3235-5071			



No. 3	タイトル 一緒に縫おうベビーキルト 主 催 ABCキルトの会横浜支部
ねらい	HIV/AIDS感染の赤ちゃんやエイズで親を亡くした孤児たちに贈るベビーキルト作りを通してエイズ問題を考えるきっかけになるようボランティア参加してもらおう。
ながれ	(1) ABCキルトJAPANの西村氏がキルトの主な寄付先である東南アジアでの活動の様子やアジア・エイズ会議での話をした。また国内の施設への寄付についてABCキルトいせはらの浜田さんから説明があった。 (2) 参加者に実際にキルトを縫ってもらった。50代60代の女性の参加が多かったが、小学生の姉妹や親子での参加もあった。 (3) 去年のワークショップに参加した大学生が製作したキルトを紹介した。 (4) ワークショップに参加された4校の先生方から学校でABCキルトをしたいとの申し出があり、2校には展示用キルトの貸出、2校にはキルト指導を行うことになった。 (5) フォーラムの会場が明るい雰囲気になるよう総合受付やエレベーターホール、2階のホールなどにキルト10枚を飾った。また会期の前と後のルーマニアのエイズの子供たちの写真展でもABCキルトの展示をした。
来場者感想	若い人にもっと参加してほしい/キルト作りは意義のあることなのでこれからも続けてほしい。
連絡先	ABCキルトの会横浜支部 上村春子 〒233-0015 横浜市港南区日限山3-1-11 TEL 045-844-8124



No. 4	タイトル エイズ患者診ます 主 催 HIVとつきあう開業医の会 講 師 西村 有史 手伝った人 吉永陽子
目的	西村くりにつくの歩みを紹介し、「地域で患者感染者を支える診療所」づくりが必要なこと、およびHIV・エイズについての基礎知識の紹介
内容	西村くりにつくは7年前「地域で患者感染者を支える診療所」を目指して開業した。その目的は、一人ひとりのHIV感染者・エイズ患者が生きていくためにはその人を支える態勢がそれぞれの地域に必要なこと、そしてその中には第一線医療を担う開業医が参加することが必要なことを実感したからだ。まず西村くりにつくがやってきたことを紹介して、そのあとHIVが感染してから、体内で免疫細胞(CD4)を次第に破壊し、ついにエイズ発病に至る過程を説明し、現在行われている多剤併用療法(HAART、俗に言うカクテル療法)が、HIVの特徴に沿って作られた治療法であることを説明した。多剤併用療法は、患者感染者の病状を改善してきたが、まだ様々な副作用の問題や、生活の質の問題、あるいは治療費の問題などを抱えていることなどを個人的感想を含めて話した。
参加者の反応	西村くりにつくで働いているスタッフがどう感じているかという質問があった。講座に参加している(くりにつくの)看護婦からは「勤務するまで知らなかったが、実際に患者さんと接しているうちにごくふつうの患者さんのひとりということを実感した」と返事があった。他の患者さんの反応に興味がある、質問されて困るようなことも起こるのではという質問もあった。これは実際にはどの患者がHIVに感染しているのかわからない以上、そうした根ほり葉ほり聞くようなことは起こり得ない。アンケートの中に私が「ドロップアウト」という言葉を、治療を中断した人に使ったことについて、患者の自己決定権を無視した「家父長的な考え」であるという意見があった。時間的な制約もあり詳しく話せなかったことだが、私たちが経験した人達は、経済的理由であるいは副作用に耐えられないために、やむなく服薬を中止してしまった例ばかりであり、自分の自由意志でやめたものではない。
連絡先	西村くりにつく 福岡県豊前市大字八屋2267-1 Tel:0979-82-2161 Fax:0979-82-2162

No. 5	タイトル ますます Positive???
	主 催 パトリック & 紳也
ねらい	HIV Positive のパトリックは生き方もポジティブ。第1回のフォーラムから主治医でもある友人の岩室医師とのトークを通して二人がパトリックの中にいる HIV と共にどう生きているかを会場のみなさんに見て聞いていただくことをねらいとした。
ながれ	パトと岩室の普通の会話。実は病院の外来でも同じような日常会話が飛び交う。岩室「元気?」。パト「まあね」。岩室「今飲んでいる薬 (ddI、d4T、Efavirenz) はすごくよく効いていて、ウイルスが血液の中から検出できないんだよ。21世紀をみるという目標達成もすぐそこに来たね」。パト「でも、最近仕事がなく生活が苦しいんだ、仕事ない?」。こんな外来での日常会話をフォーラムで再現した。
参加者感想	パトちゃんが2000年を迎えることを目標にしていたという話はなんだか切ない思いがしました(30代、教育関係、女性) / エイズ・HIV等々と言うよりパトリックの生き様を感じました(30代、保健医療関係、男性) / HIVに感染していながらも力強く生きているパトと冗談を交えながら暖かく見守っている岩室先生の会話はこれからの「共生」の姿の現時点での理想の姿かもしれないと思った(30代、教育関係、男性) / 楽しかった(10代、学生、女性)
連絡先	パトリック 岩室紳也 厚木市水引1-16-36 県立厚木病院泌尿器科 TEL&FAX 03-5725-2347 TEL046-221-1570 FAX 046-222-7836 E-mail:patrick@p.email.ne.jp E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 6	タイトル H.I.Voice 座談会「それぞれの HIV-多様な今とこれからの課題」
	主 催 H.I.Voice 編集局
	スピーカー やじま たんべ じぞう おおたに CALLA 参加者 36名
ねらい	H.I.Voice は、投稿による「声」のフォーラムとして、1993年8月から活動を開始し、多くの仲間を支えられ、HIVに何らかの形で関わる人々の思いをつないできました。今回は一歩進んで、「顔の見える関係」の公開座談会を開催し「それぞれの HIV-多様な今とこれからの課題」についてシェアしたいと考えました。
ながれ	1.H.I.Voice とは この座談会のベースを理解してもらうためのレクチャー(5') 2.座談会の進行について 参加に際してのグラウンド・ルールの説明 (5') a 途中入場お断り b 録音・撮影の禁止 c 守秘義務 d 前向きな姿勢 3.それぞれの HIV スピーカーが自己紹介と、現在の課題などについて語る(20') 4.意見交換 スピーカーの発言からキーワード抽出しテーマを設定した (30') 5.ティータイム お茶とお菓子でリラックスした休憩の時間を持った (15') 6.意見交換 前半の意見交換に引き続き多くの参加者の発言をもらった (40') 7.フィードバックについて 参加しての感想を H.I.Voice 誌へ投稿依頼 (10') 自分の立場で、自分の話したことや、他の人が話して心に残ったことなど
※スピーカーの発言や来場者の感想は H.I.Voice65 号の誌面で公開します。	
連絡先	〒198-0032 東京都青梅市日向和田 3-663-5 メール:voice@Japan-mail.com

No. 7	タイトル	薬物乱用とエイズ
	主催	横浜市立戸塚高等学校定時制教諭 水谷 修

ねらい

現在日本は、「第三次覚せい剤乱用期」を迎えています。今回の乱用期の特徴は、中高生を中心とする若者たちの薬物乱用の急増です。若者たちは、多くの場合集団で行動します。この中に薬物が入っていくと、あっという間にその集団の中で汚染が広がっていきます。青少年の薬物乱用は一種の「伝染病」といってもいいでしょう。ここに、今回の乱用期の恐ろしさがあります。私は、高校の教師としてこの9年間に200名を越す薬物の魔の手に捕らえられた若者たちと関わってきました。その結果学んだことは、現在の日本の、薬物に対する医療を初めとする体制の貧困さです。薬物はどのようなものでも、乱用を続けていけば「依存症」というやっかいな病となります。日本でこの病にきちんと対処できる専門家は、私が知る限り30名弱しか存在しません。その一方で、社会のこの問題に対する危機感は希薄であり、一部の地域の一部の若者たちの問題にすぎないと考えています。また、注射の回し打ちを通して、肝炎をはじめとする「感染症」になる若者も出現しはじめています。今や、現段階でこの乱用期を収束させなければヨーロッパ諸国やアメリカと同じようなレベルになるまでわずかの時間しか必要としないでしょう。

来場者感想

- ・今まであまり身近には感じていなかった薬物が、高校生などの若年層に広がっていることがわかり、同時に身近にある薬の怖さもわかり、いろいろ考えさせられた内容でした。
- ・多くの事例に基づいたご解説をいただき非常にありがとうございました。

連絡先 水谷 修 (自宅)  
〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-14-14  
TEL/FAX 045-822-2879 E-MAIL om@yhb.att.ne.jp

No. 8	タイトル	結局、やっぱり、コンドーム
	主催	岩室紳也 (神奈川県厚木保健所医師)

ねらい

HIV 感染予防が重要であることは共通認識されている。しかし、いざ「コンドーム教育」となると二の足を踏む人が少なくない。若者の声を紹介しながら「生活習慣としてのコンドーム」を根付かせる方法を紹介した。

方法

包茎ペニスの模型を使った具体的なコンドーム装着法、若者の声の紹介「私はスキな人とHしたことがあります。いつもちゃんとコンドームつけてます。と思っていたけど「ちゃんと」じゃなかった。岩室先生がチャンピオン君 (? だっけ?) でやったやり方が、をしてなかった。ってゆーか私はつけてあげた事がなかった。自分の事なのに相手に任してた。でもこれからは先生がおしえてくれたやり方でつけてあげようと思います! これで私もコンドームの達人?!」

参加者感想

娘(中3)と一緒に参加し、娘はこんな話を私達の中学校でもしてもらおうといいなと言っていました(40代保健婦)。/ “生活習慣” というとならえ方は非常に新しいと思います(40代教員・女性) / “生活習慣としてのコンドーム” をぜひ「健康日本21」へ組み入れられないのでしょうか(20代女性) / 予防教育はやっぱりコンドーム! (40代教員・女性)

連絡先 岩室紳也 〒243-0004 神奈川県厚木市水引 2-3-1 神奈川県厚木保健所保健予防課  
TEL : 046-224-1111 FAX : 046-225-4146 E-mail : shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 9	タイトル 女性自身で守るころ&からだ 低容量ピルと女性用装着型コンドーム 主 催 (社)日本家族計画協会オープンハウス 出前相談プロジェクト
-------	---

ねらい

昨年から今年にかけて、低容量ピル、銅付加IUD、女性用コンドームが相次いで認可発売となった。今までの「避妊といえばコンドーム」という日本独特の避妊事情から脱し、妊娠するからだである女性が避妊の主役になる時が来たといえよう。私たちは、女性自身が主体的に自分に合った方法を選び実行していられるように、これらの新しい方法についてわかりやすく説明した。そしてそれによってひとりひとりが自分の体や性について考える機会をもち、確実な避妊やSTD予防が女性におけるQOLの向上につながるという意識を高めていきたい。

ながれ

1. 低容量ピルを知ろう
2. 女性用コンドームをマスターしよう
3. 銅付加IUDって何？
4. 知っていて欲しい緊急避妊法
5. 質問と個別相談

来場者感想

女性用コンドームは見た目が使いにくそうと思ったが、話を聞いて使ってみようと思った。/TVで見てもどんな物かよく分からなかったが、いろいろ聞いて興味が湧いた。/具体的な使い方が聞いてよかった。/避妊やSTD予防について、知っているようで詳しく分かっていなかったことが確認できた。/話しやすい雰囲気がよかった。/生徒に教えることが出来ずにいたが、これで教えられます。/自分でも女性用コンドームを使ってみたい。/女性が自分で積極的に身を守ることが、もっと増えていけばと思った。

連絡先 (社) 日本家族計画協会オープンハウス

〒154-0016 東京都新宿区市ヶ谷田町 1-10 保健会館新館 2F TEL: 03-3235-2694  
FPホットライン(03)3235-2638 ピルダイヤル(03)3267-7776 マイフェミイ電話相談(03)3269-7700

No. 10	タイトル 親としての試みー高校の文化祭に参加ー 主 催 森井葉子
--------	-------------------------------------

ねらい 学校でのAIDS教育は、時間も内容も限られています。親としては、伝えたいことがたくさんあります。病気の知識だけでなく、感染者への理解やAIDSを自分の問題としてとらえることなど。そして、何よりも自分を大切にしてほしいという願いを伝えたいと考えました。そこで、学校の文化祭に参加する方法を取りました。参加者には、文化祭での発表の内容を参考にしたり、自分ができることを考えるきっかけにてもらえればと思いました。

- ながれ
1. 文化祭に参加することになった動機
  2. PTA 広報紙で取り上げたAIDS記事を紹介
  3. 展示資料・DVD・ABCキルト・メッセージキルト・募金の説明
  4. あなたが選ぶ性教育かるた No. 1 に参加者の投票
  5. 参加者とともに話し合い

来場者感想

今まで性の話というのは、同年代としかしたことがなかったけど、いろんな世代の人の意見が聞いてよかったです。とても勉強になりました。/楽しかった。親の考え方、若い自分達の考え方、お互い納得のいくものはないかもしれないけれど、伝えていけるといいなと思った。/家族同士で性の話はあまりしないけれど、漠然としていた自分の意識がはっきりとわかったと感じた。生きることについてしみじみと考えさせられた。/私の周囲にも少しでも活動を広げたいと思い参加しました。



連絡先 森井葉子 〒242-0002 神奈川県大和市つきみ野 7-3-12 Tel: 046-276-4534

No.11	タイトル 中高生と語るエイズ教育—実践紹介—
	主催 H. I. Voice・ACT&横浜エイズ勉強会
	協力 藤沢市立鶴沼中学校&Beehive 市川 参加者数 63名

ねらい 中学校での「性とエイズの出前授業」の様子を、参加した中学校の生徒や先生たちと再現しながら一緒に語り合うことで、この種の市民活動と教育現場の協働作業の輪を広げていく。

- ながれ
- 1.ビデオ上映—出前授業を取材した、TVK テレビ「はじめてボランティア」(10')
  - 2.経過の説明—出前授業が実現するまでの経過を先生と語る (10')
  - 3.授業の再現—入場者も参加するワークショップ形式で 布の絵本 出産編(20')  
Voice 朗読劇場(20')
  - 4.お茶の時間—用意したお茶とジュースを皆で飲みリフレッシュタイム (15')
  - 5.授業の再現—参加の中高生にモデルになってもらって イメージマップ (15')
  - 6.意見の交換—参加の教育関係者を中心に、感想や評価・提案をもらった (30')

#### 感想

- ・自分が感染したらという目線で子供達の意見を引き出したことは素晴らしいと思う。(石川県・20代女性・保健医療関係)
- ・事例の3時限に分ける手法はいいアイデアだ。(大阪府・30代女性・保健医療関係)
- ・地域の人との関係が大切だと再確認した。(富山県・30代男性・教育関係)



連絡先 H.I.Voice Act Tel&Fax : 045-784-9659 岡島

No.12	タイトル これでいいのか保健所!? 活用方法を大激論!! ～活用しています?活用されています?～
	主催 Peer Network Yamagata(PNYぴにい)
	進行 渡會睦子(PNY・保健婦)大谷重夫(HIV感染者) 協力 ななちゃん ボランティアの皆さん

ねらい 今年、昨年の「保健婦とHIV/AIDS」を受けて、新たに保健所の“活用している・されている”“有効なPR方法”などについて、様々な方から御意見をいただき、保健所の活用方法・PR方法を検討していくことを目的に開催しました。

- ながれ
- 1.会のきっかけ
  - 2.アンケート結果
  - 3.保健所の役割とPR活動
  - 4.本当に活用している? されている?
  - 5.PR活動の現状
  - 6.身近に思われる啓発活動
  - 7.今後話し合いたいテーマ

来場者感想 (他にも多数の感想・意見等をたくさんいただきありがとうございました。)  
とっても面白かった。/保健所でHIV抗体検査をしている事を今日まで知らなかった。/改めて自分自身の問題として啓発する大切さを認識した。今後の事業のなかでいかしていきたい。(保健婦)/保健所は不透明。近寄りたいのもっとPRを!!/  
やっぱりNGOと保健所の連携は大切ですね!/  
これを機会に保健婦のネットワークをつくって欲しい。

※今後PNYと話し合いたいテーマ

- 「匿名検査と継続支援」「一般向けに“保健所とは”」
- 「使いやすい保健所とは?」若年層だけでなくあらゆる年齢層に対する啓発活動」等々



連絡先 PNY代表 渡會(わたらい)睦子 E-mail [mutsuko@mub.biglobe.ne.jp](mailto:mutsuko@mub.biglobe.ne.jp)  
〒990-0031 山形市十日町一丁目6-6 (村山保健所内)  
TEL 023(627)1117 FAX 023(622)0191

No. 13	タイトル	タイにおけるエイズ孤児とケアセンターの設立について
	主催	バンコクにエイズ孤児ケアセンターをつくる会
	講師	長澤 勲

ねらい

エイズは今や世界的課題である。しかし日本ではこの課題にコミットしようとしらないのは何故か。この苛立ちが私たちの出発点である。沖縄サミットの主要8ヶ国(G8)共同宣言には若者のエイズウィルス(HIV)感染を25%削減するよう感染症対策を明記した。国連のデータによると、今世界には3,430万人のHIV/AIDS患者感染者がいる。その内560万人を東南アジアで占めている。アジアはアフリカについてエイズが多い。世界で15歳以下の子どもたちのHIV/AIDS患者感染者は130万人を数える。そして毎日1万5千人がHIVに感染し続けている。その95%が発展途上国に集中して感染が広がっている。今世紀末に何とエイズがタイにおける主要死因になるだろうといわれている。その感染者推定累計数は130万人とされる。WHOによれば、両親を失うエイズ孤児が世界で約550万人に達する。そしてタイにおけるエイズ孤児はバンコクの都市周辺部はかなりの数になることはいうまでもない。孤児自身もHIV感染者である確率は30%を越えるといわれている。こうしたエイズ孤児の問題はこれから大きな社会問題となるであろう。しかし、増えるばかりのエイズ孤児たちへのアプローチは充分でない。生活、教育、啓発の必要性を思い、エイズ孤児ケアセンターの計画が生まれる。1998年にこの計画を私たちが知り、その周辺の仲間が呼びかけて、この計画の支援をスタートさせたのである。

ながれ

1. 世界全体のエイズの現状を知る。2. タイにおけるエイズの現状を知る。3. エイズ孤児の現状を知る。4. バンコクにエイズ孤児ケアセンターをつくる背景を知る。5. エイズ孤児が置かれている状況を知る。6. 参加者による自己紹介と意見交換

来場者感想

エイズボランティアをしているので共にできるところがあるのでは。/学校とのつながりをつけて。どこかでエイズを生み出す悪循環の輪を切れないものか。/これからも地道につづけて下さい。

連絡先 バンコクにエイズ孤児ケアセンターをつくる会  
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 YMCA NPO サポートセンター内  
TEL&FAX 045-628-0690

No. 14	タイトル	南海放送ラジオエイズキャンペーンのあとに—マスコミの役割
	主催	南海放送ラジオ

内容

四国・南海放送ラジオは、民放ラジオ局として全国初のラジオキャンペーンを毎年実施している。行政・医療・ボランティア・各学校及び感染者の連携の連携に努め、リスナーの心に語り掛ける長期キャンペーンで民放連盟賞も受賞。

連絡先 南海放送ラジオ

No. 15	タイトル	性教育とエイズ学習 どうなってるの男の子の性 -学校・家庭で学ぶ、伝える男の子の性-
	主催	“人間と性”教育研究協議会かながわサークル

ねらい 女の子の性についての情報に比べ、男の子の性については情報も少なく誤った情報も数多くあります。そのことが男の子を悩ませたり、生きにくくさせている原因にもなっています。男の子の性について理解し、正しい情報を伝える大切さを学びあいたいとおもい企画しました。

内 容

1. 「どれくらい知っている？男の子の性」について参加者のかたとクイズをしながら、性器のしくみや 男女の性器への分化・精子は溜まるのではなく、分解吸収されること・ほっ起のしくみなどについて確認しました。
2. 「男の子には、どう性が伝えられているか？」について現状の報告をしました。
3. 「男の子の性の悩みにどう答える？電話相談形式で①包茎②自慰③性器の形や大きさ(男の子の悩みのトップ3)について答えてみよう！」をワークショップ形式ですすめました。
  - ① 包茎：ちまたにあふれる誇大広告に戸惑い、包茎手術の必要如何について悩む事例を取り上げました。伝えたいことは成人してもペニスの亀頭部が全部露出するのではなく、包皮をかぶっている人も多く（70%）、包茎の積極的な肯定が男子の自尊感情形成に必要。
  - ② 自慰：自慰に罪悪感や不安感をかかえている事例を通して、自慰は無害であり、性的欲求を自分で解決することは性的に自立していく上で必要なテーマ。
  - ③ 性器の形や大きさ：アダルトビデオをみて悩む事例を取り上げました。
4. 後半は提起したテーマに沿って話し合いました。

参加者感想 自慰はやってもいいとわかるまでに時間がかかった。今日の情報があの頃にあったなら、素直に受け止められたのに。」などなど。

連絡先 “人間と性”教育研究協議会かながわサークル  
〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原 1-18-2 TEL 0467-44-5185 (鎌田方)

No. 16	タイトル	愛情は大切な薬です ～ルーマニア-エイズと闘う子供たち～
	主催	ルーマニア・エイズチャイルド基金 講師 浅井淳子

ねらい 感染者の90%以上が幼い子供たちというルーマニア。これほどまでに子供たちだけにエイズが広まった国は他にありません。彼らの多くは、赤ん坊の時に親に見捨てられた孤児。感染当初、誰からも愛情を受けられず多くの子が亡くなっていきました。しかし海外支援が入り、大人から優しく抱かれるようになっただけで、死亡する子は減っていきました。ルーマニアの子供たちにとって、甘いお菓子を食べる喜びや、愛してくれる人がいるという実感が、病気と闘う力となったのです。1990年感染発覚当初、現地の医者は「5～6年のうちに全ての子供たちが亡くなるだろう」と予想していたにもかかわらず、現在でも約6割の子供たちが生きています。その役割には、日本からの支援も大きく関係しています。このような海外支援は彼らにどう役立っているのか。この十年、子供たちはどのように病気と闘ってきたか。その現状を伝えることで<エイズにとって、まわりからの理解や愛情は大きな薬となる>という事を伝えます。

ながれ

ビデオやスライドを使っての説明

来場者感想

何度も涙があふれました。多くの人に現状を知ってもらいたいと思いました。／ボランティアを続ける上でとても勉強になりました。



連絡先 〒211-0065 川崎市中原区今井仲町 354-1-303 (連絡は手紙でお願いします)

No. 17	タイトル	ゲイの医療者からみた、ゲイの健康問題
	主催	AGP (同性愛者医療・福祉・教育・カウンセリング専門家会議)
	講師	井戸田 一朗

ねらい AGPは、医師、ナース、臨床心理士、ソーシャルワーカー、教師など医療・福祉・教育などの分野に携わる者、そのような職業を目指す学生、あるいはこの分野に関心を持つ人たちから成る、同性愛者のためのネットワークグループである。近年、都市部の男性同性愛者(ゲイ)の間で、HIVをはじめとする性感染症の新規発生が増加している。しかしながら同性愛嫌悪(ホモフォビア)や偏見・無関心ゆえ、ゲイというセクシュアル・マイノリティの健康増進や感染防御に目が向けられることは少なかった。今回この発表を期に、現在ゲイの間で問題となっている健康問題をゲイの視点から提示し、その対策について、偏見のフィルターを通さない目で考察・議論するきっかけを作りたい。ながれ AGPで1997年より行っている、ゲイの医師によるゲイのための無料電話健康相談「AGPからだの相談」に、2年半の間に寄せられた266件の電話相談の内容・相談者の背景の集計結果を通して、現在ゲイの間で問題となっていると類推される疾患やその他の周辺問題を提示し、他の研究結果や疫学データを交えて解説を加え、医療者としての自分たちに要求されること、医療界に望む事項を提言として述べた。休憩をはさみ、フリー・トーク及びディスカッションを行った。来場者は30名を越え、ディスカッションでは医療以外に、教育の第一線の現場からの質問や声を聞くことができた。

連絡先 〒164-0001 中野区中野5-24-16 中野第2コーポ601「LOUD」気付  
Tel/Fax: 03-3319-3203  
(電話での対応は以下の時間帯のみ:火曜日 夜8時-10時、水曜日 夜9時-11時、ファックスはいつでもO.K) URL <http://www.gnj.or.jp/agg> e-mail [agg@gnj.or.jp](mailto:agg@gnj.or.jp)

No. 18	タイトル	感染者が語る薬との付き合い方
	主催	ぼーとたまがわ

ねらい HIV 治療薬の種類が増えて来たニュースは、広く知れ渡っている様に思える。しかし、「ぼーとたまがわ」の食事会に集まった時に話し合われる、薬にまつわる話には、いろんな事が含まれ、それぞれが複雑な問題に向かい合いながら、飲んでいる事に驚かされます。現在の多くの治療薬は、その迅速さ(認可)を優先するが故に、飲みやすいとかの、飲み手のことはあまり考えられてはいない薬だと言えます。薬を飲んでいる感染者の話を書くにつれ、「薬があるからいいのではないか?」と言う、単純な話ではないんだ、との認識をさせられました。しかしながら、なかなか本命の薬が見つからない故に、数多くのリスク(副作用、コスト等)を負いながらも、HIV治療を続けて行かなければならない現実があるのです。今回は、2人の感染者の方に、それぞれの治療の始まりから、薬の副作用との激しい闘いの日々の話をしてもらいました。めまいや吐き気、末梢のしびれ、行動の制限、体力との闘い、そして飲む時間を守らなければならない事、薬の種類によっては、その飲む時間が別々な組み合わせになる事、そして保管には冷蔵をしなければならない薬、とか、まるで、薬を飲むために、行動し、生きているかの様な錯覚にさえ陥る時もあるのだそうです。また、若者の間では「薬がいろいろと出来ているから、もうエイズは大丈夫なんじゃない?」的な発言を耳にするので、そんな風潮に警鐘を鳴らしてもらおうと、「現在の薬はまだまだ飲みづらいんだよ!」を正しく理解をもらうのが今回の目的でありました。

ながれ 始めから、参加者の方全員と話し合おう、と決めておりましたので、机の並べ方にも考慮し、「口」の形で囲み、意見を出しやすい雰囲気配に気を配った。思っていた通り、同じ目線でのいろんな意見・質問が出され、あっという間に過ぎた、2時間でした。

連絡先 ぼーとたまがわ 〒214-0012 川崎市多摩区中野島6-7-9 ともえ荘1F  
TEL&FAX 044-900-9180

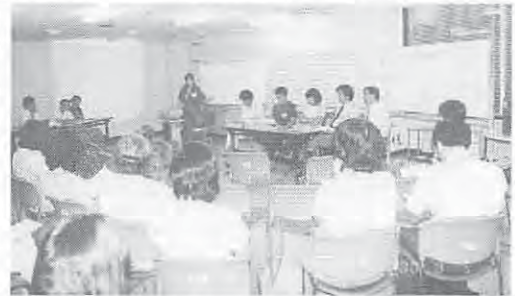


No. 19	タイトル	バリアフリー2000 -教育者に聴いてほしい!!-
	主催	ソクラテスプロジェクト
	発題者	深海淳一郎(三春学園)・富田恵子(鎌倉市立第二小学校)・ 岡島龍彦(H. I. VoiceACT)・斉藤和広(市民)・ 島村勝(心身障害児総合医療療育センター)
	進行	逢澤詳子(ソクラテスプロジェクト)

ねらい 児童虐待・少年犯罪など、次代を担う子ども達を取り囲む深刻な状況に対して、医療・福祉・教育・家庭・地域での係わりの情報交換から、それぞれの認識を深め、連携を模索する。

ながれ まず、バリアフリーセッション4年間の流れをプレゼンテーション。次に各演者から「子ども達への係わり」を報告。深海氏は入所児童の1/4である虐待児童の生活の現状「養護施設の現場から-児童虐待の処遇について-」を報告。富田氏は教育現場での試み「思春期の入り口に立つ」を報告。岡島氏は具体的なワークをまじえてAIDS啓発活動の実践「学校と連携する市民活動」を報告。斉藤氏は自身の子育て実践「お父さん登場!」を報告。島村氏は専門職として基本姿勢「私という存在も」を報告。主催者側で、耳慣れない専門用語やキーワードを拾い、ホワイトボードに提示していった。発題者の熱い思いで発表時間がのびた為、十分な議論を深めるには至らず、最後は、フロアから出された「伝えていくことの工夫」「教科書を使わない学習の楽しさ」について等の質問に各演者が追加で答える形で締めくくった。

来場者感想 多くの感想は「長すぎた」というものであった。少数ではあるが、聴くことを考えるにはこの時間が必要との感想も得た。次年度に活かしたいと考える。



連絡先 ソクラテスプロジェクト<保健医療福祉のソーシャルワーカー中心のグループ>  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民活動センター 109

No. 20	タイトル	「個別施策層」対策-その理論と実践
	主催	特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい

ねらい 昨年、国で策定されたエイズ予防指針に挙げられた個別施策層。その中の「性的指向の側面で配慮の必要な同性愛者」への対策を各自治体はどのようにとりくむべきか?今までの実例と計画を参考に考えてみることをねらいとしました。

ながれ (1) 会の説明と企画趣旨説明 (2) エイズ予防指針の解説 (3) 普及啓発における具体的な検討 (4) 事例紹介 (5) 今後の展望の5つでした。政策に関する問題なので、難しく感じてしまわないように工夫しました。冒頭で、各自が思い付く啓発活動などをグループで話し合っ出て出してもらったり、質問をを交えながら進行をしてみました。

来場者感想 今後の活動に参考になる話だった/予防指針の重要な部分について背景や考え方の認識がもてた分科会だった/エイズの啓発活動をするグループ全てに関わる大切なことなので、他の人にも伝えたいと思った/個別施策層概念が予防指針に盛り込まれたことを知ることが出来て嬉しい/分科会を複数団体で構成していけるようになってほしい。



連絡先 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい  
〒164-0012 東京都中野区本町 6-12-11 石川ビル2階 OCCUR 内  
TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 E-mail occur@kt.rim.or.jp

No. 21	タイトル 医師が語るエイズ基礎知識 講師 都立駒込病院感染症科 今村顕史
--------	---

ねらい

ここ数年で HIV 感染症の治療は飛躍的進歩をとげてきた。この治療の効果により HIV 感染症による入院患者や死亡者は明らかに減少しており、HIV 感染症の治療も新しい時代を迎えたといえる。しかし、これらの治療はまだいろいろな問題をかかえており、継続のためにかかえる感染者の負担も大きい。また、社会的な偏見等から生じる感染者のかかえる問題も依然として多く残っているのが現状である。本講義では、より複雑になってきている HIV 感染症の治療や、教科書からは伝わらない現場での問題点についてできるかぎりわかりやすく解説していく。

ながれ

1.HIV 感染者のかかえる社会的問題 2.HIV 感染症の疫学 3.HIV 感染症とはどんな病気か 4.近年の治療の進歩とその問題点

来場者感想

お話の内容がわかりやすく、今まで曖昧だった点がはっきりしました。／外国人の患者さんの厳しい状況など初めて知り、勉強になりました。／先生のやさしい人間性がすごく伝わってきました。病気は薬で治すだけではないということあらためて考えさせられました。

連絡先 都立駒込病院感染症科 〒113-0021 東京都文京区本駒込 3-18-22

No. 22	タイトル 体験してみよう「タイの農村でのエイズ教育」 主 催 特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク&シェア=国際保健協力市民の会
--------	---

ねらい エイズ対策が進んでいるタイ国において、シェアが1994年から行っているエイズ啓発活動を紹介し、かつ参加者に体験してもらった。これにより、タイ国のエイズ状況とシェアの経験を理解してもらい、また日本社会のエイズ状況に反映させながら私達に出来ることを考えた。特に、エイズ問題は私達にも関係があり、自分の命は自分で守らないといけない、という点を認識し行動に移すことの大切さを考えた。

ながれ

1. 団体の活動紹介とタイのエイズの状況説明
2. タイ東北部の村の生活の説明
3. シェアのエイズ教育の実践(A: 免疫、病原体、HIV について寸劇, B: AIDS の知識についてのカードゲーム, C: AIDS の問題意識を高めるグループワーク)
4. まとめ(タイ・東北タイ・日本のエイズの状況)



来場者感想 実際にアイデアを出し合い、タイの農村でのエイズ教育に参加できた気分を味わえたので楽しかったし、考え、勉強になった。／ゲームを通してのエイズ教育というのは身近に感じられるので良いと思う。日本での性教育、特に小学校、中学校でこのような身近なものが取り入れられていけば良いと思う。性教育を恥ずかしいもののように感じさせてしまう教育ではいけないと思う。／実技が多く、参加者同士で話す機会が多く楽しかった。

連絡先 特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク  
〒134-0024 東京都江東区清澄 3-4-22 Tel: 03-3820-5831/Fax: 03-3820-5832/E-Mail: [tokyo@ayus.org](mailto:tokyo@ayus.org)  
シェア=国際保健協力市民の会 〒112-0004 東京都文京区後楽 2-20-18 掛川ビル 101号  
Tel: 03-5800-4778/Fax: 03-5800-4779/E-Mail: [ut2s-mths@asahi-net.or.jp](mailto:ut2s-mths@asahi-net.or.jp)

No. 23	タイトル エイズ活動におけるゲイ・ボランティア ※入場はゲイ限定 主 催 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアン
<p>ねらい ゲイでエイズ活動に関わっている人は、想像以上に多い。にもかかわらず、ゲイとしてそしてエイズ活動に参加している個人として、踏み込んで話し合える場はほとんどありません。ふとたまに考えること—個人的な動機、グループ内だとなかなか話しづらい問題点、活動の自己評価、他の活動手法のバリエーション—をセッションで共有し、各参加者の問題の整理と今後の関係づくりに役立てられればと思い、今回の企画を考えました。また、個人の経験の共有だけでなく、ゲイのためのエイズ活動の歴史を振り返れるレクチャーも組み込むことで、参加者の属する各団体にも還元できるような企画を目指しました。</p> <p>内 容 1) レクチャー：80年代後半から99年の間に関東地区で行われたゲイ/MSM対象の予防啓発や相談ケア活動の紹介(懐かしいパンフレットや広告などの資料をもとに)。エイズ政策や人権問題への取り組み、現在の個別施策についての説明。2) セッション：独自の手法(パイ・ビルディング)を用いてのセッション。参加者それぞれの活動についての情報交換や活動上漠然と感じている傾向(リスク行動や相談件数の増減)についての意見交換ができました。また、安全に自己紹介ができる場からこそ話せる活動の動機づけも共有できたことは、大きな成果だったと思います。</p> <p>来場者感想 実経験の豊富な方々の考え、お話が聞けてよかったです。/自分の気持ちとか状況の再確認ができたかなと(思いました)。/直接人と話ができなくてうれしかった。</p> <p>連絡先 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアン 〒164-0012 東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2階 OCCUR 内 TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 E-mail occur@kt.rim.or.jp</p>	

No. 24	タイトル 女性と AIDS ※入場は女性限定 主 催 ウィメンズヘルスネット横浜 講 師 吉永 陽子
<p>ねらい 女性限定とすることで「性」について語る安全な場を提供し、女性自身が自らを「性的存在」として認知し、「いたみ」を共有する空間を体験する試み。</p> <p>ながれ ウィメンズヘルスネット横浜の活動紹介(電話相談活動を通じて、女性自身の体や性の悩みを相談する場の少なさ、その必要性を述べた)→講師自己紹介→グループ分け→安全な場確保のためのルールづくり→女性が性感染を受けやすいことについて話し合いと講義→女性の健康を自らが守るために必要な知識を得ることがあまりに偶然に左右される現状に気づく→女性用コンドームについて紹介と話し合い→性感染症予防には確かに有効ではあるが、女性がパートナーとの性交について対等な関係性に立つにはそれだけでは不十分であり、「性交の相手をするべき。」といった認識を変革する必要がある。→リラクゼーションと瞑想をして終了。</p> <p>来場者感想 連帯感やつながりを感じることができた/受身で知識を得るのと違って交流を持ちながら考えることができた/本音で語りあえてよかった/私は19歳。たくさんの先輩女性の声を聞いて大変心強かった/はっとさせられた/うのみにしていた事を改めて考えた。</p> <p>連絡先 ウィメンズヘルスネット横浜 TEL 090-6302-3366 FAX 045-335-4873 吉永陽子 長谷川病院精神科 東京都三鷹市大沢2-20-36 FAX 0422-31-8878</p>	

No. 25	タイトル 人生を変えるクスリ 主 催 桜屋伝衛門・グループめると
<p>ねらい 忘れられた感のある薬害エイズを再び考える。</p> <p>ながれ 薬害の歴史を振り返り、感染者の講話と照らし合わせる。</p> <p>連絡先</p>	

No. 26	タイトル	エイズ教育における感染者の役割	講師	大石 敏寛
	主催	せかんどかみんぐあうと		

ねらい

今回の発表では、せかんどかみんぐあうとでおこなっている中学校・高校に向けた聴衆参加型の啓発活動を来場した方に実際に体験してもらい、感染者の活動や教育活動の成果について一緒に考える機会を持つことをねらいに開催いたしました。

ながれ

内容としては、まずは当会でおこなっている参加型のエイズ学習プログラムを試演（感染者自身の講演、感染者を支援する立場での講演、ロールプレイ（感染者の役とそれを告げられる立場の役を演じ、やりとりをしてもらう）を行い、最後に質疑・討議の時間を設け、感染者の活動やエイズ教育について考えました。エイズ教育についての意見なども多数話題になり、ロールプレイを含んだ参加型プログラムの可能性と、感染者がエイズについて直接に語りかける重要性を考えることができました。



連絡先 〒164-0012 東京都中野区本町 6-12-11 石川ビル 2階 せかんどかみんぐあうと  
電話：03-5385-0542 ファックス：03-3229-7884

No. 27	タイトル	いま止めなければ！H I V不当解雇	講師	清水勉（弁護士） 警視庁H I V不当採用拒否訴訟原告本人
	主催	H I V不当解雇訴訟を考える会		

ねらい

1996年、最初のH I V不当解雇訴訟が勝訴。そして、日系ブラジル人H I V不当解雇訴訟も今年（2000年）6月に勝訴した。ところが、まともや警視庁のH I V感染採用拒否事件が起きた。この様な様々な不当解雇をどう止めたら良いのかを考えてみる。

ながれ

<清水>日本からタイ王国へコンピュータープログラマーの責任者として派遣された原告が現地の病院で健康診断を受け、H I V感染が分かるとコンピューター会社を首になり東京高等裁判所で和解した日本人で最初のH I V不当解雇訴訟事件の解説と、日系ブラジル人が健康診断でH I V感染が分かると会社を首になり、千葉県内の大手企業の滝川化学工業と市川東病院長を相取り、6月12日千葉県地方裁判所で判決が出た事件の解説。この事件で初めて病院が問われた。

<原告>97年10月、大学院2年生の時、警視庁警察官採用試験I類（大学程度）に合格、修士課程終了後、98年7月警察学校入校の為、血液検査を含む健康診断を受けた。8月3日に健康管理課長よりH I V感染を示唆され、クラス教官から「一身上の都合で今回の入所を辞退します」という文章を書かされ署名・捺印し学生寮を出た。のちに都立駒込病院で検査したが「通常の労働には耐えられる。」との診断を受ける。

<清水>日本の裁判は長すぎる。慰謝料が安すぎる。懲罰的慰謝料を認めていない。行政はエイズの差別と偏見の啓発活動をしているにもかかわらず、一方では血液検査をしているという建前と本音が行政内で乖離していることなどを指摘した。

連絡先 H I V不当解雇訴訟を考える会  
〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 2-66 満利屋ビル8階 横浜 AIDS 市民活動センター内  
さくら道り法律事務所（清水勉弁護士）  
〒160-0003 新宿区本塩町 1 2 四谷ニューマシオン 309  
TEL 03-5363-9421 FAX 03-5363-9856 E-mail:tutomu-s@wb3.so-net.ne.jp

No. 28	タイトル	性感染症入門講座 -STD・HIV-
	講師	西大條 文一 協力 吉永 陽子

ねらい STDの知識についてHIVとの関連をふまえてわかりやすく解説する。

ながれ はじめに主催者側吉永ドクターより趣旨説明、講師紹介、講師到着までの間を利用して女性用コンドームについて解説あり。性病予防法から新感染症予防法にいたるまでの略史、性行為と感染症の意味論的変遷、日常的臨床における”カウンセリング”の間主観的意義、STD各論とその文学的意味の消長などにつき話した後、質疑。

#### 来場者感想

- ・感染症についてわかりやすい説明でとてもよかった。
- ・なんとなくわかっていた気がしたことがまちがった理解であったりよくわからずにそのままになっていたことがわかった。
- ・10代の人に聞いてもらいたい。
- ・先生は臨床医というよりは思想家か哲学者のように感じられた。
- ・大久保という現場のSTDの状況、具体的な各論をもっと聞きたかった。



連絡先 北新宿同仁齋メディカルクリニック  
東京都新宿区北新宿 3-1-3 第二山武ビル二階 Tel: 03-3369-6030 Fax: 03-3369-6029

No. 29	タイトル	世界は今 —第13回国際AIDS会議に参加して—
	主催	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター

ねらい 世界最大の感染者人口をかかえる国(南アフリカ共和国)で行われた国際AIDS会議を通して、南北問題、人権、共生を考える。

ながれ 国際会議の中からいくつかのテーマを取り上げて、スライドやポスター、音楽を用いて報告した。(開会式のAIDS孤児のスピーチ、人権、高価な抗HIV薬を売る製薬企業に対する抗議集会、デモ、教育、医療、コミュニティ、アフリカにおけるHIV感染や人口の状況、栄養、現地NGO訪問等。)

#### 来場者感想

- ・エイズに対しては、政治、経済、倫理が深いと思う。国内だけでなく地球市民としての活動の必要性を感じた。
- ・“Compassion (共感する)”、そして我々が何ができるのかを、今後の活動を考える際にいいヒントとなりました。
- ・アフリカの現状を初めて知った。とても良かったです。製薬メーカーは自分の利益の追求のみでなく、アフリカなどの薬の手に入らない人の為に何かしてほしいものです。
- ・国、地域によって、それほどの違いがあるということは、とてもびっくりしましたし、ショックを受けました。

連絡先 特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター  
東京都千代田区内神田 1-2-2 吉田ビル2F Tel/Fax 03-5259-0622

No. 30	タイトル どうなってるの？薬害エイズ 主 催 HIV訴訟を支える会
内 容	薬害エイズの現状を知るための学習会、講演会。原稿、被害者からの話。刑事裁判の現状など。
連絡先	HIV訴訟を支える会 東京都文京区大塚 5-6-15 Yビル301 保田法律事務所内 Tel:03-5978-4335 Fax:03-5978-4330

No.31	タイトル AIDS教育、どう伝えるか（実践編）ファシリテーター入門 主 催 横浜エイズ勉強会 講 師 金光 律子（GAP研究会）
-------	---

ねらい

私たちが身近な人たちにHIVのこと、性のことを伝えたい、学びたいと思って活動を始めてから5年が経ちました。今まで開催したワークショップを振り返り、今後何をどの様に伝えていったらいいのかを、一人一人が考え気付く機会にしたいと思いました。講師に金光さんをお迎えし、ワークショップ企画者の基本的な姿勢やどう伝えたらよいかを考えるヒントを頂く会にしました。

ながれ

1. アイスブレイキング
2. YES/NOゲーム
3. 横浜エイズ勉強会のプログラム実践と振り返り（布の絵本/コンドーム装着法/ネゴシエーション）

来場者感想 参加型学習の具体的な方法、スキルがよくわかり、楽しく参加できた。／あなたはどう思う？という形のワークが面白かった。／人にもものを伝えることの難しさを体験し、ファシリテーターのやり方等を教えてもらい役にたった。



連絡先 横浜エイズ勉強会 〒231-8548 横浜市中区常盤町 1-7 横浜 YMCA NPO 株<sup>o</sup>-トセンター内  
Tel:045-662-3721 Fax:045-680-5370 E-Mail: motomura@yk.rim.or.jp

No. 32	タイトル HIV感染者と性教育 主 催 サークルホン 協 力 川口子供ネットワーク 講 師 洪 久夫（ホン ヒサオ）& 金子 由美子（カネコ ユミコ）
--------	---

ねらい 今、現状における学校の性教育の授業をどのように学校の中で教えているのかをHIV感染者からのインタビュー形式で行い、一般の人によりわかりやすく説明しました。

ながれ サークルホンの活動を報告したあと金子さんと性教育の授業などを行い、今のエイズの現状、また子供達への性教育など、どのように子供達に教えているのかという説明をしました。

来場者感想 今の学校でのエイズ教育が少し見えました。／性教育、エイズ教育が低迷しているのはなぜでしょう。大切なことなのに。／実際にお話を聞いて、薬の研究を是非進めてほしい。／人間ってみんな素敵だよって、みんな明るく生きて行くことを、知ってほしいよね。日本中の人も世界にも。

連絡先 サークルホン 代表 洪 久夫（ホン ヒサオ）  
〒164-0012 東京都中野区本町 6-17-12 フローラ新中野 202 号室  
Tel:03-3384-0549/090-2912-0752

No. 33	タイトル AIDSを伝える人のための、感染症の差別構造理解入門ワークショップ
	主催 AIDSを伝えるネットワークTENCAI（てんかい）
	進行 鮎川葉子（TENCAI 代表）・吉永陽子（医師/AIDS 文化フォーラム実行委員）

### Part 1

#### ねらい

主に、AIDS を伝える立場にある人（医療保健関係、教育関係など）を対象にした、「差別構造」を理解させるワークショップを实践する2部構成のプログラム。前半は「差別はなぜ起こるのか」を理解するグループワーク（感染児童の入園拒否をテーマにしたディベートのプログラム）を実際に自分たちで体験してみて、その後、AIDS 問題を通じて差別構造を理解していくプロセスについて意見交換し、その後理解や指導のポイントなどの解説を行った。

#### ながれ

1) 自己紹介、オリエンテーション 2) グループワーク「イブちゃんを守れ!」体験 3) ワークの振り返り及びワークショップファシリテーターの留意点、ポイント理解

#### 来場者感想

- ・ディベートをすることによる心理的变化に見事にはまっている自分にビックリした。両方の立場から物事を考えるというだけでなく、心の動きにも焦点をあてることがとても重要な部分なのだと思えて感じた。
- ・最後の指導用の話は、実感できたことなのでよくわかりました。人に物を話すことが仕事であるのですが、改めてその「こわさ」を感じました。
- ・分かりやすいです。差別、ということは時間の中でどんどん構造を変えてしまい、その度に多くの理解を阻むと思うのですが、今回の例はそこがうまくチョイスされていたせいか、面白かった。

### Part 2

#### ねらい

後半は「差別はなぜいけないのか」を考えるワーク（差別的な意見の投書を読んで、それに対する返事を書くワーク）を行い、実際に多くの意見を聞き、シェアする中から、自分の意見を客観視する手法を体験した。まとめの部分では、このような手法を用いてAIDS 以外の問題に議論を発展させていける可能性について示唆すると共に、極端に差別的な意識や意見を持っている人に対応する方法について解説した。

#### ながれ

1) 自己紹介、オリエンテーション 2) 「投書のワーク」体験 3) ワークのポイント、差別する心理状態と対応方法などについての解説 4) まとめのお話

#### 来場者感想

- ・「打ち負かすことが目的になってはいけない」という一言は、仕事でもプライベートでもしっかり心に留めておきたいと思います。
- ・エイズのことだけでなく、どのように相手に伝えるか、伝える側が何を理解しなければならないか、よくわかった。仕事の場面だけでなく、人と人とのつきあいの中でも言えることだなと思いました。
- ・投書についてのみなさんの意見が聞けて大変勉強になりました。自分も含めて、みんな共通している意見もあったり、自分が考えもしなかった意見もありました。エイズについて、もっともっと関心を含めたいと思います。

連絡先 AIDS を伝えるネットワーク TENCAI（てんかい）

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋 1-36-3-305 てんかい FAX 03-5256-3534

E-mail: ayukaway@jca.apc.org

※訪問には、事前連絡が必要です。

No. 34	タイトル <エイズ・キャンペーンのストラテジー Part.1> ポジティブ・カフェ・ストリート・バンド in 横浜 主催 AIDS&Society 研究会議 JAWS プロジェクト
--------	--

ねらい

ニューヨーク在住の日本人が日本語でエイズに関する情報・意見交換ができるよう発足した JAWS (Japanese AIDS Workshop Series) の活動に賛同するジャズ・ミュージシャンの協力によりコンサートを開催し、音楽を通してエイズ対策への理解と HIV に感染した人たちへの支援を呼びかける。

ながれ

小原哲次郎氏 (Drums)、高嶋宏氏 (Guitar)、稲葉国光氏 (Bass)、池田篤氏 (Alto Sax) のユニットは、今回のプログラムのために特別に結成された。会場になったホールには開演前から次々と客席が埋まり、最終的には 140 名近い参加者が集い立ち見も出るほどの盛況ぶりだった。演奏に先立ち JAWS プロジェクトの宮田一雄氏からライブの趣旨が説明され、続いて AIDS&Society 研究会議の根岸昌功代表からエイズ対策のポイントが話された。トップ・ミュージシャンの演奏が開始されると同時に会場はライブハウスと化し、エイズ対策に関わる人もそうでない人もいっしょになって、純粋に音楽を楽しんだひとときだった。

来場者感想

日頃、エイズ対策についてはいろいろな意見を交わす人たちがひとつの空間で楽しさを共有できる JAWS コンサートはエイズ対策のなかでもおもしろいスタイルだと思う。/ 今までの JAWS コンサートにはすべて参加しているが、フォーラムにも参加してみて、コンサートの趣旨や関わっている人たちの考えを知ることができてよい機会だった。/ 類まれな才能がありながら AIDS で逝った人のことを考えながら聴いた。その人たちに対する鎮魂の思いで胸がいっぱいになった。

No. 35	タイトル <エイズ・キャンペーンのストラテジー Part.2> コンサート、カフェ、そしてメディア……高度情報化社会の現場から 主催 AIDS&Society 研究会議
--------	--

ねらい エイズ対策の現場はいま、どこにあるのでしょうか。その試みとして高度に情報化された社会のなかで、エイズ・キャンペーンの現場のひとつである「コンサート」や「ポジティブ・カフェ」の有効性と可能性を検討します。

ながれ 最初に AAA (Act Against AIDS) 運営事務局の藤森英基氏から、アーティストの協力により世界エイズデーに全国各地で開催している啓発コンサートが始められた経緯が紹介され、次に今年 4 月に軽井沢にオープンしたポジティブ・カフェ・ノーチェの小柳ゆみ子氏から、オーナーの木村尚・久美子夫妻が同店を始められた経緯と利用状況が紹介されました。また慶應義塾大学の樽井正義氏から、7 月に南アフリカ共和国で開催された第 13 回国際エイズ会議に参加した感想をもとに、いま世界のエイズ対策の現場で注目されているトピックスが紹介されました。会場の参加者からは、行政や NGO が行うエイズ・キャンペーンに対する意見や、このプログラムの直前に開催されたジャズ・ライブに対する感想が率直に述べられ、「キャンペーンをする側とされる側」という構図から「ともに作り上げるキャンペーンの場」の大切さなど活発なやり取りが続きました。

来場者感想 パネラーの方はそれぞれ「偉い方」だと思うが、その臆することなく、フロアからは生活感に溢れ実感に満ちたコメントや質問が寄せられよかった。/ エイズの予防や共生といった「大望」も、地道な一歩、人間関係作りが基本ということが確認できてよかった。

連絡先 AIDS&Society 研究会議

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401

TEL&FAX : 03-3200-0399 E-mail : mail@asajp.org



No. 36	<b>タイトル</b> セクシュアリティ入門講座 <b>主 催</b> ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP) 講 師 木谷 麦子
<p>ねらい 講師の木谷氏が授業を受け持った高校生が卒業するときこんな文章を残した。「とくに、同性愛やトランスジェンダーについての授業は、ぼくの性についてのものの見方を根本から変えてくれた。知識は風化していくけれど、一度変えてもらったものの見方は、次のができるまで生きつづける。」セクシュアリティについて学ぶことは「ものの見方」を学ぶことかもしれない。「知った気であるあなたのためのセクシュアリティ入門」と題したこの講座は木谷氏が学生相手に同性愛やトランスジェンダーの話をした経過とその反応を通して「セクシュアリティとは何か」を考え、そんなこと知っているというあなたと一緒に「次」の見方をめざした。</p>	
<p>ながれ 1. 「ふつう」の範囲の多様性について 2. セクシュアルオリエンテーション～ヘテロのヘテロ知らず 3. G I D (ジェンダー・アイデンティティ・ディスオーダー/性別不快症候群) 4. 原因論は必要か 5. 呼び名とアイデンティティ～自分を認識すること 6. アイデンティティとセクシュアリティ～セクシュアリティにはもう飽きた。</p>	
<p>来場者感想 改めて「ジェンダー」などについて考える機会ができた/自分では多少理解しているつもりでしたが、やはり視点がヘテロなんだなと考えさせられました/そういえばアンケートの「男・女」の真ん中の点に○をしたことあるな～なんて思いました/とても新鮮でした</p>	
<p>連絡先 ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)          〒100-8691 東京中央郵便局私書箱 490 号          TEL:03-5685-9716 FAX:03-5685-9703 E-mail: lap@lapjp.org          HomePage <a href="http://www.lapjp.org/">http://www.lapjp.org/</a></p>	

No. 37	<b>タイトル</b> 「イラン人 (S) 君の人生」～セクシュアル・マイノリティと難民認定～ <b>主 催</b> Team S・シェイダさん救援グループ
<p>ねらい 私たちは、同性愛者として日本政府に難民認定を求めているイラン人・シェイダさんが日本に在留できるように、サポート・救援活動を行っています。まず、シェイダさんが日本に移り住んでから、逮捕され、難民認定を申請するまでに、どのような歩みをたどったのかを、シェイダさんと交友のあった参加者から話してもらいました。シェイダさんがゲイとしてカミングアウトしたのは、昨年 (99年) の6月です。その後シェイダさんは、レズビアン・ゲイ映画祭、札幌で行われたゲイパレードなどに参加し、多くのゲイと交友関係を広げました。シェイダさんとの巡り合いは、日本のゲイ・コミュニティを確実に豊かなものにしたのです。つぎに、イスラム原理主義政権の下にあるイランで同性愛者がおかれた状況について解説がありました。イランでは、90年代以降も、同性愛者が処刑されたり謀殺された疑惑のあるケースが数多く存在しています。シェイダさんが難民として日本に在留できるように、法務省の認識を改めさせることが重要になっています。</p>	
<p>ながれ 企画に参加した人数はあまり多くありませんでしたが、和気あいあいとした中で、イランの人権状況から、シェイダさんをめぐるエピソードまで、様々な内容が込められた中身の濃いものになったと思います。また、シェイダさんをめぐる問題についての理解も深まったと思います。</p>	
<p>参加者感想 ゲイの人が置かれている立場は厳しいものだと言うことを強く感じました。/イランの状況、日本の状況、どちらも変えていかねばな、と思います。</p>	
<p>連絡先 電話 070-6183-5165 (田中) ファックス 03-3330-0324          メールアドレス shayda@da3.so-net.ne.jp (チームS電子オフィス)</p>	

No. 38	タイトル 主 催	青少年育成と AIDS 増井秀昭 (青少年育成アドバイザー)
<p>ねらい 2010 年には HIV 感染者は現状の 10 倍の数 (42200 人) になるとの予測が今年 3 月に厚生省・HIV 感染症の疫学研究班が発表した。では、青少年に対してどの様に HIV 感染予防について伝えていけるのか行政・学校・地域 (青少年団体を含む) について検証してみる。</p> <p>ながれ ①「日本人の HIV/AIDS 関連知識、性行動、性意識についての全国調査」(厚生省・HIV 感染症の疫学研究班) ②同研究班の性行為による HIV 感染の 10 年後の将来予測 ③現状はどうかの説明と厚生省「AIDS に関する特定感染症予防方針」の中の個別施策層に青少年が入っている意義の説明と、なぜ青少年に AIDS 予防施策ができないのかを説明し、(担当している省庁が違う、担当省庁は総務庁青少年対策本部) 行政、学校、地域 (青少年団体を含む) について検証した。なお、今回の内容を今年 3 月に発足した「日本青少年育成学会」に提言する。</p> <p>来場者感想 青少年を担当する省庁が総務庁だとは知らなかった。厚生省・文部省・労働省と担当がバラバラで縦割り行政の結果だと思う / 難問山積。立場の違いを越えた活動が必要と感じた。討論の時間が長く取ったのも良かった。</p> <p>連絡先 増井秀昭 (青少年育成アドバイザー) FAX 045-853-2391</p>		

No. 39	タイトル 主 催	糖尿病、高血圧、そしてエイズ OFFICE NARUMI 鳴海敏成
<p>ねらい 92 年当時鳴海が関わりだした頃、企業防衛色が強かった AIDS 問題もその状況と病気の実体が見え始めてからは、鳴海は一貫して「AIDS は単なる病気 = 性感染症じゃないか」という捉え方に終始してきました。その様な事から最初はお断りしたのですが、「AIDS なんか単なる病気の一つではないというスタンスの人こそエイズ業界に新風を吹き込んでくれると期待しているんです」という岩室さんの熱意と、AIDS 業界は、AIDS オタクによって構成されているような雰囲気にも見られているので、こういう所にこそ「鳴海節」が欲しいのだ、というやや刺激的な口説きに負けて今回このトークプログラムを担当させていただく事になった経緯があります。</p> <p>鳴海が AIDS 問題を話すときは、正にこのスタンスを基本とし持ち続けていますので、当然セックスに関する話とクロスオーバーする事になります。それは子供達、大人にたいしても同じトーンです。如何に日常的で身近な所にある問題か、と言う事を理解してもらうために様々な切り口を用意しますが、今回は保健業界の方も大勢お見えになると言う事から、「生活習慣病」と同様の身近な問題である、という構成を用意しました。で、つけたタイトルが「糖尿病、高血圧、そして AIDS」だったので。正確に言うと勿論 AIDS は生活習慣病ではありません。しかし、今回参加いただいた皆さんもその距離感を押し量る物差しとしての比喩には大いに共感して頂きました。</p> <p>これからも鳴海は「AIDS とセックス」に関して普通に語る、普通のおじさんとして、多くの人とコミュニケーションを続けてまいります。</p> <p>来場者感想 パワフルな講演面白かったです。キョーレツな個性、セックスに対するオブラートをかぶせない話、印象的であった。エイズ問題は教育問題という視点の大切さを改めて知った / エネルギーなお話に引き込まれてあっという間に時間がたってしまいました。私も普段生活習慣病として HIV 感染を捉えていましたが、今日のお話を聞いてとても納得ができました / 医療・行政・ボランティアにどっぷり漬かったのとは違う視点でのお話でユニークで聞きやすいプログラムで良かった。</p> <p>連絡先 AIDS 文化フォーラム実行委員会</p>		

No. 40	<b>タイトル</b> ネット世代が考える HIV/AIDS 的活用法 <b>主 催</b> CAI (Campus AIDS Interface) <b>講 師</b> 渡部享宏 (CAI リーダー) 目黒道人・新ヶ江明遠 (CAI メンバー)
<p>ねらい インターネットとは、どのようなものなのかを簡潔に説明し、実際にビデオプロジェクトを通じて活用法を説明する。具体的に国内外の HIV/AIDS 関連のホームページを紹介し、どのような可能性があるか提示していく。また、個人が主催する HIV/AIDS のホームページを紹介する事により、フォーラムのテーマでもある「今、ひとり一人ができること」がネットを利用する事で可能になる事を提言する。</p>	
<p>ながれ 渡部より御挨拶、今回の主旨説明後、インターネットのプロでもある目黒からインターネットの現状を数値などを用いて説明。そして渡部より HIV/AIDS 関連の特選日本語ページを 10 サイト紹介。その後、新ヶ江より特選英語ページを 10 サイト紹介した。各サイトでは特出して注目すべき所や団体のサイトでは活動内容やネットを利用しての情報提供を解説した。</p>	
<p>来場者感想 とても内容が濃く良かったと思います。海外の事情についてはほとんど知らなかったので参考になりました。／インターネットを利用する事で個人でも情報発信ができるのは、凄い事だと再認識させられました。また、インターネットを利用した AIDS 啓発は素晴らしい手段だと思いました。／CAI のバーチャル HIV 抗体検査が面白いと思いました。実際に検査に行くのは大変だけれど、ネット上でワンクッションあって行きやすくなるかな～。と思いました。／CAI の活動紹介にももう少し時間を割いても良かったと思いました。</p>	
<p>連絡先 〒170-0003 駒込 4-4-15-301 CAI 渡部享宏  E-mail:cai@excite.co.jp http://www.cai.presen.to/</p>	

No. 41	<b>タイトル</b> 女性用コンドームワークショップ <b>主 催</b> ぶれいす東京
<p>ねらい 日本でも 4 月から女性用コンドームが販売されている。7 月に南アフリカのダーバンで開催された第 13 回国際エイズ会議においても、新たな予防戦略が強調され、その柱はワクチン開発と「女性が自分で実践できる予防方法の開発」の 2 つ。女性用コンドームはあくまで男性用コンドームのバックアップ（男性がコンドームを使わない、使えない時の手段）だが女性が自分の意志で避妊と予防ができて副作用もない。ただし、自分で膣に挿入するという方法については心理的文化的バリアーがある。そこで、女性用コンドームの正しい知識を提供し、女性が実践することの大切さを認識し、若い女性たちが安心して使うことを励ますようなスローガンや戦略を参加者で検討することをねらいとした。</p>	
<p>ながれ 女性用コンドームについてのビデオを鑑賞。池上千寿子が南アフリカ国際エイズ会議の報告を含めて女性による避妊／予防手段の重要性を説明した。その後女性用コンドームについて活発な質疑をしてから参加者は 3 つのグループにわかれ、女子高校生にむけた販促キャンペーンスローガンと販促手法を検討してもらった。最後は 3 グループからの発表と検討を行い、ビデオを再放映した。</p>	
<p>参加者感想 楽しかった！こんなゴージャスなプログラムが無料なんて、文化フォーラムはやめられない。／なるほど、やっぱり出てみて良く分かりました、女性用コンドーム、この上は実験を！／若い人だけでなく中年にも必要とわかった。</p>	
<p>連絡先 ぶれいす東京 〒169-0075 新宿区高田馬場 4-22-46-304  Tel 03-3361-8964 Fax 03-3361-8835 E-mail ptokyo@gol.com</p>	

No. 42	タイトル エイズ出前法律相談会 主 催 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい
--------	--

ねらい 近年、当会の電話相談などにP H A（エイズ患者・HIV 感染者）からの法律にかかわる相談が多く寄せられるようになってきました。社会保障制度の利用や、医療機関との関係の問題から、プライバシーの暴露、脅迫など、犯罪的な要素を持つ問題、また、同性愛者の感染者のパートナーシップの保護の問題など、P H Aの抱える法律的問題には多種多様なものがあります。当会としては、こうした問題について、気軽に相談できるように、「エイズ文化フォーラム」の場を借りて法律相談会を開催してみました。

ながれ 法律相談は、プライバシーを保護するため、部屋をいくつかの空間に仕切り、法律に詳しい5名のスタッフが受付と面接を行います。スタッフとの相談で解決がつく問題や、法律とは必ずしも関係のない問題が中心の場合は、この段階で解決し、法律家のアドバイスが必要な問題については、待機している弁護士と深く相談できる体制をとりました。

結 果 法律相談の件数自体はそれほど多くありませんでしたが、相談に訪れた人にとっては、貴重な問題解決の場になったのではないかと思います。スタッフ感想 相談件数は少なくとも、こうした場を設けることは重要だと思う。／今後続けて定着していけば、相談者の数も増えていくのではないかな。／会場設営は、どうやってプライバシーを守るかに苦労した。よい勉強になった。／フォーラムのスタッフの人たちも設営にいろいろ協力してくれた。ありがとうございます。



連絡先 INABA Masaki E-mail: pinktri@kt.rim.or.jp

No. 43	タイトル アクション・ペインティング 主 催 アクション・ペインティング・プロジェクト
--------	--

ねらい 絵・絵を描くことを媒体として、AIDSにかかわる人々とともに考え、感じたことを共有し、新しい発想と活力・出会いを創り出していくこと。

ながれ A I D S文化フォーラムの3日間、県民センター前広場にベニヤ板4枚分のキャンパスを設置し、1日1回・計3回の描画実演を行った。絵はエイズまたはセクシュアリティを主なテーマとした。会場ではアンケート用紙を配布し、約30名の方から感想・メッセージを頂いた。会場前でイベントを行ったため、文化フォーラム以外の来館者や通りすがりの人が足を止める姿が見られた。たまたま仕事に絵を見て、何の関連のイベントかを聞きに来る人もおり、「フォーラムに触れてもらうきっかけ」としての役割がはたせたと思う。

来場者感想 絵を通して聞こえてくる自分の内なるメッセージに耳をかたむけられるようになったとき、またさらに（チョッピリだけ）幸せになれるかな？（33才・男性）／絵を見て人それぞれ感じる事があると思う。AIDSだけじゃなくいろいろな事。多くの人に見てもらって皆いろいろな事を感じてほしい。（26才・女性）



連絡先 〒229-1131 神奈川県相模原市西橋本 3-5-10 岡田方  
アクション・ペインティング・プロジェクト

## 展示プログラム

### AIDS&Society 研究会議

活動内容を紹介するパネルを展示し、パンフレットやニュースレターを配付するとともに、HAINプロジェクトが作成した冊子「ASO 情報ネットワーク」(国内外でエイズにかかわるサービスを提供する団体の一覧)及び「医療情報ネットワーク」(エイズ拠点病院の一覧)を展示・販売した。また、関連書籍を紹介・販売するとともに、他団体の活動を支援する趣旨で、他団体のパンフレットや啓発ポスターを展示・配布した。「ASO 情報ネットワーク」に掲載された団体で今回のフォーラムに参加できなかった団体に関する質問なども受け付け、微力ながら、市民とASO、あるいはASO相互がそれぞれの活動を知り、必要な連絡をとりあえるネットワークづくりのお手伝いができた。

連絡先 AIDS&Society 研究会議

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401

TEL&FAX: 03-3200-0399 E-mail: mail@asajp.org

### 横浜エイズ勉強会

最近の活動内容(学校や地域と連携するエイズ教育)を紹介したいと考え、その報告を載せたニュースレター「みちくさ」の拡大版を展示しました。希望者には「みちくさ」をお持ち頂きました。「みちくさ」は私達が無料で不定期に発行しています。

連絡先 横浜エイズ勉強会

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA・NPOサポートセンター内

TEL:045-662-3721 FAX:045-680-5370 E-Mail:motomura@yk.rim.or.jp

### 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい

当法人が、発行しているエイズ/STD予防啓発冊子、HIV感保健医療の現場向けに作成した冊子、エイズ政策に関する資料をはじめとして、各種電話相談の広報カード、STD情報カードの配布、展示を行いました。当日は、ボランティアや支援者、会員の親御さんに交代で手伝って頂きました。来場者からは、こんなパンフが欲しかった。友達にも渡したい。等の声が聞かれました。



連絡先 〒164-0012 中野区本町6-12-11 石川ビル2F OCCUR内

電話 03-3383-5556 Fax 03-3229-7880 E-mail occur@kt.rim.or.jp

### ライフ・エイズ・プロジェクト

LAPはPHA(HIV感染者・患者)のためのサポートグループとして1993年2月に発足した民間非営利団体です。今回の展示ではセーフセックスの普及・啓発のために性行為の描かれたカードをHIV感染のリスクが高いものから低いものへと順に並べかえる「リスク・スケールづくり」の実習を希望者に実施しました。またHIVに関する最新情報やPHAのための生活情報などを満載したLAPニュースレターの無料配布・販売、活動内容の展示、各種資料の配付などを行いました。

連絡先 〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号

TEL 03-5685-9716 Fax 03-5685-9703

ホームページ <http://www.lapjp.org/> E-mail lap@lapjp.org

---

### 大鵬薬品工業(株)大塚グループ

日本でようやく発売となった女性用コンドーム“マイフェミィ”の紹介を行いました。とくに好評だったのは女性の性器模型を利用した使用方法のデモンストレーション。

「どうやって使うのか疑問だったが、よくわかった。」「私も模型を使ってやってみたい。」

「VTRがほしい。」…中には「この模型どこで売っているの?」という質問も。

また、バックに掲示した性感染症増加のグラフがほしいとの声もあり、性教育関係者の熱意を感じることができました。愛する二人の新しい選択肢 女性用コンドーム。人数が集まれば、出張説明会も行いますヨ!

---

連絡先 〒101-8444 千代田区神田錦町 1・27 大鵬薬品工業(株)MFプロジェクト  
TEL 03-3294-4527 (代表) ホームページ: <http://www.taiho.co.jp/myfemy/>

---

---

### Bee Hive市川

「Bee Hive 市川」パンフレット配付とキルトの展示。  
レッドリボンをつけた手作りティベアをプレゼント  
したりしました。

毎月第4土曜日、「市川教育会館」(JR本八幡南口より  
徒歩7分) 1:30~ やっております。

ぜひ一度いらして下さい。お待ちしております。



---

連絡先 〒272-0002 千葉県市川市二俣1-8-1 イトーピア市川マンション505号  
TEL/FAX 047-327-0320

---

---

### CRIATIVOS・HIV/AIDS関連支援センター

CRIATIVOS(クリアチヴォス)は現在、約28万人にも上る在日ラテンアメリカ系住民を対象にポルトガル語・スペイン語でのエイズに関する様々なサービスを提供し、総合的なエイズ予防活動、AIDSの影響を受けている人たちの生活の質(quality of life)を高めることを目的としています。CRIATIVOSの活動は在日ラテン・アメリカ系外国人と日本人のスタッフでポルトガル語・スペイン語ができ、かつ専門知識を持つものが主体となって行われています。新宿保健所、港町診療所、国立名古屋病院をはじめ多数の保健所、病院、日本で発行されているポルトガル語・スペイン語の各新聞、ラテン系外国人向けの専門店等のほか、東京都ブラジル総領事館及び厚生省HIV感染症疫学研究班と協力連帯をもとに活動を行っています。

CRIATIVOSの主な活動: 在日ラテンアメリカ系住民を対象にHIV/AIDS予防・啓活動、新宿保健所及び、港町診療所にてポルトガル語・スペイン語によるHIV抗体検査前後のカウンセリングとHIV/AIDS電話相談、HIV感染者・AIDS患者とその家族への精神心理的サポート及びカウンセリング、エイズ医療専門の通訳、そしてHIV感染者・AIDS患者が帰国の場合、母国との連絡・準備の支援を行っています。



---

連絡先 〒228-0024 神奈川県座間市入谷2-136-76 レオパレス11-202  
Tel(電話相談): 03-3369-7110(木曜日13:00時から17:00時まで)  
045-451-1211(月曜日14:00時から18:00時まで)  
E-MAIL: [elisaai@heige.ocn.ne.jp](mailto:elisaai@heige.ocn.ne.jp)

---

---

## H. I. Voice編集局

---

1. H.I.Voiceバックナンバーの抜粋掲示
2. H.I.Voice Digest の配布
3. H.I.Voice 合冊本の販売など

多くの来場者に興味を持ってもらえた。



---

連絡先 〒198-0032 東京都青梅市日向和田 3-663-5 メール:voice@Japan-mail.com

---

---

## 「聞かせて！教えて！AIDSのあれこれ～啓発用DVD操作体験コーナー～」

---

平成11年3月、エイズ予防財団から「エイズ啓発用DVD」と「予防啓発パネル5枚」が都道府県、政令市に配付されているのを御存知ですか？神奈川県では、各保健福祉事務所が行うエイズキャンペーン・講演会の会場に貸出をしています。この器材は、DVD・パネル(両面10種類)・イーゼル(5本)がセットになっています。電源が確保でき、屋内であれば自由に活用できます。この器材をイベント等で活用できることをPRしたく会場に2台設置しました。

当日の器材操作は、地域の保健所保健婦が担当しました。器材の活用方法以外にも、保健所等でのHIV抗体検査と相談の紹介や啓発用パンフレットの配付、講演会の企画についての紹介をしました。

総合窓口のレイアウトや来場者へのインフォメーションは、会場ボランティアと協力して実施しました。DVDの詳しい内容や貸出については、保健予防課まで。

---

連絡先 神奈川県衛生部保健予防課エイズ・感染症対策班  
〒231-8588 (住所表記不要) 神奈川県横浜市中区日本大通1  
TEL045-210-5117 FAX045-210-8863

---

---

## JAPANetwork

---

英語のレスンプラン、ニュースレター、  
VIDEOを展示、紹介。  
英語のポスターの展示。

# JAPANetwork

aidse@gol.com

www.japanetwork.gol.com

---

連絡先 〒470-0125 愛知県日進市赤池1丁目1509番地 ラ・メゾン赤池403  
TEL/FAX (052) 806-5534 e-mail aidse@gol.com

---

---

## AIDSを伝えるネットワークTENCAI (てんかい)

---

TENCAI (てんかい) では、エイズを伝えるためのさまざまなプログラムを開発、実施しています。ブース展示では、TENCAIが「エイズを伝える」ことについてもっている考え方を示したり、開催しているサマーキャンプやワークショップ、エイズを伝える人を対象にしたトレーナー・トレーニングなどを実施について簡単な内容を紹介したりしたほか、現在進行中のプロジェクトの報告もしました。展示中に参加者や周囲のブース出展者との意見交換もでき、有意義な参加となりました。

---

連絡先 エイズを伝えるネットワークTENCAI (てんかい)  
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋 1-36-3-305 TEL/FAX 03-5256-3534

---

---

### コンドーム専門店 “ コンドマニア ”

展示内容 コンドームの専門店“コンドマニア”は、ショップオリジナルコンドームやユニークなコンドームを中心に展示をさせて頂きました。



---

連絡先 シーロードインターナショナル(株)コンドマニア事業部  
東京都港区西麻布 2-13-15 大山ビル8階  
TEL 03-3406-6641 FAX 03-3406-6643 <http://www.condomania.co.jp>

---

---

### MITLEBEN

MITLEBENは1999年12月24日に設立された新しいNGOです。私たちは日頃「エイズを取り巻く誤解や偏見、差別について考えよう！」をテーマにティビエ教室の実施や、小・中学生との交流を積極的に行っています。団体名のMITLEBENはドイツ語で「共に生きる」という意味です。この団体名には色いろな人たちが共に生きていくことのできる社会を目指したいというメッセージが込められています。

今回、私たちは日頃の活動報告の一環としてティビエ教室の紹介と、平成12年3月に横浜市立野七里小学校を卒業した6年1・2組の皆さんが作製したメッセージキルトの展示を行いました。

また、目黒にあるブティック「ル・フェリエ」の店長のご好意により、アジア各地の障害者たちの作製した商品の販売も併せて行い、好評を博しました。「ル・フェリエ」では売り上げの一部を、教育・福祉が充実していない現地での学校設立の支援金としています。ぜひ一度足を運んでみてください。「ル・フェリエ」の連絡先は03(3440)4336です。

---

連絡先 〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町2-66 満利屋ビル8階 YAAIC内 MITLEBEN  
PHONE&FAX 045(252)6513

---

---

### “人間と性”教育研究協議会かながわサークル

性教協かながわサークルは、豊かなセクシュアリティや性教育について学習・活動を行っている研究団体です。

今回は、性教育の教具や実践資料・既刊の会報等を展示、配付しました。

“人間と性”についての理解や学習の必要性について共感を得られました。



---

連絡先 〒247-0063 鎌倉市梶原1-18-2 鎌田方 TEL:0467-44-5185

---



---

### 横浜AIDS市民活動センター

活動センターのPRと、オリジナルコンドームケース「オーケース」の展示・配付を行いました。（「オーケース」は、HIV予防に有効なコンドームを若い人たちに携帯してもらおうと、センターで企画・作成した啓発物品です。）

横浜AIDS市民活動センターとは・・・地域や学校、職場等でのエイズへの取り組みを支援するため、平成7年7月横浜市中区に開設され、AIDSに関する情報の収集・提供やボランティア活動のサポートを行っています。活動センターには情報スペース（エイズに関する資料・書籍・ビデオ・関連グッズなどを多数そろえて閲覧及び貸し出しを行う）、作業スペース（印刷機や紙折器などを自由に使うことができる）、ミーティングルームなどがあります。皆様のご利用をお待ちしております。

---

連絡先 〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町2-66 満利屋ビル8階  
電話 045-262-8881 Fax.045-262-8882  
開館時間：平日（月曜休館）13:00~20:00. 土日祝祭日 13:00~17:00

---

---

### かながわレッドリボンクラブ

かながわレッドリボンクラブでは、横浜YMCAで行われている「かながわエイズボランティア育成講座」の参加者が中心になって、AIDS文化フォーラムや世界エイズデーかながわなどでボランティアを行っています。

今回は、2000年7月の「ひらつか七夕まつり」会場内エイズ予防財団のブースでの啓発活動の写真を展示しました。



---

連絡先 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内  
TEL045-662-3721 FAX045-651-0169

---

---

### 性を語る会

代表の北沢杏子が国連人口募金事業・専門派遣員として、ラオスにて教育宣伝活動を3年間計画で実施。一地球上には、約12億の非識字者がくらしている一をテーマに、ラオスでの「エイズ教育」をパネルにて紹介。

エイズに関する書籍・ビデオ・レッドリボンを販売。一年に一回お会いする常連さんもでき、近況や情報交換のたいへん貴重なスペースになっています。

来年もよろしく。



---

連絡先 〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3-5-6 アーニ出版内  
電話 03-3708-7326 Fax 03-3708-7324 shima@ahni.co.jp

---

---

神奈川県衛生部保健予防課

---

① 夏のかながわレッドリボンウイーク特別写真展

「愛情は大切な薬です。～ルーマニア エイズと闘う子どもたち～」

② 第8回 かながわエイズポスターコンテスト入賞作品展(20作品)

今回の構成 ①写真35枚展示/ビデオ「ルーマニア エイズと闘う子どもたち」上映

書籍販売/ルーマニア・エイズチャイルド基金への募金

②入賞作品展(一般の部 10作品 中学・高校生以下の部 10作品)

\* この作品は、横浜AIDS市民活動センターが保管。無料で借りることができます。

参加者感想

何も知らない子供たちがHIVに感染したことにより、苦しみを味わい死んでいく姿は心が痛みます。子の幸せは両親の幸せでもあるはずなのに残念です。この現実をもっと若い人達に伝えてゆきたいです。

\*浅井さんの発表プログラムの報告は\*\*ページに記載されています。

---

連絡先 神奈川県衛生部保健予防課

〒231-8588 横浜市中区日本大通り1 TEL:045-210-5117 FAX:045-210-8863

ルーマニア・エイズチャイルド基金(代表 浅井淳子)

〒211-0065 川崎市中原区今井仲町 354-1-303

\*海外出張が多いため、必ず手紙をお願いします。

---

---

堺正章エイズ基金(M's Foundation)

---



1992年に設立され、無理をしないで“をモットーに、フェンドレイジング企画、PHAとの交流、患者会、民間支援団体への助成を行っている。

今回は、岡田美里デザインのオリジナルエプロンと、堺正章率いる“ソフフィルトレ”Tシャツを販売した。

---

連絡先 堺正章エイズ基金(M's Foundation)

〒151-0064 渋谷区上原3-1-14 アピカ代々木上原・II502 アトリエミリ・ミリー内

Tel.03-3466-4550 Fax.03-3466-2203

---

## 実行委員会特別プログラム

### ～岡田美里と語るエイズ～

(岡田)

今日は、このようなフォーラムにお招きいただきありがとうございました。毎年このフォーラムが行われているのは、報告書などもいただいておりますので知っていたのですが、今回はここに足を運ぶことになりまして、感慨深いものがあります。

このフォーラムは、それぞれのグループや個人が自分達で時間内の運営をしていき、自分たちの良さを出していくイベントなんです。このお話をいただきましたのが6月でしたので、あまり用意ができなくて、今日は行き当たりばったりですが、その方が良さもあるかと思っています。ただ、Veryという40万部位発行されている雑誌の取材がありましたので、その雑誌には今日私がここに来るということは載せました。事務局の方にもずいぶんお問い合わせもいただいたそうで、今日は普段エイズに関して詳しく知らなかったという方も来ていただいていると思いますので、今日はそういう人たちにも向けてもお話ができたらいいと思います。

今回のプログラムに私の方から出ていただくように頼んだ谷川徹さんです。彼は私と出会って1年位です。レッドノットというグループを立ち上げるので私の事務所を訪ねて下さいました。それから、仕事の関係で、よく顔を合わせています。谷川さんはご自身が感染してらっしゃることを公表しており、今、一番熱心に活動されているのは、そのレッドノットというグループの活動です。では、谷川さん、自己紹介をお願いします。

(谷川)

ご紹介を受けたレッドノットの谷川です。レッドノットは大きな会ではなくて、感染者のグループ活動のような集まりです。そこで、患者として話をし、みなさんに共存を望んだりする会を開いたりとか、美里さんにお願ひし、お仕事のない人たちが製作物を作って売っていくというような活動をしています。ですので、感染者としてどうやって生活や活動をしているのかを伝えられたらいいなあと考えて来ました。宜しくお願ひいたします。

(岡田)

私と、今日の司会の小池すなほさんとの出会いは、小池さんが私の主人の堺正彰と同じ事務所に所属して

いて、HIVと人権・情報センターの10周年のパーティでものまねを披露して下さいました。すごく才能豊かな方で、それ以来いろいろなイベントをお手伝いいただいています。今日来ていただいたのは、HIVに関する知識をあまりお持ちではないので、彼女がわからないと思ったことを質問してもらうことにより、あまり知識をお持ちではない方にも理解できるかと思ったからです。講演をしていると1時間以上もお話をしてから、「HIVとエイズは違うのですか?」という質問があったりしますので。

(小池)

今の時点であまりよくわかっていないのですが、HIVとエイズは違うのでしょうか?

(谷川)

HIVとエイズの違いというのは、僕は3年前にエイズを発症してわかったんですね。エイズを発症するというのは、肺炎とか危ないなあという状況になってしまうんですが、お医者さんに厳密に言わせるとCD4という免疫の値が200以下になるとエイズ状態で、それ以上の人はHIVに感染しているということになります。

今言ったように症状によってさまざま変わってくるんですが、CD4が200以上でも症状が出たりするので、境界線が曖昧なんですね。だから、今この人はHIVに感染しているとかエイズだとかというのは日本ではあまり問題になっていないと思います。

(岡田)

今、私のプロフィールにも載せているPHA、People with HIV & AIDSという言葉は、以前はPWAだったりPWHだったりして、People with HIVとPeople with AIDSを分けてたんですね。だけど、5年位前でしたが、人を症状で分けるのはどうかということになり、世界的にPHAということで、感染している人も、それを支えている家族や友人も含めるという考え方に変わってきました。PHAといっても、人によっては肺炎であったり、まったく感染に気づいていない人もいます。感染経路も色々あり、今は血液からの感染はほとんどなくなりましたが、保健所や病院などで調べない限り感染しているかはわからないわけですね。今は10年くらい症状がでないといわれていたので、感染したと思われる時期から10年位経って、なにか調子が悪いと思い、病院に行ったら血液検査をしてわかるということもあります。谷川さんはどうやってわかったのですか?

(谷川)

前は、エアロビクスのインストラクターで教えていたんですね、息が切れて階段を上がれなくなったん

ですね。それでちょっと体がおかしいなと思って。病院に駆け込む前は1段上がって10分休んでという状態だったんですね。病院でも、最初はなかなかわからなくて、麻疹とか言われて、1週間後に肺炎で絶対安静状態になったので、エイズの検査をしていいですかと言われたのが感染告知だったんですが。でも、その1ヶ月前まではエアロビクスを教えてたんですよ。

(岡田)

自分なりに考えていつ感染したのかなあというのはわかったんですか？

(谷川)

まったくわからないです。10年前後って言われると長いスパンですよ。

(岡田)

若ければ、もちろん恋愛もたくさんするし、何人かそういうことがあっても、それは普通のことだと思います。結婚するまで処女でいましょうということも今はないでしょうし、婚前交渉という言葉さえもこの頃はないです。谷川さんは息が苦しくなるまで、自分ではまったくわからなかったんですね。

(谷川)

まったくわからなかったです。

(小池)

息が苦しくなる直前までまったく普通にお仕事ができたわけなんですか？

(谷川)

そうです。

(小池)

では、突然悪くなったんですか？

(谷川)

2、3年前から大きいきびができて直らなかったんですね。皮膚科には通っていたんです。喉のう炎症だと言われて治療していきましょうということになったんですが、ずっと治らなくて。でも、倒れたりとか動けなくなるということはないので。入院した時には生死が危ないと言われて、CD4も29しかなくて、個室に入り親が呼ばれてという状況だったんですね。回復して思ったのは、ここまで来ないとわからない病気なんだなあということでした。

(岡田)

何人が感染していらっしゃるお友達の方がいると思うんですが、みなさんそうなんですか？

(谷川)

僕の割合ですが、周りには50人位感染している人がいますが、5分の1が発症してわかった人ですね。

(岡田)

発症というのは医学的にはどういうことなんでしょ

うか？お医者さんの吉永先生にう伺いたいと思います。(吉永)

まず、単語の説明をします。エイズの原因となるウイルスをHIVといいます。エイズウイルスともよんでいます。つまりエイズウイルスとHIVは同じ意味です。今日はエイズウイルスという言い方をします。エイズウイルスは色々な感染経路で体の中に入ります。身体のどこにはいるのかというと、血液の白血球の中です。さらに詳しくいうと白血球の中にはリンパ球という種類の細胞があります。さらにリンパ球にはいくつもの種類があります。中でもCD4という窓がついているリンパ球があり、これをCD4リンパ球といわれ、略してCD4と呼んでいます。この窓をめかけてウイルスが入り込みます。エイズウイルスが入ったCD4リンパ球はウイルスごと死滅しますが、体はCD4リンパ球を作り続けます。一方で、エイズウイルスも爆発的に増えています。そのせめぎあいの中で起こります。そのせめぎあいの中でウイルスの量がだんだん増えていき、CD4リンパ球が減少します。CD4リンパ球は免疫機能を担当しているわけですから、抵抗力がなくなってきます。この抵抗力がある程度まで低くなった状態を発症といいます。それで、いきびが治らないという状態になっていたわけですね。一口に発症というと、目に見える状況になるという感覚かもしれませんが、今もう一度、発症って何なんだろうと考えだすとわからなくなっています。

谷川さん、今のCD4はいくつですか？

(谷川)

今は250位です。

(吉永)

先ほど谷川さんがおっしゃった発症の値で考えていくと、今は発病前の段階になっているわけですね。ということで、なかなか発症といっても、複雑になってきています。ひらたく言うと、感染したことにより体の免疫機能をつかさどる白血球がだんだんウイルスの力が勝ると減ってきて、体の抵抗力がなくなって次から次へと病気にかかるのが発病という段階。今は治療によって、発病よりも前の段階に戻すことができます。

(岡田)

ですから、以前はエイズという病気になると、マスコミでセンセーショナルな写真が出たりしましたが、谷川さんのように入院までして生死の間をさまよった人もこのように元気になれています。2年前の「神様もう少しだけ」が放送されて、深田恭子ちゃんがこの会場に来たりしましたが、その頃と今も状況が違っています。谷川さんはそういった状況の中で、元気になってきたわけなんです。今おいくつでしたっけ？

(谷川)

31歳です。

(岡田)

これからまだ50年位生きていく時に、それまで生計を立てていたエアロビクスのインストラクターはもうできなくなり、どうしようと思った時に、彼が通っていたNGOのふれいす東京の仲間と自立していくグループを作ろうということになりました。それで、レッドノットができたんです。彼が自立しようとして、どうしようと思っている頃に私と出会ったわけです。

(小池)

レッドノットは感染している方たちが、治療法が進んだことにより生きていけるようになったので、その先を考えようというグループなんじゃないですか？

(谷川)

そうですね。実際に仕事を作っていくということもしてますし、あとは、差別とか偏見にあうわけですね。例えば、部屋を借りるといふ時に、エイズの人には部屋を貸せませんと言われたこともあります。また、体調も回復して、退院した1年半後に就職したいと思って、服飾関係に最終選考まで残ったとき、薬を飲まなくてはならなかったりしたので、僕は障害者でこういう病気なんですと言ったら、急に態度が変わってしまい、もう決まってしまいましたと言われました。そういった経験をしている人がけっこういるんですね。そういうことは伝えていかないと変わらないので、そういったことを伝えることもメインの活動になっています。

(岡田)

現実にそういう差別・偏見というのは起こるんです。私も、堺正彰エイズ基金というのをやっているんですが、この基金は堺正彰という名前を知っている人が寄付してくれた方がより多くの基金が集まるのではと思ってこの名前をつけました。ただ、チャリティパーティなどでは、パンフレットにエイズという名前が載るのは避けたいというスポンサーがいて、翌年から参加していただけないこともありました。

また、エイズ予防財団という厚生省の外郭団体の人から聞いたお話ですが、アジアの女性がエイズに関する講演をして、その会場に参加していた経団連の方が「あなたの国では、私たちのような企業にエイズの患者・感染者が出た場合にどうやって排除するんですか？」と聞いたそうです。そういう時には、60歳以上の方は自分にはエイズは関係ないような顔をしてますが、その方のお子さんやお孫さんの問題なんですよと言うんですよとエイズ予防財団の方は言っていました。

そういう差別・偏見が現実にあるんです。彼のグル

ープにいる人はだいたいそのような理由があって、仕事を探しています。私は去年から実際に仕事として、彼らと付き合ってきたんです。ホームページを作る技術を持っている方もいて、私のホームページを作ってもらっているんですよ。何日かに一度メールでやり取りして、自宅でホームページを作ってもらっています。仕事ですから、色やデザインを変更して欲しい時はあります。谷川さんとどんな仕事で関わっているかという、Veryという雑誌で去年の7月号に私の企画でブラックフォーマルの特集をすることになり、その中にレッドノットの縫製で何か規格品を乗せたいと思ったんです。黒いシンプルなバックとか袱紗入れとか数珠入れを私の方でデザインして、レッドノットの方が私の事務所のミシンで作ったんです。それを通信販売することにしたんです。本が発売になったら、毎日注文が入り、バックだけで200個位売れたんです。注文が多くて、いろいろな方が来てお仕事をしてくださいました。ただ、注文して下さった方をあまりお待たせすることもできなかったのも、ある数まではレッドノットのお仕事として、それ以上は他の工場で作っていただきました。

(小池)

それはレッドノットの実績として残っている訳ですよ。

(岡田)

でも、なかなか大変でしたよね。

(谷川)

すごいおしかりを受けました。こんなじゃだめじゃないという。(笑)でも、一番大切なことだと思うんですが、エイズ患者だからと言って、悲しんでとか、すべての人が手を差し伸べてほしいわけでもないと思うんです。すごく対等につきあってほしいんです。薬を飲んだり、病気であるということさえわかっただけで、怒ってほしいし、悪いことをしたら言うのではないで、対等につきあってくれる人です。

(小池)

たとえば、今日ご来場いただいているみなさんが、PHAとつきあう時には、遠慮しないで言いたいことは言えたいし、頼みたいことは頼めたいということですか？

(谷川)

そうですね。薬を飲んでいることをわかってもらって。それも「薬を飲んでいるんです。」と言った時に、「私も頭痛薬飲んでいるんだよ。同じだね。」と思ってもらいたいです。

(岡田)

そうですね。私もこの活動をはじめた時に、昔のことですか感染者の方に会うということに動揺するっていう状態はもちろんあったんですよ。私も今の小池さんと同じ位にわからない中で、エイズ基金を設立したんですよ。当時、平田豊さんという性感染で初めてペンネームとお顔を公表した方がいて、平田さんは忙しかかったので、バディと言って、訓練を受けお手伝いをする人も常に側にいたんですよ。そういう状況で、彼は日本中をまわってたんですよ。その方が家に来たいとおっしゃって、家にいらしたんですが、私は感染した方に初めてお会いするんだということで、何を話したらいいんだろうと思いました。でも、今、彼らと一緒に活動していて、今は病気の話とかは出ないですね。ただ、どうしても周りにそういう人がいる人は少ないし、共生は難しいと思うのかもしれないけど、私かみなさんの前でお話する時はこうやって共生しているんだよとお伝えしたいと思っています。

(小池)

今のお話ですと、PHAも機会があればお仕事をしたいと考えているわけですが、そういう場合PHAでない人は何から協力すればいいんでしょうか。

(吉永)

まず、関係ないやと思わないところから初めてほしいなあと思うのですが。たくさん情報があるんですね。役所にもパンフレットがたくさんおいてあって、それを手に取ることや今日のお話を家族に伝えたりしてほしいと思います。また、感染している、いないに関わらず、予防をしていただきたいと思います。感染者も感染を重ねると病気が進むんです。だから、感染者も予防してもらいたいです。また、何かの活動に参加してほしいです。

(岡田)

何かの活動に参加するのは大切です。

(小池)

話は変わりますが、なぜ岡田美里さんがエイズ基金の活動をされているのか聞いてみたいのですが。

(岡田)

私は当時、堺正彰チャリティゴルフコンペの運営に関わっている一人だったんですが、平田さんが出ていらして今よりもマスコミで話題になっていたの、ふとエイズの方を助けるチャリティをしたらどうかと思いついたんです。当時、エイズに関して何かの活動をしていたわけではなかったんですが、たまたまエイズに関するチャリティコンサートをする際にスポンサーがつかず落胆している人がいることを知り、そこにチャリティをしたんです。その後、HIVと人権・情報

センターの存在を知り、ニュースレターを読むようになり、そこから徐々に活動するようになりました。

話は変わりますが、芸能人も偏見を受けているんですね。私も堺も芸能人の家でしたから、子供の頃からありました。例えば、谷川さんも新しい友だちに会うときに「この人は感染しているんだよ。」と言われて、そんなことを言わなくてもいいのにと感じたことはありませんか？

(谷川)

美里さんと以前に話したんですが、感染者はそういうことで傷ついたり、この人には言うべきかそうでないか悩んだよって言ったんです。そしたら、美里さんは、私は芸能人としてみんなからどう思われているのかが気になるって言ってきて、同じ土壌でものをみて言ってくれたのが嬉しかったです。

話は変わりますが、どの人がエイズに関して理解があるのかっていうのはわからないし、たとえ理解があると言葉で言っても頭が固くて、SEXで感染したなんて信じられないって思う人もいます。僕はある程度開きなってますが、そうではない人は針のむしろ状態だと思うんです。

(岡田)

薬を飲むタイミングとか病院に薬をもらいに行くために月に1仕事回休むことが、PHAであることを話していないから、周りの人からどうして？って思われてしまうんです。また、妊娠した時点でわかった人が、子供を産んで、月に1回病院に行くときに実家のお母さんに子供を預けるとします。お母さんからどこに行くの？と聞かれて、返答に困るということもあります。そんな、いろいろな問題があります。

私も堺もレッドリボンを付けているんですが、レッドリボンをつけている人にあつた時にどう思いますか？

(谷川)

ほんとに個人的な意見ですが、付けていてもほんとに理解している人は少ないと思うけれど、つけているということはちおう関心があるという証であるから、うれしいことではあります。でも、ちょっと冷めた部分もあって、この人はつけているけど、ほんとうはわかっているんだろなあと思うこともあります。

例えば、タイではHIVに感染している人が多いですね。自分の家族や身近な人が感染しているので、身近なんですね。だから、差別はあっても、日本みたいに誰にも言えないとか親にも言えないというのはありえない話なんですね。日本では毛色の違ったものには他人事と思うようです。

(岡田)

毛色の違ったものっていうのは、芸能人も同じで、どうせ美里さんは芸能人なので家事なんてしてないんですよ、と言われることもあります。でも、みんな人間なんだから、朝起きてご飯食べて、夜寝てというのは同じなんだと思うんです。でも、みなさんはそういうことをはっきりと言ったりはしないですよ。私は平田さん以降、いろいろな方とお会いする中で、わからないことは直接聞いています。

(谷川)

わからないことを直接聞いてくれる人は、興味があっていい方向にむかうんだなあという気がします。ただ、言わないで陰で言っているなあというのは態度でわかります。だから、わからないことは言ってくれた方がいいです

(岡田)

先進国の中で、感染者数が減ってきていないのは日本だけです。日本は増え続けています。だから、増えていく現実が待っている中で、感染している人達、慢性疾患を持っている人たちと一緒に暮らしていくという考え方をしないといけないです。

ここで、谷川さんの活動を紹介したいと思います。タイでは女性が中心になっているグループがあり、感染者が多いが、いい薬をたくさん飲める人がいるわけではないし、お医者さんにどうせ死ぬんだから薬を飲まなくていいと言われてしまう地域があるんです。そこで、彼がその地域に行って、その人が自立できるような活動をしたいと思っています。

(谷川)

日本で、美里さんに手伝ってもらったりして、いろいろな製作物を売ったんですね。そのことが昨年のマレーシアの会議で発表されたりして、タイのNGOの日本人の方から、ぜひタイでもやってもらえないかと言われ、調査に行ったんです。ひどい状況なんですね。薬も何もない状態で、お医者さんもエイズは死んでしまうんだから、治る見込みのある人に先に薬をあげなくてはいけないから、あなたは来なくていいよと言われてしまうんです。日本でいうとカリニ肺炎が発症して、その菌が脳とかに入ってくる状況は非常に危ないんですが、あなたはまだ悪く、もっと悪い人がいるから家で待っていて下さいと言われ、2、3日後に亡くなってしまうということも起こっています。そういうことを目の当たりにして、自分が発症した時の気持ちそのまま薬がなかったらどうだろうと思ったんですね。現地のNGOは青年海外協力隊の母体のJICAなんですけど、先生とか医師とかは偉いという意識があって、偉い人が来たと思ってお金を配られるのを待つ

ている状態なんです。

でもタイの人が自分たちで行動を起こさなければ、タイの感染者は多すぎて、どうにもできない状況なんです。同じ立場でそういう活動をしている人に、ぜひやって欲しいということで、この話が来ました。数回行くようになって、ぬいぐるみの縫製の仕方とかを教えてくださいますが、今やっと形が見えはじめていて、ティベアが1ヶ月に100体位はできて、持って帰れるようになったんです。クオリティコントロールというのですが、日本の物はクオリティーが高いので、タイのは100体作って、持って帰ってこれるのは10体~20体なんですね。でも、繰り返していくうちに、だんだんとできるようになってきたので、ぜひ今度は美里さんにデザインをしてもらいたいと思っています。また、NGOが苦手だと言われている広報も美里さんのご協力でメディアにのせたりとかしてきちんとしたいと思っています。

今、関わっている人が、20~30人の女性であり母親であるんですが、その人たちに薬を飲むという選択肢をできるようにしたいと思っています。これは大きなプロジェクトではなくて、小さいところから始まると思うので、無理なく手の届くプロジェクトとして、ぜひ成功させたいと思っています。

(岡田)

エイズの活動に関しては、小さいところでやることほど成功すると言われていて、ゲイの専門とかレズビアン専門としてそこに向けて活動していくと、そこに活動が浸透していくんです。彼が活動しようとしているタイの地域の女性は、農業もできないくらい山奥で、ご主人が出稼ぎに出て、都会で何かがあり感染し、戻って奥さんが妊娠して分かるケースが多いんです。少なくとも母子感染予防のために、妊娠3ヶ月の時から薬をあげたい。10ヶ月まで薬を飲みつづけ、帝王切開で産めば、母子感染の率が下がるんです。そして、粉ミルクを提供してあげれば、母乳からの感染も防げるというので、感染を防いだ子供を産ませてあげたい。でも、母親の体調が悪くなっていくことによって、産まれた赤ちゃんが成長する前に母親が亡くなってしまうこともあります。ですから、孤児院とか生活している家を作っていきたいというのが彼が行っている活動です。

(小池)

今は、小さい活動でも将来的には大きな活動になっていくんですね。今は、谷川さんが一人で行っていますよね。この活動に参加してみたいという方がいましたら、どこに連絡すればいいんですか。

(岡田)

ティベアをバザー等で販売していただくご協力をお願いしたいですね。

(小池)

では、ここで皆様からのご質問を受けたいと思います。

(観客)

私に関わっている薬害のボランティア活動では、感染者がふさぎこんでしまうことも多いんですね。そういう人たちが、人前に出て話をできたりするようになるには、どうしたらいいんだろうと思います。

(谷川)

性感染を僕が象徴してしまったように思われてしまったかもしれませんが、血友病の方でも性感染でも、最初にふさぎ込んでしまうのは一緒だと思います。ふさぎ込んでいて、こんな人前であっけらかんと話をする人はほとんどいません。ただ、マスメディアに出て、伝えていくって人も必要なんですよね。こんなことがありましたということ伝えていく役目の人がいないと、絶対に忘れられてしまうんです。

今のようにマスコミは取り上げない、感染者は増えていくという状況になってしまうんです。人権もそのまま、企業でも切捨てられてしまいます。でも、僕もこの活動をしていて、感染者から非難を浴びてしまうこともあります。薬は見せるとか、なんでそんなことを言うんだとか、俺達も被害を受けるじゃないか、お前が出ることによって親にもばれてしまうじゃないかと言われたこともあります。でも、信念を持って活動をしていかないといけないので、決して楽ではないですが、やっています。

(観客)

谷川さんにお聞きしたいんですが、エイズの治療薬は飲むのが大変と聞いているんですが、教えて下さい。

(谷川)

美里さんのアトリエでみんなが薬の時間と言って飲んだりしているんですが、見た感じはどうでしたか？

(岡田)

ひとつひとつが大きいので、飲みこむのが大変だろうと思います。

(谷川)

今は人と会う時間に飲むことを避けられるように、朝食後と夕食後の12時間毎に飲む薬もあるんですが、副作用が大変な人もいます。また、12時間毎と言っても、朝食を食べ忘れる時もあるし、職場や営業先でこそっと飲まなくてはならないこともあります。水を下さいって言える関係ではない時もあるので、毎日のこととなると大変です。

(小池)

薬を飲まないとどうなってしまうんでしょうか？

(谷川)

人によっても違うのですが、その薬が効かなくなってしまうことがあるんです。

(岡田)

あと、何か大変かという、医療費が大変なんです。障害者手帳が交付された時に病状がよくなった人は、障害者手帳がまだにもらえないんです。また、薬を見るたびに病気のことを思い出さなくてはいけないし、元気なのにこれから何十年も薬を飲みつづけなくてはならないですよ。

(観客)

美里さんは家でエイズのことについてお嬢さんにお話することはありますか？また、谷川さんにお聞きしたいのは、タイでの平均月収というのはどれくらいで、薬代というのはいくら位なんでしょうか？

(岡田)

家でエイズのことについて話をするのは、9歳と6歳で、感染経路のことがあるので、まだ、エイズという言葉位しか出ていません。これからは思春期になるので、話はしなくてはならないと思うんですが、思春期になって何かがあった時に話しやすい親であるという関係は持っていなければと思っています。

(谷川)

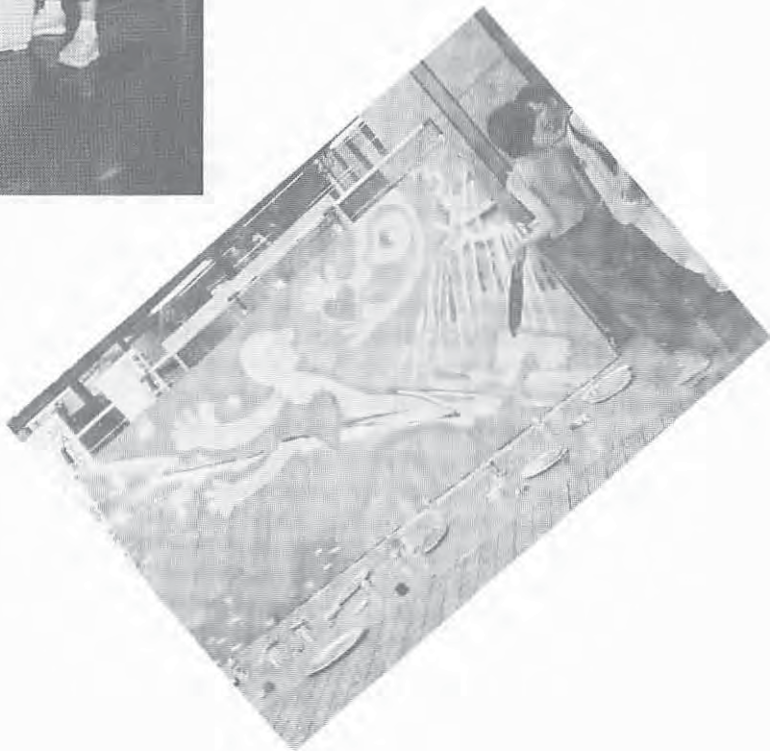
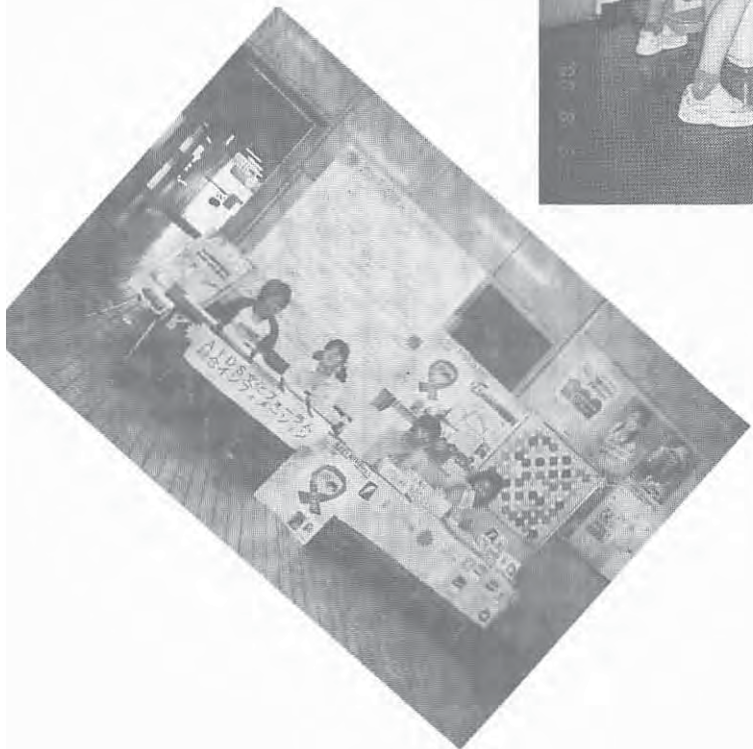
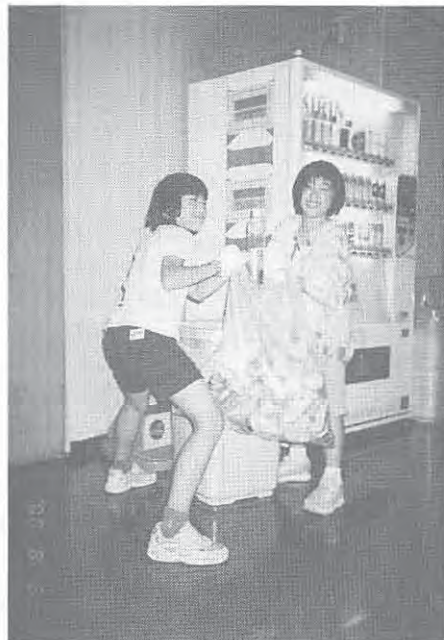
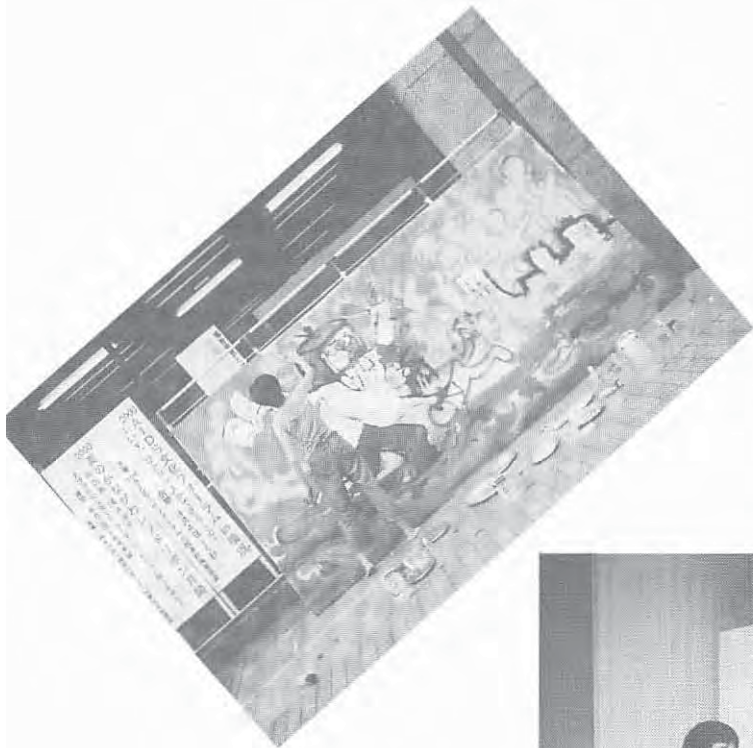
タイでは、日本的に2万円で平均月収です。薬代がほしい10万円で5ヶ月分なので、普通の人か薬を飲むのは無理ですよ。ただ、タイのNGOと政府ががんばって、2剤だけ国内で生産できるようになったので、バンコクなどでは、その国内生産の薬が安く手に入るようにはなりました。ただ、僕たちのターゲットはもっと田舎の地域なので、まだそこまではいいません。僕らは、薬の利益よりも人命を尊重したいので、こういったことはもっと伝えていかないといいんと思っています。

(吉永)

では、ちょうど時間となりました。岡田さん、谷川さん、小池さんありがとうございました。



会場風景（写真でみるAIDS文化フォーラム）



## 実行委員会特別プログラム

### ～神様がくれたHIV～ 北山翔子 聞き手 岩室紳也

#### HIV感染という事実

- (岩) それはどういうかたちでわかったのですか？
- (北) タンザニア派遣中に健康診断があり、医療従事者はHIV感染のリスクが高いので、抗体検査を勧められました。私は何の気もなしに受けたところ、その検査の結果が陽性でした。赴任前は陰性でした。
- (岩) 赴任期間は何年位で、検査はいつ受けたのでしょうか？
- (北) 赴任期間は2年間で、抗体検査は赴任してから1年半後に受けました。
- (岩) 検査結果はどういったかたちで返ってきたんですか？
- (北) 同じ時にエイズ検査を受けた医療職のスタッフは結果が返ってきたのに、私だけ返ってこなかったんです。それで、心配になり、現地の事務所の看護婦さんに「私だけ検査の結果が返ってこないのは、エイズなんじゃないかねえ。」と言ったりしてたんです。ただ自分は感染しているとは思っていませんでしたので、冗談半分だったんですが。
- (岩) まわりには感染者の方は多かったんですか？
- (北) 誰か感染者かというのはわからないんです。現地では抗体検査をするのにすごくお金がかかるんですね。公務員の給料の1ヶ月分位の検査料がかかるので、現地の人は検査を受けません。ただ、働き盛りの30代・40代の方がどんどん亡くなっていったり、出産したお母さんたちが出産後すぐに亡くなったたりということもあり、こういった人たちはエイズで亡くなったのではないかなというようにことはよく耳にしました。
- (岩) そういうところで生活をしていても、自分がHIVを持っているとは夢にも思わなかったんですね。
- (北) 思わなかったですね。
- (岩) 結果を受け取った時はどんな感じだったんですか？
- (北) 結果は村の郵便局で受け取ったんです。封筒が届いていて、日本の事務所の連絡先が書いてありました。これはきっと、抗体検査の結果だと思い、その場で開けました。封筒を開けたら、1枚目の紙に抗体検査の結果が陰性の場合にはマイナスと書いてあると記載されていました。ああ、私はマイナスだったのかと思いました。でも、陰性の場合とはいうけれど私のことではないのかなあと思って、2枚目の紙をみました。抗体検査の結果にプラスという字が並んでいました。
- (岩) それで陽性だということはすぐわかりましたか？
- (北) 自分の身に起こったことが、えっまさかって思ったんですよね。で、こんなはずはないだろうと思って、いくら見直してみてもプラスはプラスなんですよね。その瞬間に目の前が真っ白になって、頭の前から足の先まで血が引いていくような感じになりましたね。郵便局から自宅まで10キロ位距離があり、バイクで帰ったんですが、とにかくフラフラしてました。郵便局で料金をいくら払ったかも覚えてなくて…。郵便局を出て、アフリカの強い陽ざしに当たって、まぶしいいなあと思った記憶があります。でも、家にどういふふうにもバイクを運転して帰ったかは、覚えてないです。
- (岩) そうして家に帰って、それからどうされたんですか？
- (北) 家に帰ってから、とにかく自分はいつまで生きられるのかなあということが気になりました。派遣される前にも

らったエイズのパンフレットを、荷物の中から探して読みました。そこに、3分の1の人は5年以内に発症する、3分の1の人は5年～10年で発症する、残り3分の1人は数十年以上生きているが、新しい病気なのでよくわからないと記載されていました。どこにも治る病気とは書いていない、いずれは免疫が落ちて死ぬ病気という記載しかなかったです。

- (岩) それは何年くらい前の話ですか？
- (北) 6、7年前です。
- (岩) 6、7年前というとちょうど横浜の国際エイズ会議の頃ですから、薬もAZT位しかなかったですね。カウンセリングや相談はどうだったんですか？
- (北) ずっと一緒に仕事をしてた日本人の友人二人に話しました。誰かに聞いてもらわないと自分一人では支えられなかったです。「実は抗体検査の結果がプラスだったので、早く日本に帰国しなくてはいけないので、迷惑をかけることになるけど」と話しました。
- (岩) 抗体がプラスで日本に早く帰らなくてはいけないとは、どういうことでしょうか？
- (北) 私も分からなかったんですが、早く帰ることをお勧めします、詳しい検査をしますと手紙に書かれてありました。
- (岩) では、その必要性があったかは別としても、話して、その反応はどうでしたか？
- (北) 彼女たちは、傷つけてはいけないと思ったのかとっさに出た言葉は「これからまたいろいろ大変だろうから手伝えることがあったら何でも言ってね」でした。

#### 神様がくれたHIV

- (岩) すぐ心の中で整理がつくことでもないですよ。
- (北) そうですね。告知された日はとにかく居場所がなく、さまよってたという感じでした。落ち着けなくて、しばらくしてから、一緒に働いていた現地の看護婦さんに、病気でもう少し早く日本に帰ることになったという話をした時に、「神様はあなたが乗り越ええられるだけの障害を与えてくれる。だから、あなたはこの障害を乗り越えられると思う」と言ってくれました。
- (岩) それか体の題名になったわけですね。
- (北) とっさに自分の周りの人たちが助けてくれることばが通うんですよ。慰めじゃなくて、勇気づけることばもっている彼等がすばらしいなあとも今でも思っています。
- (岩) どうしてそういう素直なことばを言えるんでしょうね。
- (北) 宗教的なこともあるかもしれませんが、日常的に人が生と死に向き合いながら生きているんですよ。
- (岩) 北山さんが赴任していた間に何人位の方がその地域で亡くなっていったんですか？
- (北) 数え切れない。覚えきれぬ数ではないです。子ども達は日常茶飯事に死んでいきますし…。
- (岩) どんどん死んでいくという感じですか…。
- (北) そうですね。
- (岩) そういふ人の死を毎日みているから、生きている人はがんばっていこうよという雰囲気があるんでしょうか。
- (北) そうですね。すごく自分の命を大切にしていますよね。自分はいつどうなるかわからないということを感じているというか、何かあっても不思議ではない。生きられることが幸せって思って生きていましたね。

#### 恋人からの感染

- (岩) ところで、どこで誰から感染したのですか？
- (北) おそらく、つきあってた彼からだと思ったので、彼の

ことが気になって、彼に会いに行きました。

(岩) すぐ近くに住んでいたんですか？

(北) いえ、距離にして700キロ位です。

(岩) 東京-岡山位ですね。

(北) 日本だったら、新幹線で数時間でいけるから、そんなに遠く感じないですよ。でも、アフリカは交通事情が悪くて、バスも一日数本しかない。700キロを移動しようと思ったら、朝の5時半にバスに乗って、着くのは夕方6時半とか、丸一日かかりなんですよ。

(岩) 彼とどういふふうに関わりがあったんですか？

(北) 語学研修旅行っていうのがあって、語学の勉強のために国内をどこでもいっから10日間旅してきなさいというサバイバル旅行があるんですね。それで、私はアリュウシャというサファリの拠点となる町と、モシというキリマンジャロの山が見える町に行きたいと思ってたんですね。そのサファリの拠点の町に彼がいたわけなんです。バスを降りた途端、サファリしませんかって客引きが外国人に寄って来るんですね。サファリっていうのは、野生の動物を見るのに国立公園の中をジープでキャンプするんです。彼はその客引きをしていて一番しつこかったです。最後まで引き下がらなかったです。

(岩) で、結局サファリに行ったんですか？

(北) 行かなかったです。私は客ではないし、何百ドルというお金もないし、私はこの町の人の暮らしを見たくて来たのでと断ったんです。そしたら、ホテルは決まってるって言うので、ホテルは決まっていって言ったし、もういいよって思って煙たそうにしてたんです。でも、いろいろしつこく聞いて来るんです。安くて、きれいなところって言って、連れていってくれることになったんですが、行ってみたら、けっこう小綺麗で安いゲストハウスを紹介してくれて。

(岩) 彼っていうのはタンザニア人？

(北) そうです。タンザニア人です。

(岩) で、アリュウシャで何をやってたんですか？

(北) アリュウシャで市場をみたり、あちこち歩き回ってました。見るもの見るものが珍しくて。

(岩) その後、彼との接点は何かあったんですか…。

(北) いつもバス停の前にいるんですよ。バス停はメインストリートにあるんですが、よくそこを通るんですね。そのたびに、「ショウゴ」って声を掛けるんですよ。ああ、またいるわって思っていました。なんか話しかけたいみたいで、日本語を教えてくださいとか言ってくるんです。日本人が英語が話せないから、日本語が話せない日本人の客は商売にならないんだって言って、で、それで挨拶位なら教えてあげようってことになり、こんにちとはか教えました。サファリはいくらですとか教えてほしいと言われて、ローマ字書きで教えてあげました。

(岩) そうやって、何度か会ったりしていたんですね。

(北) 街角で会ったりする程度だったんですが、旅行期間も終わったので帰らなきゃいけないって町は離れました。

(岩) その後もしつこく追ってきたんですか？

(北) 住所を教えたら手紙がきたんです。君のことが忘れられないと書いてあったんです。くさいですよ。

(岩) 英語で書いてあったんですか？

(北) いえ、スワヒリ語です。でも、読むとききました。なかなか、今の若い人は言わないですね。

(岩) そう言われると、ころっといきそうですか？

(北) 人によりますよね。

(岩) それで、そのことばに答えたんですか？私もあなたのこ

とが忘れられないとか。

(北) いえ、無視してたんですよ。うれしいことはうれしかったですが、距離もあるし無理かなと。適当に返事を書いてましたね。お手紙ありがとうくらいで。そしたら、また返事が来るんですよ。

(岩) こんどは何で書いてあったんですか？

(北) いつアリュウシャに来るのかって書いてありました。

(岩) それで、なんとか手紙のやりとりをしているうちに行くことになったんですね。

(北) そうですね。私、アリュウシャって町が好きだったんですね。涼しく、過ごしやすく、町に活気があったんですね。都会の活気じゃない、明るい活気がですね。それで、また行ってみようかかって思ったんですね。それで、半年くらい後、ちょうどクリスマスの頃に行きました。

(岩) それで結局仲良くなったんですね。

(北) 何で仲良くなったんでしょうね。相手が一途なんですよ。

(岩) 北山さんによっぽど惚れていたということでしょうか。

(北) そうですかねえ。どこに惚れているのかはよくわかりませんが、とにかくまっすぐでした。

(岩) 彼はいくつ位でしたか？

(北) 私より3、4歳位年上でしたから、当時32、3歳位です。

(岩) まあ、30歳前後のカップルなら、つきあったりすれば、当然SEXもしますよね。

(北) そうですね。でも、私ね、タンザニアの人たちって怪いかなあって思ってたんですよ。多くの人は会ったその日に手を握って、君が欲しいとか言うんですよ。

(岩) とてもストレートですね。

(北) そうなんですよ。で、なんでって聞いても理由なんか無いっていうんですよ。君のことが好きだからとか言って、体を求めたりする人が多いんですよ。その中で、彼は出会ったその日もわりとあっさりしてて、君のことがほしいということもなかったです。

(岩) で、2回目の再会の時に、恋人関係になった時にSEXをしたということですね。

(北) そうですね。いつ頃というのは覚えていませんが、2回目の再会の時だったと思います。

知識があっても……

(岩) でも、保健婦さんですよ。アフリカには感染している人が多いから、気を付けなさいと思いませんか？

(北) あまり性感染症については自分自身の意識がなかったですね。ただ、妊娠すると活動が続けられないと思って避妊はしなくてはいけなあと感じていました。

(岩) 避妊っていうとコンドーム。

(北) コンドームです。

(岩) コンドームを使っておけば、妊娠もしないし、HIVももらわないですよ。

(北) その通りだと思います。

(岩) でも、それを実践しなかった。

(北) コンドームを使おうと思って、使ったんですが、うまくいかなかったんですね。

(岩) 彼がつけられなかった？

(北) 彼がコンドームをつけるのが初めてみたいで、アフリカの人たちには習慣になっていないんですね。日本では避妊にコンドームをよく使っていますが、途上国ではピルとかホルモン注射が無料で診療所で受けられるんですよ。

(岩) じゃあ、そういうのは北山さんも手に入った？

(北) 私も手に入りました。

(岩) 彼にコンドームを使ってもらおうとしたけど、うまく使えなかった。で、コンドームを使わずに？

(北) そうですね。妊娠は避けようと思って、彼と話し合いました。彼は私に子どもを産んでほしかったけど、私は今はちょっと無理だからと、薬を飲むことにしました。任期が上がるまで。だから、ピルを飲んでました。

(岩) ピルでは性感染症を予防できません。アフリカ人の彼がHIVを持っているということは考えなかったですか？

(北) まさか、彼が感染しているとは思わなかったです。

(岩) 思わなかった理由はあるんですか？

(北) 理由はぜんぜんないですよ。ただ、まさか、あんな元気な人が病気を持ってるなんてって思いましたね。

(岩) それは日本でのエイズ教育が悪かったんでしょうか？

(北) それもあるかもしれませんが。

(岩) 彼がHIVを持っているのは、これっぽっちも考えずに、子どもだけは作らないようにしようと思ってたんですね。任期が上がるまでピルを飲もうというのは、任期が開始したら妊娠してもいいという気があったのですか？

(北) ありましたね。

(岩) じゃあ、彼と結婚するということも考えていたんですね。

(北) 考えてましたね。真剣に。私は任期の間にタンザニア永住計画を考えてましたから。

(岩) で、HIVに感染しますよという結果がきて、彼にどう伝えたのですか？

(北) そのまま話しました。ちょうど、彼のところに一週間位遊びに行っていて、そこから戻ってきて一週間位たったところだったんですね。で、これから行くからと電話して。仕事が忙しくて出迎えには来てくれなかったんですが、友人を代わりにバス停に迎えに来させて、いつも行っているバーに行ったんですけど。みんなも歓迎してくれて盛り上がってくれて、でも私はうわの空ですよ。その場で彼に、小声で、あなた会いに来たのは、あることを伝えに来たんだよ。私はHIVに感染していることがわかって、これから日本に帰らなくてはいけませんと言いました。彼の方は凍っていましたね。

(岩) HIVというのは、現地ではよく知られてるんですか？

(北) 助からない病気として知られていて、皆怖がっています。

(岩) 彼はどうして凍ってしまったんでしょうね。

(北) どうして凍ってしまったんでしょうね。私の身に起きたことに衝撃を受けたのではと思います。しばらく友だちと話して、中座したんです。彼女がつかれているみたいだから、早く帰って言って、二人で帰ったんですね。で、途中は無言で歩いていたんですが、家について彼が「さっき言っていたことなんだけど。」って切り出して。彼が「抗体検査の結果が陽性だったんだよね。」というので「うん」と答えたら、「大丈夫、僕がついているから。」って言ってくれましたね。

(岩) 翔子さんが感染しているなら、僕が支えてあげるよって感じなんですか？

(北) そうですね。自分が感染しているというのは頭になかったようですね。私は違う、あなたも感染しているかもしれないのって思ったのに。でも、私のために涙を流してくれた彼にはそうは言いづらかったですね。

(岩) 彼は自分の恋人がHIVに感染した。でも、自分からは思っていなかった。

(北) そうとは思ってなかったみたいですね。

(岩) どうしてなんででしょうね。そんなもんなんですか？

(北) そんなもんなんですか？ 私は彼に「もしかしたらあなたも感染しているかもしれないから、あなたも検査を

受けておいたらどう？」と言いました。もしかしたらではなくて、多分あなたからって思ったんですが、そんなことを言っても仕方ないし。今になったら彼に抗体検査を勧めたことがよかったのか、考えることがあるんです。

(岩) どうして？

(北) アフリカは医療事情が悪いので、感染したことが分かって、その烙印を背負って生きていくだけです。日常生活で気をつけることがあったとしても、がんと同じ様に自分の命は長くないよと言われているようなものですよ。私がそれで彼の側にいて支えてあげられたらよかったかもしれませんが、辛い思いだけさせてしまったという気がしますね。

(岩) そこまで考えなくてもいいんじゃないですか。で、彼は検査を受けたんですか？

(北) 受けにいきました。

(岩) 感染してたんですか？

(北) どうだったって聞いたら「僕も抗体検査プラスだったよ」って話してくれて...。「大丈夫」って聞いたら「頭の中が真っ白になって、血の気が引いて..」って私と同じことを言っていました。それでお医者さんはどういったって聞いたら、「野菜をたくさん食べなさい」って言ってたって訳の分からないことを言っているんですよ。(笑)

(岩) あなたも彼も感染の事実を知って、あなたは帰らなくてはいなくなった。帰るにあたって、彼に対する未練とかアフリカに対する未練とかなかったですか？

(北) いっぱいありましたよ。だから、私は必ずここに戻ってこようと思ってました。

#### 上司への告白

(岩) 実際日本に帰ってきて、どうしました？

(北) 日本に帰って、事務局の診療室に行きました。診療室のお医者様に「僕の知り合いの医者に診てもらって下さい」と言われて、当時東大の医科研にいらした岡先生（現国際医療センター）を紹介してもらいました。CD4が630位で、薬も飲まなくてよく、2、3ヶ月に1回位血液検査をしましょうということになりました。

(岩) 職場に復帰したんですか？

(北) しました。事務局の顧問医には、あなたみたいな公的な仕事にある人がこういう病気というのは、どういうものかと思うと言われたのですか？

(岩) 顧問医の方が...。HIVに感染している人は公務員として働いてはかんと...。

(北) まずいんじゃないですかと言われたんです。私は仕事を辞めてどうしようかなあとずっとそのことばかり考えていて、それで、岡先生に仕事のことを相談したら、続けることが可能と言われ、仕事に復帰しました。

(岩) 職場復帰した時、HIVに感染していることは言わなかったんですよね。

(北) 言わなかったです。

(岩) 今でも言っていないのですか？

(北) 今は上司は知っています。

(岩) すぐに言ったんですか？

(北) 最初に言ったのが直属の上司だった婦長さんです。半年ほど経って、CD4の値が少なくなってきて、月1回東京の病院に行き、受診して治療をしないといけなくなったんですね。月に2日間休みをもらわなくてはならないんです。直属の上司の婦長さんに、実はこういう病気でこういうことで月に2日間ずつ休みをもらうことになると思うんですけどって話をしました。

- (岩) 上司はどういう反応をしました？  
 (北) 今まで大変だったでしょうって。仕事は辞めないでねって言ってくれました。すごくうれしかったですよ。  
 (岩) 今まで大変だったでしょうっていうのは、なかなか出ない言葉ですよ。では、その時はその婦長さんだけ話をしてたんですよ。  
 (北) そうです。婦長さんだけです。

#### 家族への告知

- (岩) ご両親・ご兄弟には感染のことは話しましたか？  
 (北) 妹には、帰国してすぐに話しました。  
 (岩) 妹さんは医療の専門職ですか？  
 (北) そうです。看護師でした。今はもう子育て中なので、辞めてしまいましたが..  
 (岩) では、ある程度HIVに関する知識があったんですね。  
 (北) 知識はあまりなかったかもしれませんが、病人に対する心構えのようなものはあったと思います。  
 (岩) その妹さんにお話された時、どんな感じでしたか？  
 (北) 「おねえちゃん死なないでね」と泣かれました。  
 (岩) そうですか。  
 (北) こっちがゆえって辛くなってしまいましたね。  
 (岩) 話しておいてよかったと思います？  
 (北) 今は思います。薬も出来て、調子よくしてるので、たまに「元気にしてる？」って聞いてくれます。  
 (岩) ご両親には？  
 (北) 両親にはなかなか言えなかったです。告知を受けた時は、両親には一生このことは話さないと思ってました。母親がアフリカに行く前はすごく心配して、あなたがアフリカに行ったら、ろくなことはないって言ってましたので。  
 (岩) アフリカ行きを反対されたんですね。  
 (北) 反対されましたね。親子の縁を切ってから行って欲しかったと言われました。  
 (岩) そのお母さんの心配の通りになってしまったというか。  
 (北) そうですね。こんなことを言ったら、母親なんてきっとパニックになってしまうような気がして。余計な心配させるのなら、元気にしているうちは、何も言わない方がいいんじゃないかと思って、黙ってました。  
 (岩) ずっと、親元ではなかったんですね。  
 (北) そうです。めったに顔を合わさないと気がしなくてよかったんですよ。  
 (岩) で、ご両親にはもう話されたわけですよね。  
 (北) 両親に嘘をついているのかつらくなった。お盆とか正月に帰る度に、あなたの様子がおかしいとか、なんで結婚しないのかとチクチク聞いてくるんです。アフリカから帰ってからあなたの様子がおかしいと言うんです。こちらでも後ろめたいことがあるので、言葉を濁すんですね。それが限界にきたんですね。嘘を突き通すのがつらくなってきた。それで、母親と喧嘩したんですね。どうも様子がおかしいとか、あなたみたいな子どもに産んだ覚えはないとか、言うんですよ。  
 (岩) 親がよく使う手ですね。  
 (北) 私も、そういうことを子どもの時から言われてたんです。親の言うとおりにならない子どもなんだからって考えて、辛くなってきたんですね。そう考えていくうちに、当たり前じゃないかって思うようになりました。子どもは違う人間なんだから、親の言うとおりにならなくて当たり前。もし、親に感染している事実を告げて、あなたなんて自分たちの子どもではないと言われても、私はそんな恥ずかしい生き方をしている訳ではないって言えるなって思
- たんです。お正月に帰った時に、ちょっと口げんかをしてしまいました。結婚していないのは恥ずかしいと思わないのかって言われて、「そんなことを言ったって相手がいらないんだから。そんなことばかり言うから、私もこの家に居づらくなるのよ」と言って飛び出したら、母親が泣いてしまいました。二人ともイライラしてしまったんですよ。そんな時、父親が「どうしたんだ、二人とも。何かあったのか？」って言ったんです。母親が「この子がね、なんか隠し事をしているようなのに、それを言わない」って父親に言うんですよ。父親が「そんなこと言ったって、この子だって大人だから、よっぽどせっぱつまったことがあったら、私らに言うてくれるはずや。今は自分でやっていけるから言わないだけだから、大きな目で見守ってあげたらいい」と言ったんですよ。その親の言葉を聞いたら、やはり話さないといけないと思いましたね。  
 (岩) でも、簡単に実は私はというわけにはいかないですよ。  
 (北) そうですね。お正月明けに毎年、私は両親をお芝居に招待してるんですけど、その後に話そうかなって企んでました。歌舞伎を観て、両親も遠くから来ているので、帰らなくてはいけないので、お茶だけ飲むことにしました。でも、なかなか話すきっかけがなくて、もう帰りかけた両親を引き留めて話しました。  
 (岩) どんな感じで。  
 (北) この前からお母さんが、いろいろと心配したり、隠し事をしていていると思っただけで、私にはひとつ言えてないことがあるんです。実は、アフリカから早く帰ってきたのは、HIV感染症という病気だからで、今は病院に通院していて、薬も飲んでる。今のところは調子良いので、そんなに心配がいらない状況ではあるけど、そのことをずっと言えなくて、お父さんやお母さんに気を揉ませてごめんなさいと言いました。  
 (岩) お父さん、お母さん、医療関係者ではないですよ。  
 (北) 違います。  
 (岩) HIV感染症とか今治療してるとか言われてもピンとこないでしょう。  
 (北) 母親は、言ったらパニックになると思ったんですよ。でも、その時はね、何なのそれ？って言ってましたが、エイズウイルスに感染している病気だと言って言ったら、ああそうなのって言ってました。しばらく考えて、なってしまったものは、しょうがないと言ってました。  
 (岩) それからどうしました？  
 (北) それからは、ちょこちょこ電話をかけてくれるようになりました。私はめったに田舎に帰らないんですが、元気にしてるとか言って電話かけてくれるようになりましたね。でも、納得はしなかったし、病気のことは知らなかったと思うんですよ。だから、主治医の先生に私の病状のことを説明してくれるように両親を連れていきました。  
 (岩) 主治医はどんな話しをしてくれたんですか？  
 (北) HIVというウイルスに感染していて、ウイルスが完全に無くなることはないんですが、高血圧や糖尿病のように、薬を飲み続けることによって、いまのところは生き続けられるっていう話しをしてくれました。  
 (岩) 両親もなんとなく安心した？  
 (北) いやあ、なんとなく安心したのかどうかは分かりません。母親はこの子はいつまで生きられるのですかと主治医の先生にしつこく聞いてましたね。まあ、いつまでもとは言えないですが、薬を飲み続けることによって、寿命を全うすることはできるでしょうねと言ってくれて、

安心したみたいですね。

(岩) 家族、職場である程度理解者がいてまあまあですか？

(北) 私はすごく恵まれていると思うんですよ。話した人に傷つけられるとか拒否されるとかいうことがなかったですから、こうして皆さんの前でも話しができます。今は生きていてよかったなあと思っています。へこむこともありますが、生きててよかったって思いますね。

## 恋愛

(岩) へこむとしたら、何でへこみます？

(北) (笑) 失恋とかね。

(岩) アフリカの彼は？

(北) 彼はうまくいかなかったようですね。アフリカは遠いですね。遠距離ですね。時差だけでも6時間ありますね。

(岩) 帰ってきてから、恋愛はしました？

(北) しましたね。でも、彼にはふられましたね。

(岩) HIVのことは彼には言わなかったんですか？

(北) タンザニアで一緒に活動していたボランティアの仲間だったので初めから言っていました。

(岩) 日本に帰ってきてつきあうようになった。

(北) そうですね。お互いにいろいろな経過はあったんですが、でも、なんだかんだと相談とかしているうちに会う回数が増えて、つきあうようになりました。

(岩) で、うまくいかなかったのは？

(北) 突然、職場に気になる人ができちゃって。彼も当時36位だったので、早く結婚して身を固めた方がいいんじゃないかって言われて。それで、職場に気になる人がいるんだけど、どう思うって言われたんです。

(岩) 私はなんなのさって思いますよね。

(北) そうですよ。何を考えていたんでしょうね。

(岩) 結局、それでふられちゃった。

(北) 彼が探している相手は、結婚できる相手。以前に、私とどうしてつきあってるのって聞いたら、「かわいそうだから」って言われて頭にきたことがあったんですが…。私はかわいそうでつきあわれてるのかと思ったら、すごく情けなくなりましたよね。で、そういう言葉でしか表現しようかなかったのかなって、私は善意で解釈してたんですが、彼自身も割り切れてなかったんでしょうね。

(岩) HIVを持っているから、結婚できないと彼は判断した。

(北) そうですね。僕も自分の子供の顔を見たいし、親にも孫の顔を見せてあげたいって言ったんですよ。私だとダメなのかなあったって。

(岩) べつに子供産めるじゃないですか？

(北) 産めますよね。でも、いろいろ考えたんでしょうね。

(岩) この間、国会議員の家西さんのところにお子さんができた。妊娠された時に家西さんにそんな危ないこと、つまり妊娠するようなコンドームなしのSEXをして、とんでもないって言った人がいるって家西さんが怒ってたんです。男が感染している場合は精液中のHIVってもちろん0にはできませんが、男性が感染していない場合女性が妊娠するというのは、ノーリスクでできますよね。精液をとって、それを子宮内に注入するだけで。今のところ、ウイルス量はずっと一定に保っているわけですよ。そういうところのカウンセリングは、パートナーの方に十分にしくなくてはいけませんかね。

(北) そうですね。知らない人が多すぎる。

(岩) 結婚したらもちろんのこと、結婚していなくてもHIVをもらったからってSEXをしなくなるわけではないですよ。そういう男はこっちの方でふっっておいて…。

## 本を書いたきっかけ

(岩) ところで本を書こうと思ったきっかけは何でしたか？

(北) 私は自分史をちょうど31歳の誕生日に振り返って、いままでこうして生きてこれたのはみんなのおかげだと思ったんですよ。自分の記録に残したくて文字にしました。若い年代の人たちっていうのは、私を含めてなんです。知らないうちに感染してしまうってことがよくあるんですね。その体験を多くの人たちに知ってもらえたら、ちょっとは役に立つかなあと思って、本にしました。

(岩) ご自身で読まれてどうですか？

(北) 自分のことながら涙が出てきてしまいました。

(岩) あなただって知って感想をくれた人はどうでした。

(北) 勇気づけられたという感想が多かったです。しぶとくたくましく生きる姿に。

(岩) しぶとく、たくましく？ 確かにそういうところはあるんですが…。北山さんがしぶとくもたくましくもなく、押すとポキッと折れてしまいそうで。

(北) でも、自分でも感心する位しぶといですよ。

## 恋愛するなら命がけ

(岩) 恋愛って盲目的ですよ。そんな恋愛でHIVをもらってしまったあなたから、今HIVを持っていない、これからSEXする若者たちに贈る言葉は何ですか？

(北) 恋愛する時は命がけで恋愛をした方がいいと思います。ただ、自分のことも大切にしないといけませんし、相手のことも大切にしないといけません。中途半端な恋愛はよくないですよ。

(岩) きっちりお互いに話し合っただけで恋愛をなさないと。そういうメッセージが若い人たちに届くといいですね。

(北) いいですね。

(岩) ということで皆さんの感想はどうでしたでしょうか？

## フロアとのやりとり

### メディアとエイズ

(参) メディアでエイズが取り上げられる時は、暗いイメージで取り上げられますが、そのイメージと感染者としての北山さんとのギャップを感じると思うんですが、それについて一言感じることを一言お願いします。

(北) メディアで取り上げられるエイズっていうものを私は目にすることがないので、よくわからないんです。テレビがないんですね。暗いイメージというのは、聞いているんですが、マスコミの方は暗いようにした方がインパクトがあると思っているんでしょうかね。ただ、それについて私がどうこう言うこともなくて、私の話とか聞いてもらって、何か感じてもらえればいいと思っています。

## 南北問題

(参) 今日はいいお話をありがとうございました。北山さん自身は日本に帰ってこられて、辛いこともあったと思いますが、薬で命をながらえることができるんですね。でも、一方では薬を得られる人と得られない人の格差が大きくなってきて、薬ができたからすごく不公平になったと思ったんです。世界の格差が激しくなっているんですが、何か思っていることがあれば、聞かせて下さい。

(北) もともと、途上国と先進国の格差はあると思うんですよ。私がアフリカに行った時も、日本では助かることが、現地では助からないんですよ。下痢や脱水で死んでしまう。農村の人たちはそれはそれでその人の運命と受け止めているんですよ。それを私たちが見るとかわいそうと

思ってしまうが、彼らは彼らなりに一生懸命生きているわけで、それはそれでいいのではと思っています。世界はすべて同じレベルになることはないと思いますが、その国その国で文化が違い、私もどうしてこの人が死んでしまうのだろうと思っても、私にはどうしようもないと思うんですよ。厳しいですけど、先進国の人たちって、どうなんだろと考えることがあります。私も、薬を飲みながらこれでいいのかと思うこともあります。でも、それはきっと運命であると割り切っているし、そうでない私も生きていけないです。

(参) その気持ちはよくわかります。あなた自身が愛が好きだという気持ちはすごくアフリカ的ですが、ただ、僕はその格差にこだわっているんですね。今は情報化時代ですよ。途上国の人もその意味で私の運命だと受け止めにくなっているし、テレビを見ていけば格差も分かるし、もう一方で、途上国で薬を作れる技術を持っている国も増えてきているけれど、薬の特許の問題で、そんなこともできないとか、もともとあった格差がますます胸につきささる格差になってきているように思います。ぜひ、どういう形であれ、アフリカに関わり続けて下さい。ありがとうございます。

#### 啓発パンフレット

(参) 私どもも行政と組んで、予防啓発活動をしているんですが、予防啓発活動について保健婦さんという立場から、日々感じることを教えて下さい。

(北) まず、パンフレットですが、現場では選べない。厚生省から認可されているようなパンフレットなので、あまりいいのがないんですよ。民間の団体で作っているのがいまいちかと思って、そういうのを買いたいと申し出ても、予算はもらえない。一番気になるのはこういうことをしてもうつりませんか、こういうことが危険な行為だけで、啓発している。そんなことはみんなわかっている。けっこうSEXって本能的な行動だったりするんですよ。今の若い人と啓発の内容があっているのかか気になりますね。もし、そういうことが功を奏していれば、感染者が減っているはずなんです。どんどん増えているんですよ。

(岩) 参考までに今度日本エイズ学会に日本で今発売されているパンフレットの問題点を指摘します。そしてこれからの見本となるのを発表します。

#### 教科書の中のエイズ

(参) パンフレットのことがでましたが、一番の問題は教科書だろうと思います。小学校5年生の教科書に「感染経路は血液です。」しか書いてないですね。そして、プールと一緒に大丈夫とか握手をしても大丈夫とか書いてあるんですね。小学生は舐んだりしてよく鼻血を出しますよね。そうすると、血液、怖い、エイズと考えます。中学校の教科書にも性交で感染するとは書いてある教科書もありますが、血液だけを強調しています。先生、ぜひ、教科書の問題もエイズ学会で報告して下さい。

(岩) 小学校の教科書は間違った記載があります。「HIVは空気に触れるたら死ぬ。」こんな間違いが書いてあります。これからも指摘し続けましょう。

#### 患者会活動

(参) 今、僕の住んでいる県でも、患者会を作ろうと動いているんです。ただ、薬害の方や同性愛の方はそれぞれ、患者

会があるのですが、異性間の感染の場合は一番孤立しているんです。SEXで移った病気となると自己評価が下がるんですよ。なかなかそのへんがふっきれなくて。誰でもかするSEXですよ。ぜひ、僕の住んでいる県にも来ていただいて、お話をさせていただきたいと思います。何かヒントになることがあれば、教えて下さい。

(北) 患者会は、なかなか難しいと思うんですよ。性感染の人たちは普通に仕事をしている人が多いんじゃないでしょうか。私も、ウィークデイは仕事で忙しい、土日はプライベートで忙しい。だから、患者会とかのために労力を使うのはなあって思って、私は患者会とかにはあまり参加しない人だと思います。患者同士の支え合いというのは、感染直後、特に1年位は必要だと思うし、それを過ぎたら人によってはそんなに必要ないし、どこかとながってたらいいと思うんですよ。個人同士とか家族の中の支えだとか。困った患者さんがいたら、連絡していただければ話しは聞きます。

#### 性教育の役割

(参) 保健婦という専門家としての立場でも、恋をしている時はそのことをあまり考えられなかったと言っていました。もし性教育の中でそういうことがあったとしたら、何か違っていただいでしょうか？

(北) かわってたかもれませんね。

(岩) じゃあ、岩室の性教育を受けていけば、仮にコンドームを上手につけてあげられた。

(北) コンドームの付け方って大事だと思うんですよ。

(岩) 性教育は大事。ただ、若者に浸透しているかはわからない。翌年に行った時に「コンドームの先生、去年の話はおもしろかったよ」と言われることがあるんです。「じゃあ、コンドームはつけている？」と聞くと、「なるべくね」という答えが返ってくるんです。それは、前は全然使ってなかったんで、今は多少は使うようになったので、それをよしとするかということなんですね。

(北) 私は彼との間に子どもが欲しければ、コンドームを使わずにSEXをしてたと思います。そのことは、2人だけの間のもので、相手が感染しているかを知っているのかで、随分ちがってくるでしょう。知識があるかないかというのがありますが、相手の状態がわかっているから、身の振り方が変わってくると思います。

#### 今後の啓発活動予定は？

(参) お仕事などで忙しい中、今後もこういった活動を続けていくのかをお聞きしたいと思います。

(北) あまり積極的にしようとは思いません。自分の生活が大事なので、HIV関係のことで振り回されたくないという気持ちなんです。やりたいこといっぱいあるし、仕事も好きでちゃんとやっていきたい、プライベートではサルサをしたいんですよ。サルサは5月の連休はNYまで行きましたからね。で、ダンスも中途半端にしたい。それだけで、めいっぱいですね。HIVの活動はプラスアルファで、自分の余裕のある時に活動しているんですよ。あの、こうして私の話を聞きに来てくれた人たちが、何かを感じて、自分のできる場所で他の人たちに伝えていってくれたらうれしいなって思っています。

(岩) ぜひ、彼女を呼ぶことを考えずに、彼女の話を自分の言葉に変えて、地域で伝えていただきたいと思います。今日は、長時間ありがとうございました。

(北) ありがとうございます。

## 関連プログラム

### ■AIDS ウィーク2000■

1. 日 時：2000年7月22日（土）・7月23日（日） 13:00～17:00
2. 場 所：横浜駅西口相鉄ジョイナス4階「自然の広場」(7/22)  
横浜駅東口そごう前（地下2階） 新都市プラザ(7/23)
3. 内 容：パネルクイズラリー・横浜AIDS市民活動センター出張所
4. 主 催：横浜AIDS市民活動センター

### ■かさわきエイズボランティア育成講座■

1. スケジュール  
2000年7月22日（土）「ボランティア」を理解する・AIDSの基礎知識  
7月29日（土）患者・感染者の思い・フィールドワークのオリエンテーション  
8月4日～6日 フィールドワーク「AIDS文化フォーラムボランティア体験」  
8月19日（土）カウンセリングマインドの実際・NGOの活動について  
8月26日（土）エイズボランティアの実際・閉会式他
2. 会 場：川崎市健康・検診センター・教育文化会館・かながわ県民センター

### ■かながわエイズボランティア育成講座■

1. スケジュール  
2000年7月15日（土）ボランティアのころ  
（自己理解・他者理解）  
7月22日（土）エイズボランティアの実際  
7月29日（土）エイズ基礎知識  
8月4日～6日 フィールドワーク  
「2000AIDS文化フォーラム  
in 横浜ボランティア体験」  
8月27日（日）ボランティアのころみ  
（講座のまとめ）
2. 会 場：横浜YMCA会議室及びかながわ県民センター





# ボランティアについて

## ◆100名以上のボランティア...

AIDS文化フォーラム開催中の会場運営・整理はボランティアが担っています。今年は9歳～70代まで100名以上の方が、ボランティアとして、このフォーラムの会場運営に力を貸してくださいました。

## ◆興味や関心に合ったボランティア...

講座ボランティア・展示場ボランティア・機材ボランティア・パソコンボランティアなど、自分の興味や関心に合った活動ができるように、ボランティアの種類のボランティアを募集しました。また、過去のフォーラムボランティアの経験者がチーフボランティアとして講座ボランティアをまとめ、講座のスムーズな会場運営を実施しました。

## ◆ボランティアオリエンテーションは大切...

このフォーラムでは、事前にボランティアオリエンテーションを行いました。まず、岩室紳也先生によるエイズに基礎知識のお話がありました。その後、このフォーラムの特徴や歴史、ボランティアマニュアルの説明を受け、当日一緒に活動するグループに分かれて自己紹介をする時間を持ちました。最後は、グループで館内ツアーを行い、会場の場所や建物内の重要な場所の確認をしました。

## ◆ボランティア～出会い・成長・喜び～会場ボランティアの感想

- ・入場者の人たちから、「この講座が聞きたくて。」と声をかけてもらったことがうれしかったです。
- ・活気があり、内容もとても楽しくよかったです。それに交流などもあり、私自身、とても楽しい一日だったと思いました。
- ・私が担当した講座は、お医者さんからの立場からのお話と学校の先生の薬物をテーマにしたお話だったので、AIDSのことだけではなく、いろいろと考えさせられました。
- ・楽しい友だちもできましたし、色々なプログラムも見れました。ボランティアとして少々あせってしまった時もありましたが、とても楽しい3日間でした。



# 2000 AIDS文化フォーラム in 横浜

## 「いま、ひとり一人が できること」

2000.8.4～6 於 かながわ県民センター



今年で7回目の開催となった「AIDS文化フォーラム in 横浜」。市民による市民のための手作りのフォーラムは、「AIDS」を入り口に、自分たちの暮らす地域社会をつくる活動でもあります。

### 小学生の声

朝日新聞(8/24)の「声」の欄に、AIDS文化フォーラム in 横浜にボランティア参加した小学生の吉永千尋さんのとても嬉しい投稿文が掲載されました。

「このフォーラムに参加して、ボランティアとして様々な手伝いを

する中で、会場内の空き缶がただのゴミになっていることに気づき、回収して活動資金にすることを提案し実現させた」という内容でした。

この文章から読み取れる「ある課題に気づいた人が、手を挙げて提案し、自ら動き始めた事柄に、皆で協力していく」という構

造は、AIDS文化フォーラムそのものです。また、小学生の気づきが、AIDSを入り口にしながら、環境問題も含めて、住みやすい地域社会をつくることにつながっていくという点でも、フォーラムと同じ構図なのです。

### 開催の経過

AIDS文化フォーラム in 横浜は、1994年8月に当地で開催された「第10回国際エイズ会議」に連動して始まりました。医療関係者中心の会議に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で、国内外のNGO・NPOが集い、多様な参加者と視点でHIV/AIDSの問題に取り組み、偏見と差別で語られることが多かったこの課題への新しいアプローチとして高い評価を得ました。その後も毎年、継続して開催してきました。

その継続の過程で、参加者数の減少や、プログラムのマンネリ

### 参加者の感想

●HIV/AIDSについて話し、感じ、知る。その場を毎年確保することには、大きな意義があります。  
(入場者:東京都・男性・50代・教育関係)

●職場では、自分の担当課だけが味方だと思って少し心細い思いをしていました。でも、ここに来て、関心を持った人がこんなにいるんだと元氣になりました。私、一人でも関心を持ってくれる人たちが増えるように、そして、関心を持った人が更に、ステップアップできるような組織化や企画をしていきます。本当に良かったです。  
(入場者:高知県・女性・20代保健医療関係者)

●AIDSの知識があるなしに関わらず、皆が共に考え共に学べる、とてもオープンなフォーラムとなったと思います。現に今までは漠然としかAIDSについて知らなかったボランティアの自分まで非常に勉強にな

り、参考にさせていただきました。  
(ボランティア)

●とても気持ちのいいボランティアの人が多かったです。参加団体と一緒にプログラムを作っていこうと黒子に徹しながら、でも楽しそうに、会場ボランティアをしてくれていました。  
(参加団体:横浜エイズ勉強会)

●法律相談は、文化フォーラムに参加させていただいたことがきっかけで、地方からの相談が少しずつ増えてきました。8月に各地から参加された方々が、こういうプログラムがあることを持ち帰って、必要としている人に伝えていただいているんだなと思っております。文化フォーラムには、そういう人の交流にも力があるのだと思いました。  
(参加団体:特定非営利活動法人 動くゲイとレスビアンの会)



化など、様々な課題も出現しましたが、その都度、会場の変更や規模拡大などの新たな工夫と、挑戦で、乗り越えてきました。

## フォーラムの仕組み

このフォーラムは、第1回から地域の民間団体等が共同で組織委員会をつくりました。神奈川県内のHIV/AIDSに関わるキーパーソンたちが、実行委員となってフォーラム全体のフレームを企画・構成し、発表を全国に呼びかけ、その中で全国の市民団体や個人が手弁当でそれぞれの講座や展示を主催しています。会場運営を市民ボランティアが支え、入場は無料とするという体制をつくってきました。

今年(第7回)は、「いま、ひとり一人ができること」をテーマに、64のプログラムを実施し、北は北海道から南は宮崎まで、さらに海外はボストンからの参加者もあり、3,801名が集いました。横浜YMCAが事務局を引き受け、10歳から70歳までのボランティア100名が会場運営を支え、横浜商工会議所、日本エイズストップ基金

などが資金を提供しました。行政は会場確保や広報でサポートしました。

## 継続することの意味

参加する小学生も、高齢者も、医師も、教師も、

行政関係者も、市民団体も、皆で、対等にアイデアと資源を出し合って、このかけがえのない「場」をつくってきました。

「より専門的な立場でHIV/AIDSに関わっている医療関係者にはエイズ学会があるが、行政関係者、教育関係者、一般市民やボランティア(感染者を含む)等には、情報を受け取る、あるいは情報発信をする場として、(このフォーラムが)唯一無二に近い存在になりつつある。実際に感染者のプログラムが増えてきていることが、このフォーラムの成果であり、一つの役割になっていると思う」、「何と言っても毎年、この

場を通してボランティアが成長していく姿を見ることができて嬉しい」、「人間の根源に関わる切実な課題に、多様性という最も人間的なアプローチで臨んでいるところが、このフォーラムの文化だね」これらは楽しんで取り組んでいる実行委員たちの言葉です。

## 今後の展望

手弁当で集い始めたこのフォーラムも、いまや7回の開催実績を持つにいたり、従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に、情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。今では市民団体のみならず全国の医療や教育の専門家たちからも、横浜の夏の恒例行事としてすっかり期待されています。期待に応えるポジティブな責任感の中で、いつも時代のニーズを見極め、新しい動きをリードする学び合いの場として、これからも継続したいと考えています。皆さんとともに。

## プログラム内容(一部)

保健医療分野	医師が語るエイズ基礎知識、性感染症入門、これでいいのか保健所!
教育関係	エイズ模擬授業、教育者に聴いてほしい、中学生と語るエイズ
海外ではいま	タイのエイズ孤児センターの設立、ルーマニア・エイズと闘う子どもたち
女性	女性自身で守るこころとからだー女性用コンドームと低用量ピル ワークショップ「女性とエイズ」
感染者が語る	神様がくれたHIV、エイズ教育における感染者の役割
エイズと文化	ジャズコンサート、ペインティング、キルト、写真展
その他	国際会議、法律相談、セクシュアリティ、薬害エイズ、不当解雇、AIDSを伝える、薬物、マスコミ
展示では……	コンドームのいろいろ、書籍販売、模擬授業につかえるグッズなどなど

FAX 0466-26-3406 URL : <http://www.ymcajapan.org/yokohama/jp/AIDS/> E-mail : [abunkaf@yokohama-ymca.or.jp](mailto:abunkaf@yokohama-ymca.or.jp)

2000年8月24日 朝日新聞

## エイズの人のボランティア

小学生 吉永 千尋  
川崎市 11歳

今年も「AIDS文化フォーラム in 横浜」のボランティアの日がきました。最初の日は、午前10時に参加者行きました。そして、エイズにかかってしまった男の人たちの話を聞きました。この人たちは、いろいろな人のために薬を送る活動をしています。午後からは、事務局や会場となった部屋のお掃除やゴミ拾いを手伝いました。ほかにはメモリアルキルト作りを手伝いました。メモリアルキルトとは、エイズで死んでしまった人たちが、生きていた時に大切にしていた洋服や布きれを家族の人からいただいたり、一つ一つ縫いあわせて大きな一枚の旗のようなものにするのです。私も学校で習ったおさいほろを生かし、お手伝いしました。去年も参加しましたが、その時、考えたことがありません。会場でみんなが飲んだ空き缶です。全部ゴミになっていました。二日目の反省会の時、私は、みんなの前で発表しました。空き缶を空き缶回収機に入れ、お金をとってボランティアの活動資金にしたら、と提案しました。全員が賛成してくれました。三日目から妹と空き缶集めをしました。会場スタッフやピルのけいびの人たちにも手伝ってもらい、四ヶ所集めることができました。家に帰ると中、スピーチで回収機に入れました。三百五十二缶ありました。お金は年度のフォーラムで使ってもらおうと思いがとろ。スタッフのみならず、





「手と社会」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

### フォーラムの意義

「手と社会」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

## 横浜で「ダーバン体験」

「ダーバン体験」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。



「手と社会」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

### 手こたえ

「手こたえ」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

## 創意工夫でマンネリ打破

「創意工夫でマンネリ打破」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

## エイズのこと 知ってほしい

「エイズのこと 知ってほしい」は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

## 「AIDS」について

「AIDS」について、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

## 「AIDS」文化フォーラム

「AIDS」文化フォーラムは、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。今回は、日本文化の魅力を伝えることを目的として、毎月10日(土)に開催される。

「2000 AIDS文化フォーラム in 横浜」を支えた人・グループ（順不同・敬称略）

組織委員

川本譲次 金剛静慧 榊原高尋 田代正樹 安田秀二 山根誠之

実行委員

石黒幸栄 岩本雅子 岩室紳也 大川東三 岡島龍彦 岡田阿礼  
 菊池恭子 河西悦子 小島隆士 桜庭禎子 高村文子 多田由加里  
 取出涼子 長沢 勲 濱村嘉允 広瀬 誠 藤沢智晴 千代木ひかる  
 横山良一 吉永陽子 渡辺詢子 尾辻里美 松浦芳文 矢部尚美

ボランティア

青木 勇 秋山さつき 岩根弘子 井上和樹 石川弥生 井出あゆか  
 飯島ちづ穂 伊藤厚子 池田友美 植田嗣朗 梅川佳奈 太田佐保子  
 大橋昌子 大和田香菜 大須賀寛尚 岡村 嶺 笠原 隆 河合美智枝  
 木下芳余 倉橋まどか 久能木裕子 河野太郎 権藤宇彦 小島歩美  
 後藤幸江 猿橋哲也 鈴木康子 白根泰行 諏訪間里江 佐渡山一二三  
 菅原恵美子 スズキリエ 鈴木郁恵 田中尚子 高橋良人 田中悦子  
 高倉藍子 田中すみ子 高橋敦子 田嶋恵子 竹内俊男 田中千鶴子  
 津曲さつき 土居智恵子 中村佳代子 名嘉涼子 中林響子 中川夏実  
 西沢孝子 塙 知子 秦すみれ 広瀬 敦 日比野浩 平窪泰光  
 廣内幸子 藤沼千聡 藤川光記 藤根貴子 堀野佑佳 細野真麻  
 正木淳子 松成一矢 松成みどり 増井永子 水谷 武 三浦 GRAY 祐美子  
 村田久仁雄 森田玲香 山本静香 箭子千夏 柳町敦子 吉川五穂子  
 吉田有仁子 吉田めぐみ 吉田有里 吉村ひさ 吉野紀代美 渡辺悦子  
 若林幸枝 桑島和子 益田ゆり子 石田麻希子 上野智子 黒田美智子  
 田中誠司 藤本洋一郎 星原たつ子 松岡久仁子 山口ちづこ 脇加津枝

その他支援

(1) 資金援助

横浜商工会議所エイズストップ基金 かながわともしび財団  
 財団法人エイズ予防財団エイズストップ基金 横浜青年会議所  
 横浜商工会議所 横浜 YMCA 横浜 YWCA

(2) 物品・機材提供/貸し出し

キリンビバレッジ(株) (株)ジャパンビバレッジ (株)FVコーポレーション

(3) ホームページ協力

ライフ・エイズ・プロジェクト

# 附 録

ライフ・エイズ・プロジェクトのニュースレター  
30号より文化フォーラム参加報告を抜粋しました。  
巻末よりお読み下さい。



最後に、地方から来た私を快く迎えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。また来年も?よろしく願います。

**文化フォーラムに参加して**

**信頼関係があるからこそ、これだけの発表がなされた**

清水茂徳

エイズ文化フォーラムでLAPは3日間、1階の展示場でブースを出展し、6日には講座を1つ持ちました。

ある参加者の方が「このフォーラムはいろいろな分野の人たちの人間関係、信頼関係がベースにある」と言われていました。僕もその重要性を強く感じています。

というのも、たとえば予防啓発の活動をしているとこんなことを言われたりしませんか? 「そんなこといっても、自分のまわりには感染者なんていない。どこか遠い国・地域の話なんじゃない?



自分には関係ない」と。

でも、「自分のまわりには感染者なんていない」と言う人には感染者の人は自分の感染のことを話しにくい。だからなおさら「自分のまわりには感染者なんていない」という確信を強めていくという「悪循環」も起こってくる。あらゆる種の信頼関係がないと感染者・患者の人はもし、声をあげようと思っても、なかなか声をあげられないのではないかと思います。マスクや講演会を主催しようとする人たちの場合も同様です。

感染者の人の直の発言が聞きたい、しゃべって欲しい、出演して欲しいといった依頼が少なからず僕たちのところにも来ます。でも、信頼関係のないところに紹介することはできません。

そうしたある種の信頼関係がエイズ文化フォーラムでは築かれています。プログラムをちよつと見ただけでも分かると思いますが、僕が数えただけでも10名近い感染者・患者の方がプログラムの主催側として関わられ、発言されていました。性感染の方、薬害の被害者の方、ヘテロセクシユアル、ゲイ、男性、女性などなど。また発言の内容・立場も様々で、恋愛について語った方、セックスについて語った方、生き方について語った方、医療について語った方、保健所の果たすべき役割について語った方、教育について語った方、薬害について語った方、警視庁警察官採用拒否事件訴訟について語った方など、多様な問題提起がな

されていたように思います。

もちろん、このフォーラムに限らず、多くの講演をされている方もいますが、エイズ文化フォーラムだから発言できた、発言しようと思ったという方も多かつたのではないかと感じています。

当事者である感染者・患者の人が発言することが必ずしも「善」であるとか、いいことであると言いつけることは出来ませんが、これだけ多様な感染者・患者の人の発言、問題提起が行なわれているエイズ文化フォーラムは日本では他に例のないものだと思います。

こうした場を設けていただいた組織委員、実行委員、また総勢100名のボランティアの皆さんに心より感謝いたします。

なお会場で配られていた「開催予告」によれば、次回は2001年8月3日(金)~5日(土)まで同じ会場で行なわれるとのことですので、みなさん、来年も会場でお会いしましょう。



らの説明で非常にわかりやすかった。あと、医療系公務員のホームページや大学生が作成したホームページなど、インターネットの特徴でもある個人のホームページを推薦していた点が印象深かった。内容と言うよりは個人で情報発信ができるネットならではの情報公開を強調していた。

また、海外のホームページはACT UPのムービーやHIV感染者の子供を対象にしたキャンペーンのホームページを紹介していた。なるほど、さすがアメリカ。そんなボランティア団体があるとは。また、食事を提供するアメリカのボランティア団体の成り立ち等、日本のボランティアが参考になりそうな情報を解説付きで説明してくれた。

あらためて、ネットの重要性を認識する事になった。今後も私としてもネットを利用しつつ情報収集、また情報提供を心掛けていきたいと感じた。

(WT)

## 文化フォーラムに参加して たくさんの人との出会いとつながりを得ることができた

穂中英美梨

文化フォーラムは数年前から毎年参加しているが、今年ほどちらかといえは閑散としていた感があつた。自分自身の気持ちのもち方も関係しているかもしれないが、マンネリ化を感じた。

94年に横浜でエイズ国際会議があり、その直後の文化フォーラムは活気づいていた。98年のTVドラマ上演「神様、もう少しだけ」の時は、高校生のボランティアも来ていて、はなやかさもピークだったと思う。HIV・STDの感染者が減っているわけでもないのに、性行動の盛んな10代・20代は自分とは関係のないことと思っ

ているようである。  
STDは難しくてわからない、だからこそ楽しみながら、自分

まわりにいる人の問題として気軽な気持ちで参加できるしかけが必要なのではないかと思った。座って聞く講演だけでなく、ビデオ・マンガ・ゲーム・音楽・絵を使ったり、専門的な知識をかみくだいて伝えたり、気軽に話し合える場を設定したり、演劇を使ったりしてみてもいいかと思う。

多様な表現の中からHIV・STDの現実をつかみとり、どう生きていくかを考えられる場所になればよいと思う。

私個人としては文化フォーラムを通じて、たくさんの人との出会いやつながりを得ることができ、参加することを楽しんできた。衰退していかない為にも柔軟なとりくみや宣伝が必要だろう。

## 文化フォーラムに参加して 大変充実した3日間。 いつかは主催側として 参加したい

坂東

私は今回のフォーラムで合計9つのプログラムに参加しました。感想を書いたプログラム以外にも、薬害やセクシュアリティのこと等、学ぶことがたくさんあり、大変充実した3日間でした。

この3日間を通して、全体的に学生や一般の方の参加が思っていたよりも少なく、学生の私としては少し寂しかったです。AIDSのことに関心があつても、AIDS文化フォーラムのことを知らない人はまだたくさんいるはずで

す。感染者のプライバシーを最大限に配慮した上で、もう少しメディアや学校等を通じて宣伝し、一般の方々がAIDSのことに関心を持つ一つのきっかけになれば素晴らしいと思います。  
まだまだ私はAIDSのことに



定層にアプローチができるのではないかと。という期待がもてた。

まず、「ポジティブ・カフェ」は現在、軽井沢と山形ですでに運営されている。ここは、今後情報発信機能とコミュニケーション、ネットワーキングの場として活用されていくのだろう。会場では軽井沢の「ノーチエ」の案内の大きさが配布された。今度出かけた折にはぜひたずねてみたいと思った。「AAA (Act Against AIDS)」はコンサートという場をつかってメッセージを伝えようとしてい

る。コンサートの場でどのような運営やメッセージ伝達をするかは、個々のアーティストによって異なるらしいが、そうした点においている可能性を、このAAAが線をつなぎ、さらに社会の別の面へ伝えていくものがある。参加しているアーティストによってそのアビールやコミットメントの深さは異なるそうだが、今後、より対象に近い活動として期待したいところである。このセッションの主催ともなっているエイズ&ソサエティ(A&S)は日本のエイズNGOとしてのアンブレラ組織のような存在で、今後どのような活動をしていくのかとても楽しみである。

A&Sは、このセッションのはじまる前に、ジャズコンサートを開いた。演奏の設備等最低限の費用をA&S内にある野田基金から捻出し、アーティストは企画の意向を理解してのボランティアで参加していたとのこと。

エイズのこととは今後はエイズだ

け語っていても広がらないので、こうした音楽など、別の接点をたくさんもちながら社会へ伝えていくほうがいいのだろう。そういう、「共感」をマネジメントしていく役割を担う動きが出てきたのだなど私は受けとめている。

(キョウコ)

8月6日(日) 16時~18時

### ネット世代が考える HIV/AIDS 的活用法

CAI (Campus AIDS Interface)

CAIが行うインターネットを利用したHIV/AIDS啓発活動の紹介及び、国内外のオススメHIV/AIDSサイトの開設・紹介をいたします。インターネットを利用したことの面白い方でも楽しめます。

ネット世代が考えるHIV/AIDS活用法に参加してみた。普段からネットユーザーである私にとって気になる話題だったから

だ。実際に主催団体でもあるCAIはネットを利用してHIV/AIDSや性に関する啓発活動をしている団体だと言う。私もかつてCAIのホームページにある「バーチャルHIV抗体検査」で感染の可能性があると出た1人だ。

さて、講演内容はインターネットの重要性や今後のCAIのインターネットでの活動(「mode」を利用した啓発を企んでいるようだ)を10分程度。ネットユーザーが多かった為か簡単に説明が終わった。日本のAIDSに関するホームページと海外のホームページの話が始まった。各10サイトづつ紹介していた。

日本のホームページに関することは、行政のホームページは正直言って難しくつまらないもの(?)が多く、使い勝手が悪いという事。しかし、東京都衛生局のホームページはHIV抗体検査の情報がうまく整理されていて便利だと言う。実際にホームページを見なが

CAI (Campus AIDS Interface) ホームページ <http://www.cai.presento/>

目に見える形で表面化し始めている。しかしそのことに気づき始めているのは、PWH/Aなどほんの一部の人にすぎない。

このままでは、本当に世界はどうなるのだろうか、強い危機感を抱いた。そして私たちは、この病気とともにどう生きることが出来るのだろうか？ 私たちは今まさに困難な問題と直面しようとしている。そのとき人類は、この病気と闘っていく勇氣と強さを試されるのだろうか。人間は、本当にこの困難に立ち向かえるほど強いだろうか？

(新ヶ江 明憲)

### 8月6日(日) 13時~15時 知った気でいるあなた のための「セクシュア リティ入門講座」

ライフ・エイズ・プロジェクト  
(LAP)

「とくに、同性愛やトランスジェンダーについての授業は、多くの性についてのものを見方を



講師の木谷麦子氏

根本から変えてくれた。知識は風化していくけれど、一度変えてもらったものの見方は、次のできるまで生きつづける」

ある高校生が卒業するときにこんな文章を残した。同性愛ってなんだ？ トランスジェンダーってなんだ？ 性についてのもの見方って？ そんなこと知らない人歓迎。そして、そんなこと知っているといるというあなたといっしょに、「次」の見方をめざしましょう。

「一介のブンガク屋」を名乗る講師の木谷氏は学生に同性愛やトランスジェンダーの授業を行なっている。その授業内容は木谷氏がセ

クシュアリティについて「新しい見方」を見つけてくことに変化してきたという。異性愛、両性愛、同性愛というセクシュアルオリエンテーション(性的指向)の視点にジェンダー・アイデンティティという軸が加わっていく等、自身の「変化」の経過がそのまま授業内容に活かされている。そうした変化を生み出したのはさまざまな人たちとの出会いだった。講座の中にも木谷氏の実体験にもとづいたエピソードが数多く語られ、ただ理論を学ぶのとは全く違う説得力を持っていた。これは木谷氏のほんわかとしたキャラクターによるところも大きいかもしれない。

どんなものでも「そんなことわかってる」と思っている時ほどわかっていないもの。この講座で改めてセクシュアリティやジェンダーについて考える機会が持てた。そして自分の、もの見方の視点がヘテロセクシュアルであることが気がつくことができた。木谷氏

が言われていた「ヘテロのヘテロ知らず」とはまさにその通りであった。(MO)

### 8月6日(日) 16時~18時 エイズキャンペーンの ストラテジー part 2 「コンサート、カフェ、そして メディア」：高度情報化社会 の現場から

AIDS&Society 研究会議

エイズ対策の現場はいま、どこにあるのでしょうか。ころろみとして、高度に情報化された社会の中で、エイズ・キャンペーンの現場の1つである「コンサート」や「ポジティブ・カフェ」の有効性と可能性を検討する。

今、エイズの情報は拠点病院、保健所、学校といった限られたチャンネルの中で、有効かどうかの検討もないまま数年前と変わらぬ方法で流れているように思っ。しかし今回のセッションでは、今後さらなる媒体や方法で社会や特

講座では最初に、低用量ピルは「私」が飲んでいるから妊娠しない」と女性が自分の意志で避妊を選べるメリットを強調され、「妊娠は女性のからだにおこることなので、女性自身がコントロールする」「副作用問題はなくなつた」「飲んで気持ち悪くなつたり、ちよつとずつ出血しても、飲み続けて、薬に慣れればなくなる」「頼りになる婦人科医をつくる」といわれた。

また、「ピルを飲むことによつて血栓症になることはあつても血栓症になりやすい人は飲む前からわかるし、妊娠で死亡するリスクよりもピルで死亡するリスクの方が少ない」という。

昨年のフォーラムの「ピルって安全なの？」で言われていた副作用で死亡した例や生涯および次世代へのホルモン影響、服用者から出た合成女性ホルモンが分解せず、環境問題が起きていること、解決されたのだろうか？と思

つた。女性が自分で決められる、という選択肢ができたことは画期的なことだと思つたが、男性と話し合つて決めることはできないのだろうか？と思つた。それは「理想」に過ぎないのだろうか。しかし、何でもかんでも自分一人で決めて、女性だけが副作用を被り、出資や検査を強いられ、時間に縛られ、妊娠したら自責の念にとらわれ、女性だけの責任にされてしまう男女の関わり方って何？と思つた。もつと男女が話し合つて協力しあつて、からだや環境に負担の少ない避妊法を選び、男女の責任のもとに楽しい性生活が送れないものかと思つた。

性感症防止に役立たない副作用のあるピルに比べて、女性用コンドームの出現は興味深いものがあった。

大きさは男性用コンドームより大きく、表面はベトベトしている。ポリウレタン製で破れにくく、ウイルスを通しにくい。はずれず、

潤滑ゼリーを追加すれば、引き込まれることもない。完璧に勃起していなくても使えるし、生理の時によい。男性は圧迫感がなく、女性には10回目を越すと使用感がなくなり、性感がいいそうだ。薬局で買える。1回で使い捨てで、男性用コンドームの併用は不可だそうだ。

女性用コンドームはSTD予防のもう一つの選択肢といえる。  
(穂中英美梨)

8月6日(日) 10時~15時

**世界は今**  
第13回国際AIDS会議に参加して

HIVと人権・情報センター

7月8日~14日に南アフリカ共和国ダーバンで行われた国際会議の報告を行う。医療・保健・教育・社会問題・世界のNGOの活動等、各分野ごとに、ポスター、写真を使って世界の様子を伝える。

第13回国際AIDS会議の報告会。今、世界のエイズがどのようになっているか、どのようなことが問題となっているのか、わかりやすく解説された。特にアフリカのサハラ砂漠以南のエイズ状況は、深刻である。エイズによる死亡者は、先の戦争で亡くなった人の数をうわまつている。国連でも、

エイズ問題を世界が取り組むべき最重要課題としている。事の重大さは、予想をはるかに超えていた。この世界会議の様子を、スピーカーがスライドをとおしてリアルに伝えてくれた。

なお、セッションの行われた会場には、この国際会議で発行された世界中のエイズ予防啓発ポスターが展示されていた。

環境問題や人口問題、食糧問題などとともに、エイズはまさに21世紀を見る上での鍵となる問題ではないか。エイズの問題は、20世紀人間が避けて通つてきた様々な問題の「つけ」として、今まさに

るといった意識を生むなど、安易な差別をはびこらせているのではないか、「アメリカならこの会社はつぶれてる」といわれた。

講座の後半は6月15日に東京都を相手に起こされた警視庁HIV不当採用拒否訴訟について清水氏と原告本人が話された。

原告は97年10月、大学院修士課程2年生のとき、警視庁の警察官採用試験I類(大卒程度)に合格。修士課程終了後の98年7月、警察学校への入校に備え、血液検査を含む健康診断を受け、学生寮に入った。8月3日に警視庁本部に呼び出され、健康管理課長から「君の免疫力はものすごく落ちていく」「仕事を継続するのは困難」「今回の就職はあきらめてほしい」とHIV感染を示唆され、学校長同席の中、クラス教官から「一身上の都合で今回の就職を辞退します」という文章を書かされ、署名・捺印し学生寮を出た、という。1週間後に原告は都立駒込病院で

「通常の労働には十分耐えられる」との診断を受けている。

原告は訴訟を起こすまでの葛藤や家族とのやりとりについて話された。信濃毎日新聞に掲載された記事の中にも書かれているが、原告は「同じ東京都という行政組織で一方はエイズの差別・偏見をなくそうと啓発活動をし、もう一方では本人に知らせないままHIV検査をする。なぜこんなに違うのか」と公的機関の建前と本音の落差に割り切れなさが募ったという。清水氏も「人権を守っていないのに、人権を守りますと平気でいえる社会」に疑問を投げかけた。この裁判の中で、東京都がどのような対応をとるのか、注目していきたい。(よしおか)

8月6日(日) 10時~12時

### 性感染症入門講座

STD・HIV

同仁齋メディカルクリニック  
西大條文一

新宿区大久保のクリニックでは毎日のようにSTD(性感染症)とエイズの相談が持ち込まれます。その現場からのレポートとSTD、HIV入門講座。

会場は、一般人から、エイズNGO系の人、内科の医師など、たくさんの人が集っていた。そういえば、エイズはエイズ単独に語られることが多いが、現在ひろがっているのは性感染症としてであり、関係者にはそうした基礎的な情報や知識が必要なのではないかと常々思っていた。

はじめは、「ひとつひとつの病気や予防・治療の話があるのかな?」くらいに思って参加したが、実際の講師の話は、まず社会が性感染症にどうとりにくんでいくか、感染のコントロールについては特に「国の意志」が明確であるかが問われることが強調された。これまでの社会の歴史、専門家がどういう使命を背負っているか、ということでもヒューマン

な視点があって、期待以上の収穫があったように思う。新宿というSTDのメッカ(?)で開業されているそうで、HIVについてもすでに東京医大、都立駒込病院と連携をとっているとのことだった。(ミカ)

8月6日(日) 10時~12時

### 女性自身で守る「コンドーム」&からだ

低用量ピルと女性用装着型コンドーム

清水敬子

低用量ピル、女性用コンドーム、銅付加IUDが相次いで発売され、まさに避妊元年ともいえる時期を迎えた日本。妊娠する性を持つ女性だからこそ避妊にも性感染症にも意識を高く持つことが必要だと思いませんか? 低用量ピル、女性用装着型コンドームを通して、「女性自身で守る」ことから「からだ」について一緒に考えてみましょう。

染症 勉強会を毎月、新宿2丁目で行うなど、ゲイコミュニティに積極的な働きかけをしていることで知られている。同会が行っている無料電話相談にはHIVはもちろん、肝炎や梅毒など様々な感染症の相談が寄せられているという。講座の中ではSTDの感染経路に関する診断・治療に必要な情報の開示が遅れ、適切な医療が受けられていない可能性や、医療者全般にセクシュアリティに関する認識が低く、同性愛者の健康を促進する意識が低いといった問題が指摘された。

8月5日(土) 16時~18時  
**エイズ教育における感染者の役割・大石敏寛**  
 せかんどかみんぐあつと

学校におけるエイズ教育の中で、感染者が果たす役割について、教育現場の皆さんとともに考える企画です。感染者の立場から学校でのエイズ講演活動や

調査研究に関わってきた大石敏寛がその報告も行う予定です。

このプログラムでは感染者である大石敏寛さんがこれまでにやってきたエイズ教育の具体的な内容とその評価が発表されました。また、教育活動の一つとして現在同会が取り組んでいる新しい参加型エイズ教育のモデルを上演するたため、プログラムの参加者のうちの4人がロールプレイを演じることになりました。

私はこのロールプレイに実際に参加しました。ロールプレイとは、その役になりきることで、その立場におかれている人の状況や感情を想像し、理解を深める方法で、私は「一年前にHIVに感染し、恋愛感情を持った人に自分の気持ちと自分がHIVに感染していることを伝える」という役でした。数分間の準備の後、プログラムの参加者の前でこの役を演じたのですが、私はこの役の立場になって考えることがほとんどできませ

んでした。突然の大抜擢(?)で動揺していたこともありましたが、よくよく考えてみると、私自身、これまで自分がHIVに感染するということを真剣に考えたことがなかったのが大きな原因だったと思います。「AIDSは他人事なんかじゃない」以前から分かっていたつもりでしたが、自分自身まだAIDSを他人事として捉えていたことを痛感しました。

非感染者が感染者の立場になって考えることは決して簡単なことではありませんが、感染者、非感染者が共生していく上でとても大切なことだと思います。このプログラムは私にとっても大切なことを気づかせてくれました。(坂東)

8月5日(土) 16時~18時  
**いま止めなければ！  
 HIV不当解雇**  
 HIV不当解雇訴訟を考える会  
 96年、最初のHIV不当解雇訴訟が勝訴し、最近でも日系ブラ

ジル人HIV不当解雇訴訟も勝訴した。しかし、警視庁のHIV感染採用拒否事件がまた起きてしまった。この様な不当解雇を止めるにはどうしたらよいか考えてみる。

講座ではまず、弁護士清水勉氏が6月に判決の出た日系ブラジル人HIV不当解雇訴訟の解説をされた。この裁判は無断のHIV抗体検査について医療機関の責任が問われたはじめてのケースであり、大手企業における無断検査の実態に切り込むものだった。千葉地方裁判所は6月12日、滝川化学工業に未払金310万円と慰謝料200万円、市川東病院長に慰謝料150万円の支払いを命じ、一審で判決が確定した。

清水氏は裁判の問題点として、提訴から判決まで2年半かかるなど、時間がかかりすぎる点や慰謝料額が低いことを指摘。懲罰的慰謝料を認めないことが、裁判で負けても払う金額はたかがしれてい



「神様がくれたHIV」  
(紀伊国屋書店刊)

思いだったという。HIV陽性という結果を知ったときは血の気がさつと引いていく感じで放心状態だったそうだ。

「いつかは家庭を持ちたいと思っています」という彼女は帰国後、新しいパートナーを見つけたが、相手に「僕は子どもがほしいし、親にも孫の顔を見せてあげたいから」と言われふられてしまった。HIV感染者だから子どもは産めない、子どもは持てないという誤解はまだまだ根強いのか。子どもが持てないなら別れて別な人を探すという行為はHIVだけに限らない。もっと大きな問題を含んでいる。北山氏の力強く、ユーモアに富んだ2時間にわたるトークは私たちに自分らしい生き方を問うているように感じた。(三木淳一)

8月5日(土) 13時~15時

**愛情は大切な薬です**

ルーマニア エイズと闘う子どもたち

ルーマニア・エイズチャイルド基金

国を問わず、世界的な問題となっているエイズ。しかし、感染者の90%が幼い子どもたちという国は、世界中に一国しかありません。ヨーロッパの東に位置するルーマニアでは、革命から10年以上たった今でも約5千4百人の子どもたちがエイズに苦しんでいます。ルーマニア以外にロシア、南アフリカ、アメリカのHIV/AIDSの状況も伝えます。

今ルーマニアでは約5千4百人の子供たちがエイズと闘っている。HIV感染者のなんと90%が子供たちなのである。なぜこのようなことが起こったのが、チャウセスク独裁体制下にあった10年

前の政治体制との関連から見えてくる。貧困の極みであった革命以前のルーマニアにおいて、栄養失調の子供たちに海外から渡ってきた大人の血液が輸血されたのである。このようにしてエイズは子供たちの間に爆発的に広がった。

ビデオとスライドを通して、ルーマニアのエイズと闘う子供たちが映し出された。スピーカー(講演者)の浅井淳子さんの実際に体験した話が、このビデオとスライドに付け加えられる。なおこのルーマニアの子供たちの写真展も一階の展示場で期間中に行われた。エイズがまさに政治的問題なのだということを、この例ほど如実に語っているものはない。世界のエイズに苦しむ人々の多くがこのような子供や女性などの社会的弱者であるということは、何か戦時中の無差別殺人を思い出させる。庭や施設で元気よく遊んでいる子供たちは、無邪気に遊んでいる子供たちは、自分がいずれこの病気で

8月5日(土) 13時~15時

**ゲイの医療者からみた、ゲイの健康問題**

(新ヶ江 明遠)

死んでいくのだということを、子供ながらに知っているのだ。その姿が見るものの心を打った。今ではエイズの薬が出てきているのに、この国の子供たちはそれが飲めない。貧しさゆえに。日本の多くの人たちが、このような状況を知らない。僕は自分の無力さが、とてもくやしかった。

AGP 同性愛者医療・福祉・教育・カウンセリング専門家会議

AGPは、医療・福祉・教育・心理学の分野に従事するゲイや、そつした分野に興味を持つゲイの集まりです。今回のフォーラムでは、ゲイの医療者から見た、ゲイを取り巻く健康問題の現状及びその対策についてご紹介します。AGPはゲイ向けSTD(性感

AGPホームページ <http://members.gnj.or.jp/agg/>

は病院へ行くようにしている」という話もありました。

私はこのプログラムに参加するまで保健所が何をするところなのかほとんど知らず、まだ具体的な保健所のPR方法や活用方法を述べる段階に至っていません。ただこれからは一部の保健所のみならず、全国の保健所が総力を挙げて啓発活動をし、日本全体のAIDSに対する意識を少しでも高めていくよう努力すべきであるのではないかと思います。

また渡曾さんとお話をされたHIV感染者の大谷さんが述べられた「誰か他の人がやるのを待っていてはいけない。受け身にならず、積極的に」という言葉が胸に残りました。(坂東)

**8月5日(土) 10時~12時**  
**タイにおけるエイズ孤児ケアセンターの設立**  
 パンコクにエイズ孤児ケアセンターを作る会

AIDSは、もう世界的課題である。日本の中だけで考えるのではなく、アジアですでに直面しているAIDSへの課題を、自分たちのものとして分かち合えないかを学び、考える。パンコクにエイズ孤児ケアセンターを作ることを通して、日本で見えないものが見えてくる。一緒に、ともに生きることを分かち合うために。

エイズは今、世界中でどのような問題を引き起こしているのか？WHOの報告を通して、20世紀末のエイズの世界的状況が説明された後、アジアの問題、タイの問題へと話が進み、この団体がどのような経緯を経て、この会を設立するに至ったのかの説明があり、その後このセッションに参加した人々による意見交換があった。日本では見えてこない様々なエイズの問題が、スピーカーの話を通して見えてきた。

このセッションに参加した人々

は、今までは身近に感じなかったエイズの問題を、まさに他者の問題としてではなく「自己」の問題として考え始めたようだった。

話は日本のエイズの状況に移り、日本のエイズの問題は社会的に隠蔽いんぺいされているのではないかと、という話になった。日本のエイズに対する危機意識の欠如は、今後日本国内でも深刻な問題を引き起こすのではないかとという意見も出た。

しかし最も重要なことは、私たちがあまりにも世界のエイズの状況を知らないということだった。

私たちの無関心が、さらに世界のエイズを深刻な問題としていく。今、他者の問題ではなく「自己」の問題としてエイズを考えることが、世界の状況を変えていくきっかけになるのではないだろうか。少なくとも、このセッションに参加した人々は、エイズの問題を「自己」の問題として真剣に考え始めたと思う。(新ヶ江 明彦)

**8月5日(土) 13時~15時**  
**神様がくれたHIV**  
 北山翔子

「神様がくれたHIV」の著者、北山翔子さんのトーク。

金曜日に行われた岡田美里さんの講座と同じく、ホールは満員の関係の人が急ぎよ、イスを追加するほどの盛況ぶりを見せたこの講座、メインの話し手は「神様がくれたHIV」(紀伊国屋書店刊)を5月に出版した北山翔子氏。同著は「恋愛でHIVに感染した女性が初めて語る、感動の手記」として話題を呼んだので、すでに読まれた方も多いかも。司会の岩室神也氏との掛け合いの中、北山氏は話を進めた。「現役保健婦」「プロの医療関係者」である自分がどうして感染したのか。タンザニアで健康診断を受け、結果を待っていたが自分だけ届かない。その時は「ひよっとしたら、でもまさか自分が」という



様々な立場の人たちの意見の違いや誤解を取り扱う手段は、地味ではあるが、それでもやはりこのような「対話」なのではないかと思う。だから僕はこれからも、HI.Voiceの活動を通して、エイズやその他のいろんな問題を彼らとともに真剣に考えていきたいと思

った。  
(新ヶ江 明彦)

8月5日(土) 10時~12時  
これでもいいのか保健所!?  
活用方法を大激論!!

Peer Network  
Yamagata (びにい)

果たして、保健所は活用されているのか? 活用方法を提示し、会場から幅広い意見・要望をいただく。そしてPWA・N

GO・行政等が連携・相互活用し、より意義のある活動を展開していくことを目的に検討していく。

保健所でHI.V抗体検査を受ける人が減っているという現状に対し、これからの保健所のPR方法や活用方法を議論していこうというこのプログラムには保健所関係の方が多く参加されていました。

講演者である山形県村山保健所の保健婦、渡曾睦子さんはAIDSと保健所・保健婦に関するアンケートをとったり啓発活動をしていくなど地方でも積極的な活動をしており、私自身地方に住む一人としてとても刺激を受けました。

渡曾さんの行ったアンケートの結果によると、保健所でHI.V抗体検査を受けられると知っている人が15~19歳で38%に過ぎず、20~24歳の62%、25歳~29歳の78%と比べその低さが際だっていました。保健所で抗体検査を受けられると知っている人の中で、保健所での抗体検査が無料だと答えた人は61%、住所・氏名などを言わなくていいと答えた人が65%。2つとも正解だった人(無料・匿名と回答した人)は保健所で抗体検査を受けられると知っている人の中の49%に過ぎませんでした。

保健所の悪いイメージの例として「室内が暗く、保健婦さんも暗い感じ。料金が高くても健康診断

## 理解訴え講座や展示

### エイズ問題でフォーラム

あすまで  
浜  
横

エイズやエイズウイルス(HIV)感染問題に取り組んでいる全国の団体が一堂に会す「2000 AIDS文化フォーラム」が横浜が四日、横浜駅西口のかながわ県民センターで始まった。六日までの三日間、五十を超す講座や展示を通じて理解を訴える。

開会式に先駆けて行われたトークショーには、夫の堺正章さんとともに「エイズ基金」を設立し、寄付を続けている岡田美里さんが

出席。二百人近い観衆を前に堺さんのチャリティーゴルフコンペを通じてエイズ問題に取り組むようになった経緯などを話した。岡田さんは、HI.V感染者と初めて会った当時から「知識もなかったし、少なからず抵抗があった」と振り返った。

しかし、勉強していくうちに考え方も変わり、感染者やエイズ患者の置かれた状況や心境が理解できるようになったという。「芸能

人も偏見を持たれがちだから、立場は似ている。ぜひ、対等に接してほしい。患者や感染者はすべてにわたって手を差し伸べてほしいわけではない」と訴えた。

フォーラムは、横浜YMCAや横浜商工会議所エイズ問題対策懇話会など多くの組織委員会の主催。若者を中心とした多くのボランティアも支えている。

入場無料問い合わせは、フォーラム事務局 046-6(20)1151。



夫の堺正章さんとともにエイズ基金を設立した岡田美里さんのトークショー  
＝かながわ県民センター

神奈川新聞(2000年8月5日)より

く取り上げられたのだが、その際に間違った情報が掲載されてしまったというエピソード、性的接触による感染者として日本ではじめてカミングアウトした故平田豊さんとの出会いの思い出などを岡田美里さんが話されたほか、同基金が現在サポートしているグループのHIV感染者の方とのトークもあった。講座の間中、会場には笑いが絶えず、優しい雰囲気につつまれた2時間だった。

なお同基金では「あるある大辞典」で堺正章氏が胸につけているレッドリボンバッジも1個7百円で扱っているそうだ。(けんた)

8月4日(金) 13時~15時

## エイズ患者診ます

HIVとつきあう開業医の会  
西村有史

開業医としてHIV診療に取り組む西村医師に、エイズの基礎知識から現在の診療状況までをわかりやすく講義していただ

く。昨年実施した講座は「とてもわかりやすかった」と大好評でした。

私がこのタイトルと同名の西村先生の本を読んだのは、確か二年程前のことです。HIV感染者の治療は一部の大病院でしか行われていないというイメージが強かった私にとって、開業医としてHIV診療に取り組む西村先生の本は大変興味深い内容でした。

プログラムでの「エイズ患者診ます」では、AIDSに関する基礎知識や開業医としてのHIV診療の取り組み等について、一般人にも分かる言葉でとても丁寧に説明して下さいました。

実は「診療所でHIVの治療が本当にできるのか？」と疑問に思っていました。専門の病院と連携していることや、大病院ではともしればおろそかになりがちな感染者の人間関係や生活環境を把握しながら治療に携わっていることを聞き、逆にこれからはむしろこ

ういった診療所での治療が大切になってくるのではないかと強く感じました。

特に地方に住んでいる感染者にとって、近くに専門の病院がないことは切実な問題だと思います。一全てを専門の病院に任せるのではなく、専門の病院との連携を図りながら感染者と共に治療に取り組んでいく。このような診療所が全国的にもっと増えれば、感染者の心理的な負担も軽減されるのではないのでしょうか。(坂東)

8月4日(金) 16時~18時

## H.I.Voice座談会 それぞれのHIV多様な今 とこれからの課題

H.I.Voice編集局

今年「H.I.Voice」の公開講座を開きます。患者、医療従事者、教師、学生、親、ボランティアとして、それぞれの立場で、それぞれのHIVについて語り合います(途中入場・録音・撮影

はできません)。

このセッションでは、H.I.Voiceからのスピーカーによる体験談と、それをふまえた上での会場の人たちとの意見交換が行われた。話された内容については参加者の守秘義務があるため、ここでは述べられませんが、活発な意見交換があり、会場で話せなかった人には別紙が渡され、そこで意見を述べるとい形になっていた。

今、PWH/Aの方やそのまわりで、具体的にどのようなことが起こっていて、どのようなことに困難を感じるのか？ 実際の体験から出る言葉は、とても説得力があった。

いろんな立場の人のいろんな意見が聞けてとても感銘を受けた。H.I.Voiceの行っている試みは、通信誌を通じた言葉のやり取りが主である。この地に足の着いた地道な試みこそが、エイズを考える上での最も基礎となるところではないだろうか？

7年目を迎えた市民による市民のためのフォーラム

# 「2000AIDS文化フォーラム

## in横浜」参加報告

今年8月4日(金)～8月5日(日)まで、かながわ県民センター(神奈川県横浜市)にて2000AIDS文化フォーラムin横浜が開催されました。94年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに始まったこのフォーラムは今年で7回目。会場運営は約100名の手弁当のボランティアによって支えられ、講演やワークショップ等のプログラム数は64にのぼり、3801名の参加があったそうです。これほど多彩なグループ・個人が発表や展示を行なうイベントは日本で他に例のないものでしょう。その全てを紹介することはできませんが、当日の雰囲気を感じていただければ幸いです。

8月4日(金) 10時～12時

### 岡田美里と語るエイズ

現在、女性誌の表紙を最も多く飾っている女性のひとりである岡田美里さん。彼女は92年に夫とともに「堺正章エイズ基金」を設立し、代表を務めています。日本の芸能界においてPHA(People with HIV/AIDS)と直接に交流をもち、支えている活動をトーク形式で紹介します。(プログラム紹介文より。以下同) 開会式の前にホールで行われたこの講座には多くの人が集まりました。「堺正章エイズ基金」はチャ



リティゴルフコンペがきっかけとなり設立され、公的機関より支援を受けていないエイズおよびHIV支援団体への援助を主に行っている。設立当時、マスコミに大き

# LAP

Life AIDS Project  
**NEWS LETTER**

**Vol.30**



**2000.9.**

「2000 A I D S文化フォーラム in 横浜」報告書

発行日：2001年3月31日

発行：A I D S文化フォーラム事務局

発行者：山根誠之

編集：「2000A I D S文化フォーラム in 横浜」報告書作成委員会

印刷：東京コロニー